

SUBARU.

SAMBAR
660

取扱説明書

ご使用になる前に、安全のため必ずお読みください。

このたびはスバル車をお買い上げいただき

ありがとうございます。

この本は、各部の取り扱いや万一の応急処置、
さらにお車の手入れのしかたなど必要な情報を
説明しています。

安全で快適なドライブをお楽しみいただくため
に、ご使用前に必ずお読みください。

- グレード別装備品には  マークがついています。詳細はスバル販売店にご相談ください。

- 取り扱い上注意していただきたいことには  マークを、ぜひ知っておいていただきたいことに  マークをつけてあります。

- ご不明な点は担当セールスマントにおたずねください。
取扱説明書は別冊の「整備手帳」とともにいつもお車に保管してください。
お車をゆずられるときは、次に所有されるかたのためにこの本をお車につけておいてください。

装備仕様の変更により、この本の内容と車が一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次・操作

2

必読！ご使用にあたって

〈安全快適走行のチェックポイント〉

5



車体各部の開閉

キー、ドアの開閉、燃料補給口、リヤゲートの開閉、トランクのゲート、トラップドア

17



シート、シートベルト、ミラーの調整

26



メーターの見かた

36



スイッチの使いかた

ライティングスイッチ、方向指示レバー、ワイパー・ウォッシャースイッチ、ハザードランプ

43



運転装置の使いかた

エンジンスイッチ、エンジンの始動・停止、ECVT車の運転、4WD車の運転

48



装備品の使いかた

ヒーター・エアコン、ラジオ、シガーライター、灰皿サンバイザー、サンサンルーフ

62



点検整備と車の手入れ

運行前点検、定期点検、簡単な整備、洗車、ワックス掛け、内装の手入れ、保管

85



万一のとき

工具、ジャッキ、スペアタイヤ、タイヤ交換、けん引、ヒューズ交換、オーバーヒート

113



寒冷地の使いかた

冬に入る前の点検と準備、走行前の点検、走行中の注意、洗車、タイヤチェーン

125

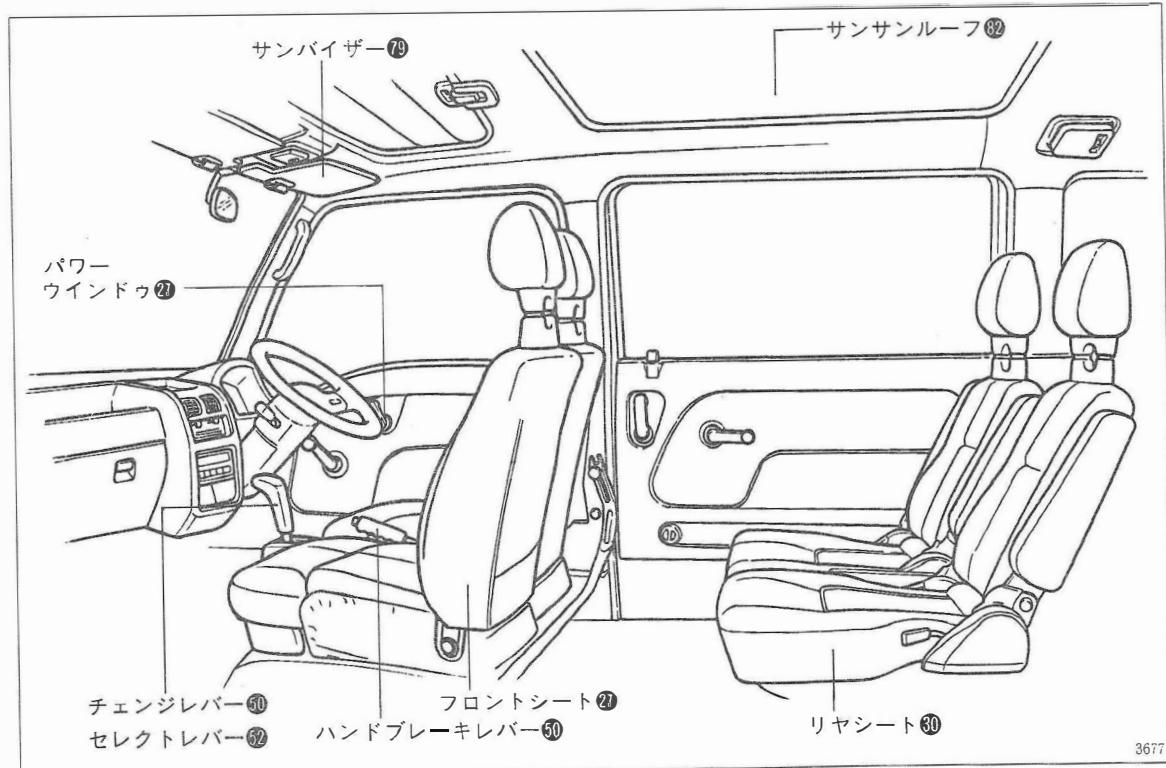
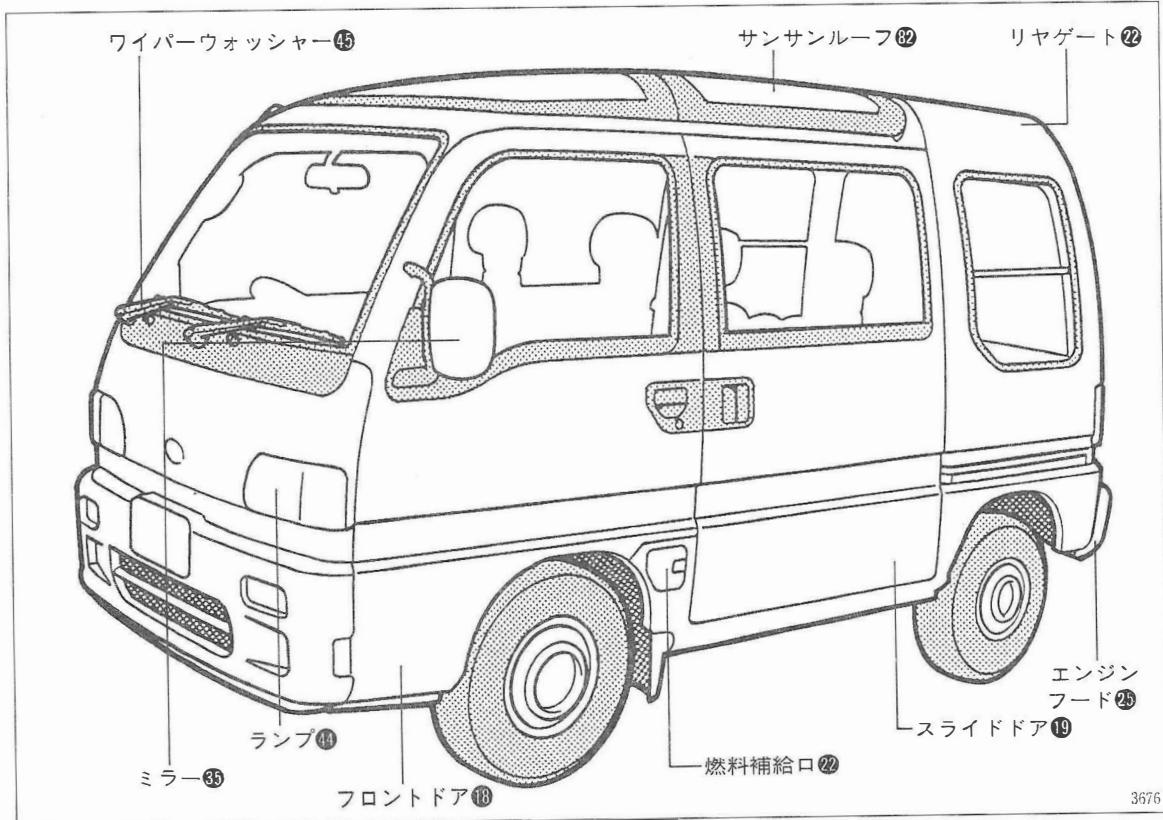
サービスデータ

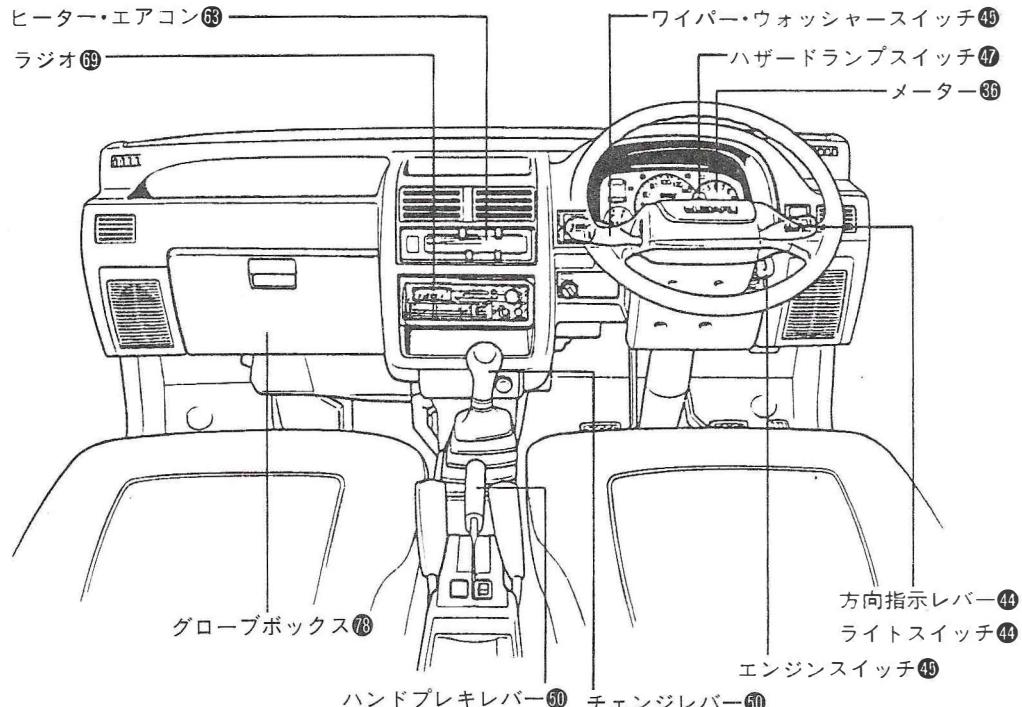
131

さくいん

134

2 目次・操作

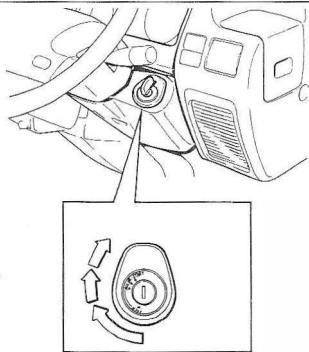




3678

操作方法を簡単にまとめたものです。詳しくは本文を参照してください。

エンジンスイッチ 49



3679

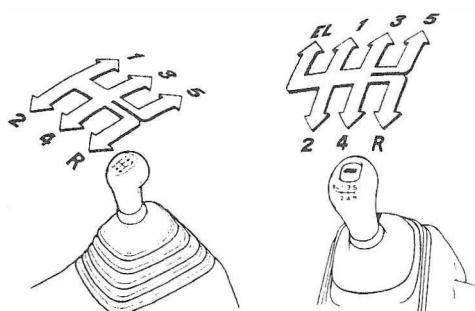
☆キーインターロック(ECVT車)

セレクトレバーが[P]に入っているときのみ
キーを抜くことができます。

ただし、セレクトレバーから手を放さない
と[P]に入れてもキーを抜くことはできません。

(解除ボタンもついています)

ギヤチェンジ 50



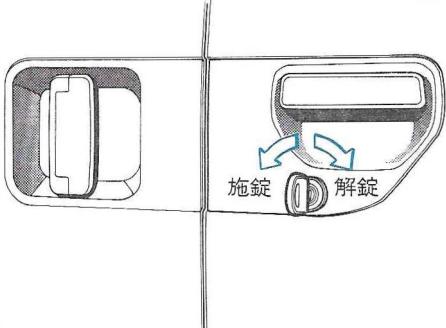
2831

☆シフトロックシステム(ECVT車)

- ①エンジンスイッチON、ブレーキペダル
を踏んだまま[P]から動かします。
- ②[R]に入れるとブザーが鳴ります。
- ③解除ボタンもついています。

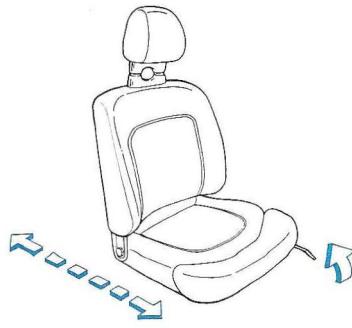
4 目次・操作

ドアの開閉 18



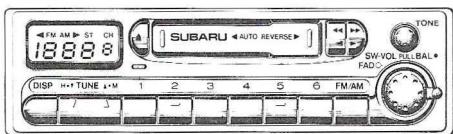
2736

シートの調整 27



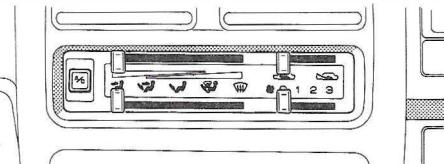
3680

ラジオ 69



3906

ヒーター・エアコン 69



2867

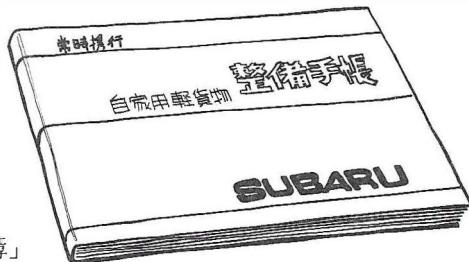
整備手帳もあわせてご覧ください

整備手帳には次の大切な内容が書かれています。

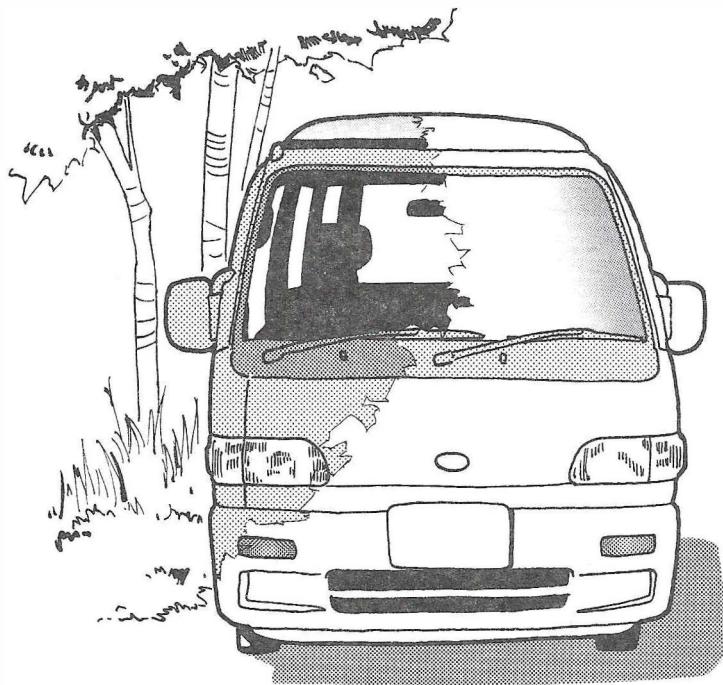
- 保証書
- 定期点検整備について
- 点検整備方式
- 定期点検整備記録簿
- スバルサービス網一覧

必ずお読みの上ご使用ください。

なお、整備手帳にとじてあります「定期点検整備記録簿」は法令で携行が義務付けられています。



2928



2707

- 運転する前に ⑥
- エンジンを始動するとき ⑦
- ECVT車を運転するとき ⑧
- シフトロックシステムについて ⑨
- 一般走行するとき ⑩
- 高速走行するとき ⑪
- お子さまを乗せるとき ⑫
- 駐停車するとき ⑬
- 車への心づかい ⑭
- 車のトラブルを避けるために ⑮
- こんなときには ⑯

運転する前に

■必ず運行前点検を！86

故障を未然に防ぐため1日1回、走行開始前に運行前点検を実施しましょう。



2711

■危険物の持ち込みはやめて！

燃料の入った容器やスプレー缶類を車内に持ち込むと、気化したガスに引火したり、容器が破損した場合、非常に危険です。



2556

■シートベルトはしっかりと！33

シート、ミラーを最適な位置に調整後、上腹部をさけ、腰骨にしっかりと装着してください。腹部は万一のとき圧迫を受け危険な場合があります。



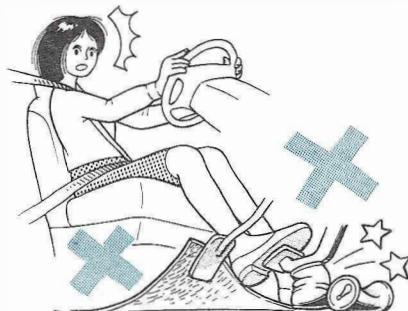
2558

■運転席の足元はすっきりと！

運転席付近に物を置くと危険です。

フロアマットは正しく敷いてください。

フロアに物がころがってブレーキペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなるなど危険です。また、フロアマットがアクセルペダルに引っかかるないように正しく敷いてください。ペダル操作が確実にできないおそれがあります。



2557

■荷物を積むとき！

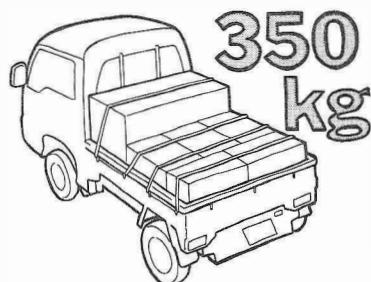
- 荷物は、必ず指定積載重量まで

トラック系 パネルバン系	: 350kg
-----------------	---------

バン系	2人乗りのとき : 350kg
	4人乗りのとき : 200kg

ディアス系	2人乗りのとき : 200kg
	4人乗りのとき : 100kg

- 室内にシートの高さ以上に荷物を積まない。
後方の確認ができなくなったり、急ブレーキをかけたとき、荷物が飛び出して危険です。
- 重い荷物は、できるだけ前の方に積んでください。
- 荷くずれしないようしっかりと固定してください。



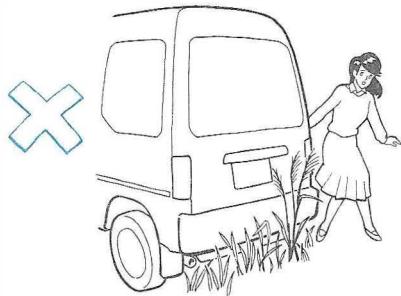
2714

エンジンを始動するとき

7

■車両の後方に気をつけて！

車両後方や排気管のまわりに燃えやすい物がないか確かめてください。排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。



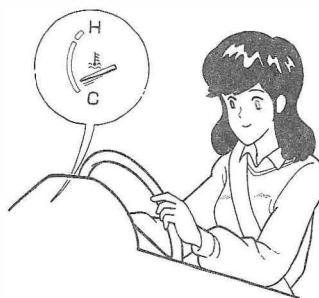
2716

■必ず暖機運転！

水温計が動き始めるまで暖機運転しましょう。長すぎると燃料がムダになります。

☆枯草や紙、油、木材など燃えやすい物がある

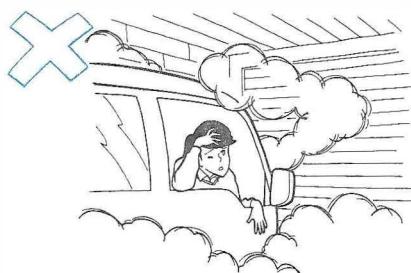
ところで暖機運転しないでください。排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。



2718

■換気に気をつけて！

密閉した車庫などでエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒を起こす危険があります。



2717

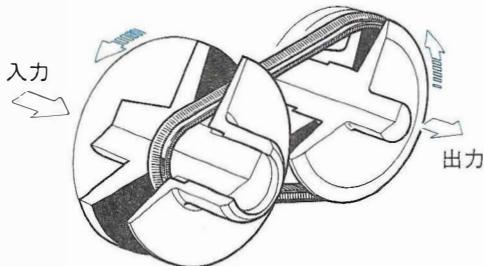
■ECVT車はPレンジで始動！

必ず、セレクトレバーをPレンジにして始動してください。

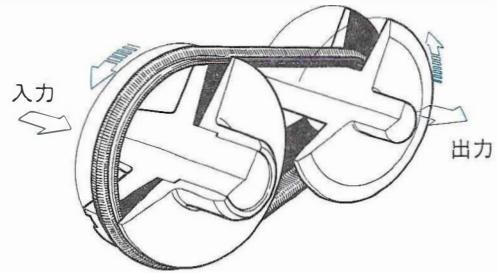
ECVT車を運転するとき

ECVT車はコンピューターで制御された電磁クラッチと、ローからオーバードライブ領域まで走行条件に応じて無段階に変速する自動変速機を組み合わせ、運転操作のイージー化をはかったものです。操作の負担が軽くなり運転が楽になります。

ECVT車の特長をよく理解し、正しく操作する習慣をつけ、安全に運転してください。



【ロー状態】



【オーバードライブ状態】

2603

■アクセルペダルの操作は慎重に！

手動変速機車は発進時のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、ECVT車はアクセル操作のみで行います。アクセルペダルを踏み込むとエンジン回転に比例した電流がクラッチに流れ、スムーズな発進を可能にしています。

ECVT車は発進から速度調整までをアクセルペダルの踏み加減で行いますので、アクセルペダルの操作は慎重に行ってください。



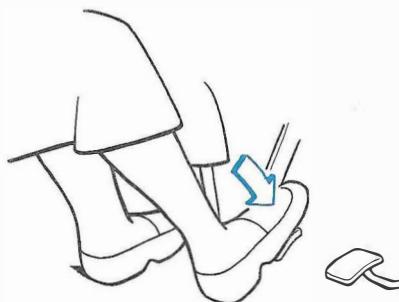
2834

■キックダウンができます。

走行中にアクセルペダルを踏み込むとキックダウンし急加速できます。これをキックダウンといい、追い越し時、高速道路の合流などのときに使います。

■運転の基本

①確実なブレーキ操作をするために必ず右足でブレーキペダルを踏んでください。不慣れな左足では適切なブレーキ操作ができず危険です。



2835

②走行中はNレンジにしないでください。エンジンブレーキが全く効かなくなるため思わぬ事故の原因になります。

③停車中は空ぶかしをしないでください。 ■ Nレンジ以外に入っていると、思わぬ急発進の原因になります。

④車を離れるときは必ずエンジンを停止してください。万一、P Nレンジ以外に入っていると、乗り込むとき誤って急発進することがあります。

■シフトロックシステムについて

ECVT車にはシフトロックシステムがあります。システムを理解して正しく操作してください。

シフトロックシステムについて

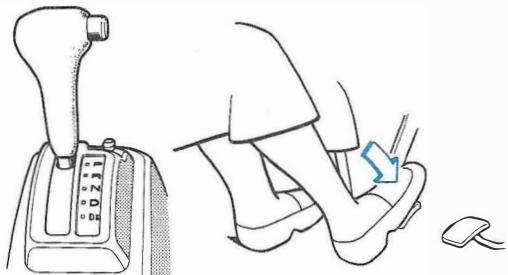
9

■ブレーキペダルを踏んでいないとPから他の位置にレバー操作はできません。(シフトロック)

エンジンスイッチ“ON”的ときにブレーキペダルを踏んでレバー操作をしてください。

セレクトレバーのノブを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。

☆エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”的ときはブレーキペダルを踏んでも操作できません。



2720

■Rに入れるとブザーが鳴ります。

(リバース位置警報)

セレクトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、車内の運転者に車が後退する状態であることを知らせます。

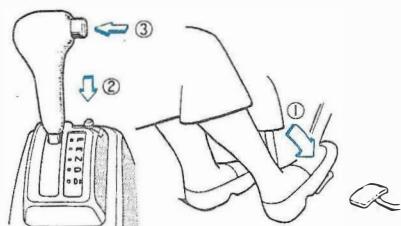
☆車外の人にブザーは聞こえませんのでご注意ください。



2721

■シフトロック解除ボタン

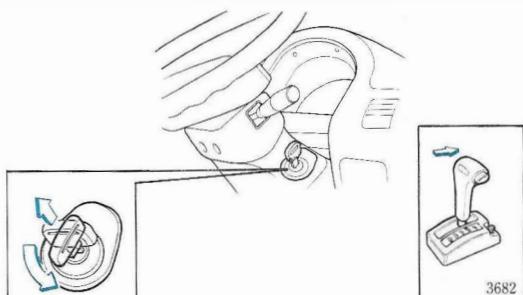
万一、システムの故障などでブレーキペダルを踏んでもPから他の位置にレバー操作できないときは、①ブレーキペダルを踏んで ②シフト解除ボタンを押しながら ③レバー操作してください。



2722

■Pに入っていないとエンジンスイッチが“ACC”から“OFF”に回らないでの、キーを抜くことはできません。Pに入っていてもセレクトレバーのノブから手を放さないとキーを抜くことはできません。

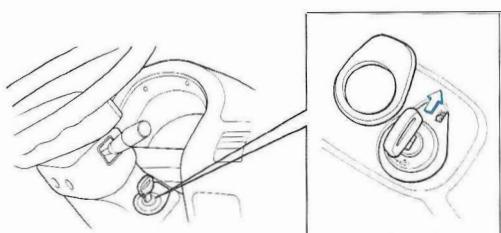
(キーインターロック)



3682

■キーが抜けなくなったとき

万一、システムの故障などでキーが抜けなくなったときは、キー外周のカバーを手前にははずし、中にある解除レバーを前に押してキーを抜いてください。



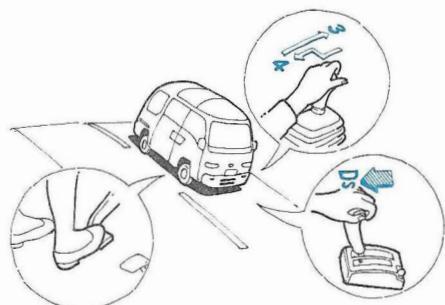
3683

一般走行するとき

■下り坂ではエンジンブレーキと併用!

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効かなくなることもあります。シフトダウンをしてエンジンブレーキを併用しましょう。

☆ぬれた路面、氷雪路でエンジン回転が急上昇するようなシフトダウンは避けてください。スリップの危険があります。



2725

■燃えやすい物の上は走らないで!

枯草、紙くずなど燃えやすい物の上は走らないでください。排気管や排気ガスの熱により着火することがあります。



2727

■水たまり走行や雨中走行するとき!

雨天時やぬれた道路では路面が滑りやすくなっています。通常より注意深い運転が必要です。ひかえ目な運転を心がけましょう。もし、ブレーキに水が入ってしまったときは、前後の車に注意して低速走行しながら効きが回復するまでブレーキペダルを軽く数回踏んでください。

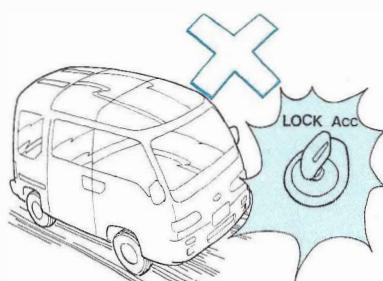


2726

■走行中はエンジンを止めないで!

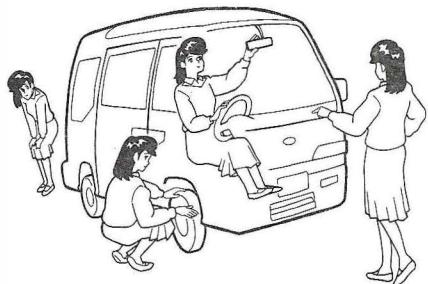
走行中エンジンを止めると

- ①触媒を焼損することがあります。
- ②ブレーキ倍力装置が作用しないため、効きが悪くなります。
- ③各種警告灯が点灯しなくなり危険です。
走行中エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを通常より強く踏んで、ハンドルを確実に操作してください。



3684

■必ず運行前点検を 86



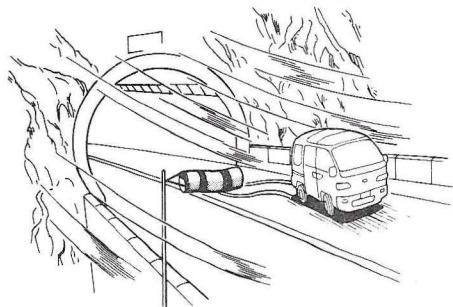
2711

■車間距離は十分に！

高速走行時の急ブレーキは非常に危険です。余裕ある車間距離を保ちましょう。

■横風に注意！

トンネル出口、橋や土手の上、切通しの部分など横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかりと握り、安全な速度で走行してください。横風を受けて車が横に流されることがあります。



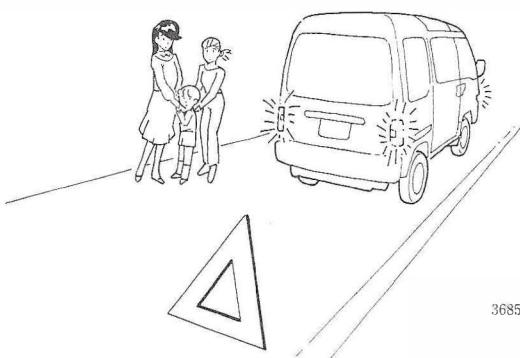
2729

■故障したとき

- ①車を路側帯によせ
- ②非常点滅灯を使用し
- ③停止表示板を車の後方に置いて追突事故を防ぐ処置をしてください。(法律で定められています)

停止表示板は常時積んでおきましょう。

人は車内に残らず、周囲の交通に注意しながら、安全な場所に避難してください。

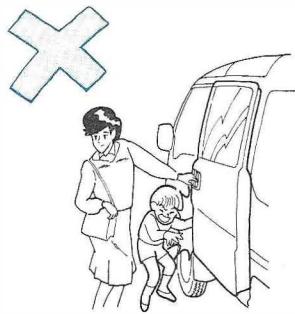


3685

お子さまを乗せるとき

■ドアの開閉に注意して！

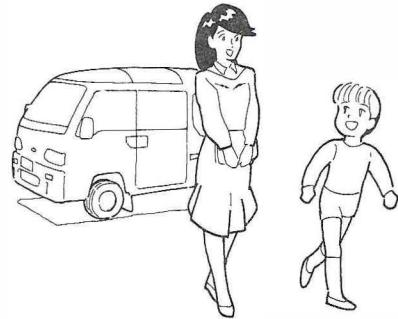
ドアを閉めるとき、お子さまの手や足をはさまないよう注意しましょう。開閉・施錠は、必ずおとなが行ってください。



2731

■車から離れるときは一緒に！

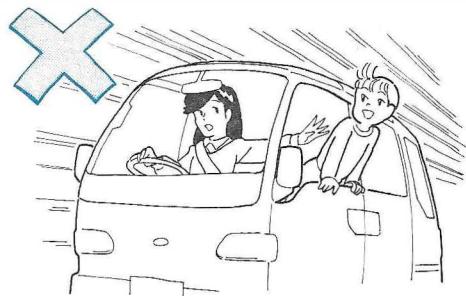
車内に残しておくと、いたずらによる発進や火災の原因になったり、炎天下では車内が高温になり、思わぬ事故が起こるおそれがあります。



2732

■窓から顔や手を出さないで！

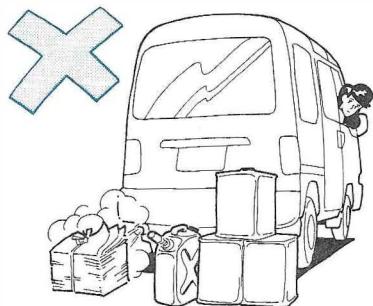
窓やサンルーフから顔や手、身体の乗り出しはたいへん危険です。思いがけないけがをすることがあります。



2733

■安全な場所に！

枯草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには駐停車しないでください。排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。車の後方に木材、ベニヤ板など燃えやすい物があるときは、車両後端より30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスが当たって変色や変形したり、万一の場合、着火する危険があります。

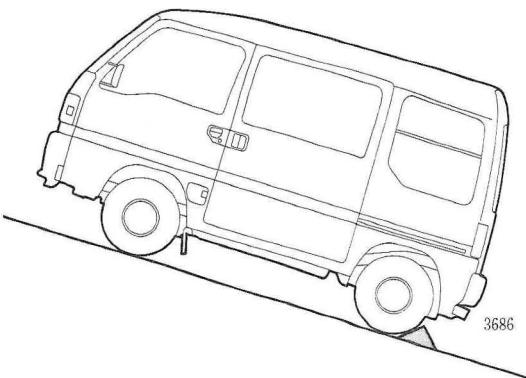


2734

■坂道に駐車するとき！

坂道に駐車して車から離れるときは、安全のため次の処置をしてください。

- ①ハンドブレーキレバーをいっぱいに引き、車が動き出さないことを確認します。
- ②チェンジレバーを①か⑧(ECVT車は⑩)に入れます。
- ③輪止め(石やタイヤストッパー)をします。
なお、急坂での駐車は避けてください。



3686

■いきなり開けないで！

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認しましょう。うしろから来る車、オートバイや自転車などの妨害になり危険です。

■エンジンルームファンが作動しています！

スーパーチャージャー車にはエンジンルームファンが取り付けてあり、エンジンを停止してもエンジンルームの温度が高い状態では、作動します。エンジンルームが冷えると停止します。

■車から離れるときは！

車の盗難や火災などを防ぐため、必ずエンジンを停止させ、必ずドアを施錠してください。



3687

■仮眠するときは必ずエンジンを止めて！

仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災を起こすおそれがあります。

また、風通しのよくない場所では、ガス中毒が起こるおそれがあります。

車への心づかい

■必ず無鉛ガソリンを！

燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。有鉛ガソリンは触媒を劣化させますので使用しないでください。また、粗悪なガソリンや不適切な燃料添加剤を使用すると、エンジン各部に悪影響を与えますのでご注意ください。

■慣らし運転を！

車両各部を円滑になじませ、いつまでも高性能を維持するため、新車の慣らし走行中は、ひかえ目な運転を心がけましょう。

■クラッチペダルの足のせ運転はやめて！

すべりの発生や性能低下とともに燃料消費が増加します。クラッチの摩耗、損傷を防ぐためにも、ペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。

■経済的な運転！

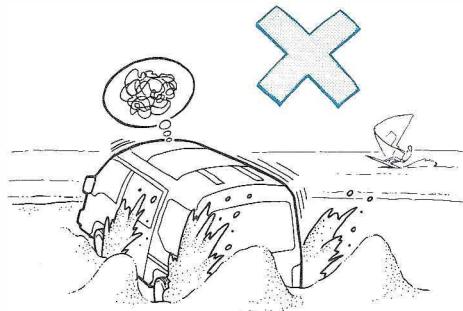
不必要的急発進、急加速、急ブレーキは慎しましょう。燃料消費が多くなり、車の寿命も縮めます。

■適切な速度範囲(平坦路)

変速位置	速 度 範 囲	
	5速車	スーパー・チャージャー車
1速	0～20km/h	0～20km/h
2速	10～35km/h	10～40km/h
3速	20～55km/h	20～60km/h
4速	30km/h～	30km/h～
5速	40km/h～	40km/h～

■4WD車について！

4WD車は万能車ではありません。深い砂地、河川や海岸へは乗り入れないようにしましょう。やむを得ず走行したときは、ブレーキが正しく効くことを確認してください。また、走行後各部を念入りに洗ってください。



2862

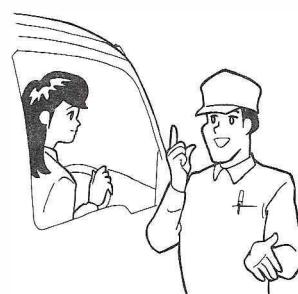
■新車点検！

新車点検は必ず受けましょう。

- ・新車1か月点検

■自己流のエンジン調整・部品の取り外しは行わないで！

ご自分のエンジン調整や部品・配管などの取り外しはやめましょう。故障や火災など思わぬ事故の原因になります。



3018

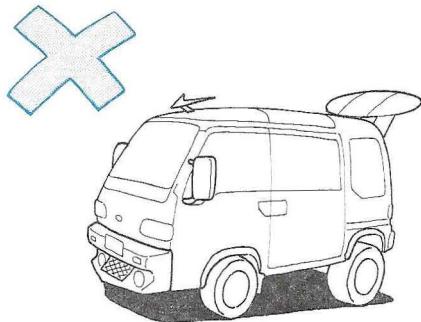
車のトラブルを避けるために

15

■オプション部品を取り付けるとき！

車の性能や機能に適さない部品を装着すると、思いがけない事故が発生するおそれがあります。

☆スバルが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると違反になることがあります。アクセサリーなどを取り付けるときは、必ずスバル販売店にご相談ください。



3688

■純正部品を使いましょう！

オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、必ず、スバル純正部品を使用しましょう。

純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。



0045

■無線装置を取り付けるときは！

取り付け・取り扱いを誤りますと、電子制御機器に異状が起きことがあります。

必ず、スバル販売店にご相談ください。



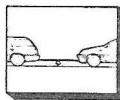
3689

こんなときは



■警告灯が点灯したとき 36

走行中に点灯したときは、すぐに安全な処置をしてください。



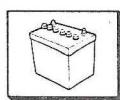
■けん引するとき 119

エンジン停止時はブレーキの効きが低下し、ハンドルが重くなりますのでご注意ください。車種と故障内容に適した方法でけん引してください。



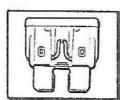
■オーバーヒートしたとき 123

あわててラジエータキャップをはずさないでください。
熱湯が吹き出し危険です。



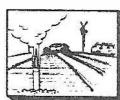
■バッテリーあがりのとき 123

車を押したり、引いたりしてエンジンを始動しないでください。



■ヒューズが切れたとき 111

必ず指定容量のヒューズと交換してください。
針金や銀紙などは使用しないでください。



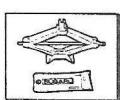
■踏切でエンストしたとき 123

付近に人がいるときは押してもらってください。
急を要するときは発炎筒で合図してください。



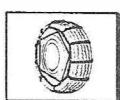
■パンクしたとき 111

ゆっくりスピードを落としながら安全な場所に止め、
タイヤ交換してください。



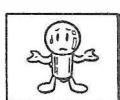
■ジャッキ、工具、スペアタイヤ 123

必ず、車内の決められた場所に格納しておきましょう。



■タイヤチェーンをつけるとき 128

車を安全な場所に止め、「スバル純正タイヤチェーン」を
後輪に取り付けてください。



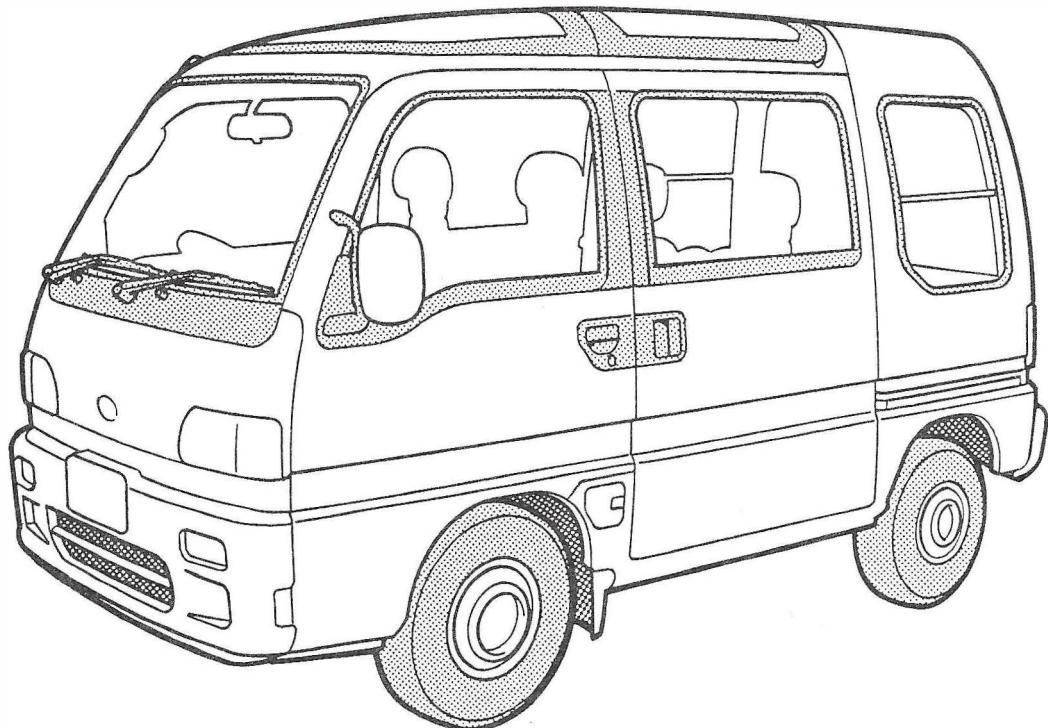
■ランプ類が点灯しないとき 104

ヒューズ切れの他、ランプ自体の球切れが考えられます。
必ず、同容量のものと交換してください。



車体各部の開閉

17



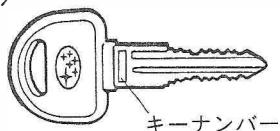
3676

■ キー	⑯
■ フロントドアの開閉	⑯
■ スライドドアの開閉(ディアス、バン)	⑰
■ 集中ドアロック	⑰
■ スライドドアの開閉(パネルバン)	⑲
■ スライドドアのウインドウの開閉	⑲
■ パワーウインドウ	⑳
■ 燃料補給口	㉑
■ ディアス、バンのリヤゲートの開閉	㉑
■ パネルバンのリヤゲートの開閉	㉒
■ トランクのゲートの開閉	㉓
■ トランプドア	㉔
■ エンジンフード	㉕

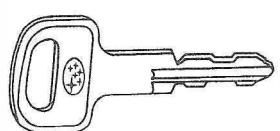


キー、ドアの開閉

<ディアス>



<トラック、バン>

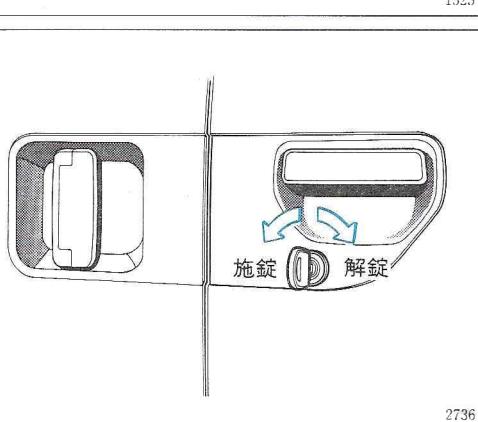


1525

キー

キーはエンジン始動や停止のほかに、ドアの施錠、解錠やリヤゲートの施錠、解錠など車を運転するためになくてはならないものです。大切に管理してください。

一言 万一の紛失に備え、キーナンバーをメモしておくと便利です。

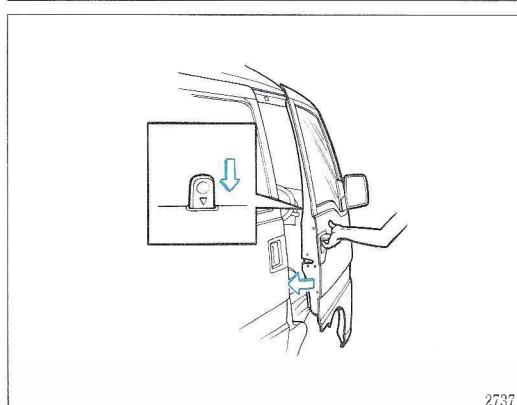


2736

フロントドアの開閉

■車外からの施錠、解錠

キーを確実に差し込んでまわします。キーを前にまわすと解錠され、後ろにまわすと施錠されます。

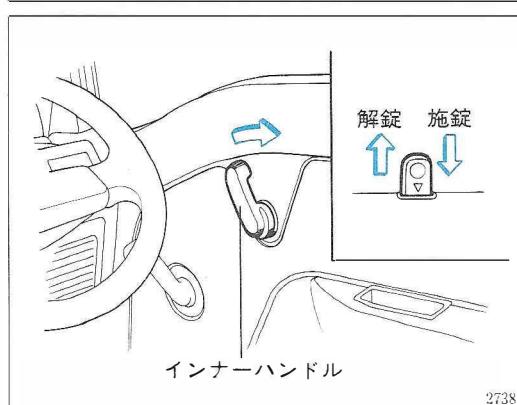


2737

■車外からキーなしで施錠するとき

- ①セフティノブを押し下げ、施錠状態にします。
- ②アウターハンドルを引き上げたまま
- ③ドアを閉めます。

注意 車内にキーを置き忘れないようご注意ください。



2738

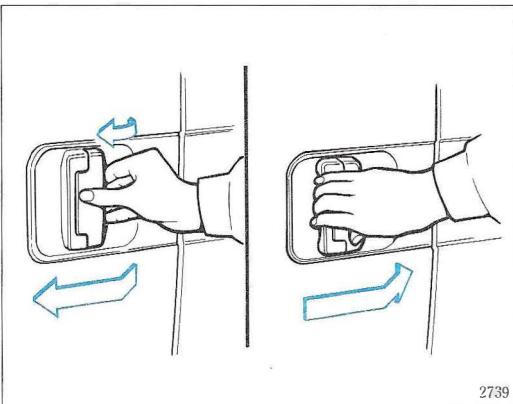
■車内からの施錠、解錠

▶施錠するとき

アームレストまたはプルハンドルを握り、確実にドアを閉め、セフティノブを押し下げると、施錠されます。

▶解錠するとき

セフティノブを持ち上げて解錠状態にし、インナーハンドルを引いて、ドアをあけます。



スライドドアの開閉(ディアス、バン)

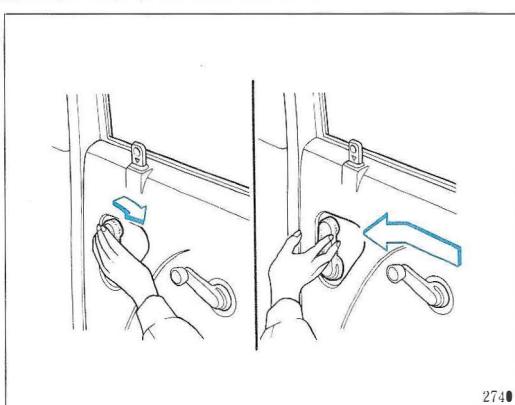
■車外からの開閉

▶あけるとき

セフティノブを解錠状態にしてアウターハンドルを引き、後にスライドさせます。

▶閉めるとき

アウターハンドルを持ち、完全に閉まるまで前にスライドさせます。(セフティノブを押し下げてから完全に閉めると施錠されます。)



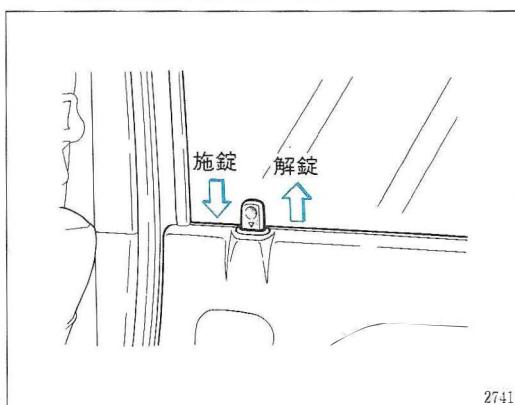
■室内からの開閉

▶あけるとき

インナーハンドルを引いたまま後にスライドさせます。

▶閉めるとき

インナーハンドルを押して完全に閉まるまで前にスライドさせます。



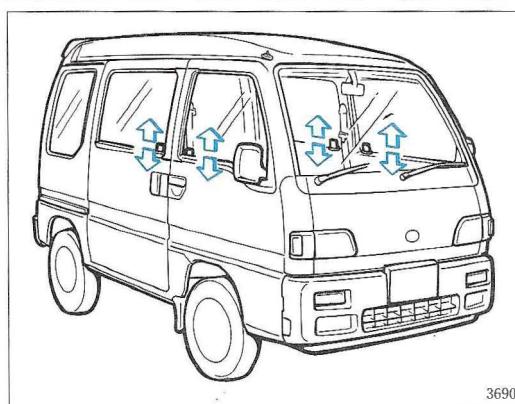
■室内からの施錠、解錠

▶施錠

セフティノブを押し下げます。

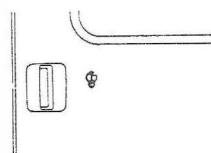
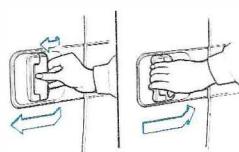
▶解錠

セフティノブを引き上げます。



集中ドアロック

運転席ドアを施錠、解錠するだけで、全てのドアの施錠、解錠が同時にできます。



2739, 2743

スライドドアの開閉(パネルバン)

■車外からの施錠、解錠

キーを確実に差し込んで前にまわすと解錠され、後ろにまわすと施錠されます。

■車外からの開閉

▶開けるとき

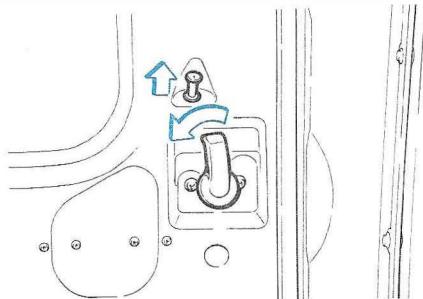
解錠してアウターハンドルを引き、後にスライドさせます。

▶閉めるとき

アウターハンドルを持ち、完全に閉まるまで前にスライドさせます。

■車外から施錠されているとき

荷室内にとじ込められたときなどは、荷室側のセフティノブを引き上げてインナーハンドルを矢印方向に引くと解錠され、そのまま後にスライドさせれば開けることができます。



2744

■ドアを開閉、施錠、解錠するとき

- ・車外からキーを使わずに施錠するとき、車内にキーを置き忘れないようにご注意ください。
- ・ドアを閉めたときは、確実に閉まっていることを確認してください。半ドアでは走行中に開くおそれがあり危険です。
- ・ドアをあけるときは、必ず後方からくる車との安全を確認してください。不用意に開けると後続車などにぶつかるおそれがあり危険です。
- ・車内の見えるところに貴重品などを置かないようにしましょう。
- ・車外から施錠したときは、念のためドアが開かないことを確認してください。
- ・車から離れるときはエンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。法的にも義務づけられています。

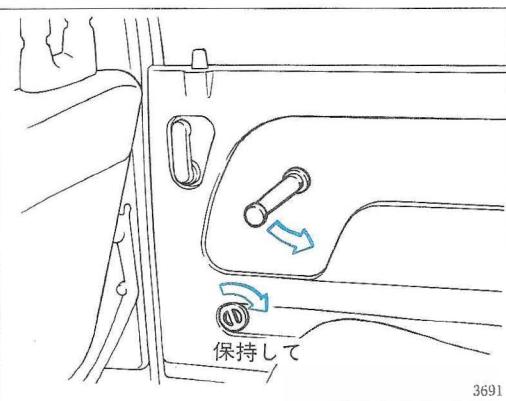
スライドドアのウインドウの開閉

スライドドアのウインドウは全閉しません。

トライ系のみ、ロック解除ノブを矢印方向にまわして保持しながらレギュレーターハンドルを回すと全開します。



ノブがまわせないときは、ウインドウを一度少し閉めて(レギュレーターハンドルを半分位逆にまわす)からノブをまわしてください。



3691

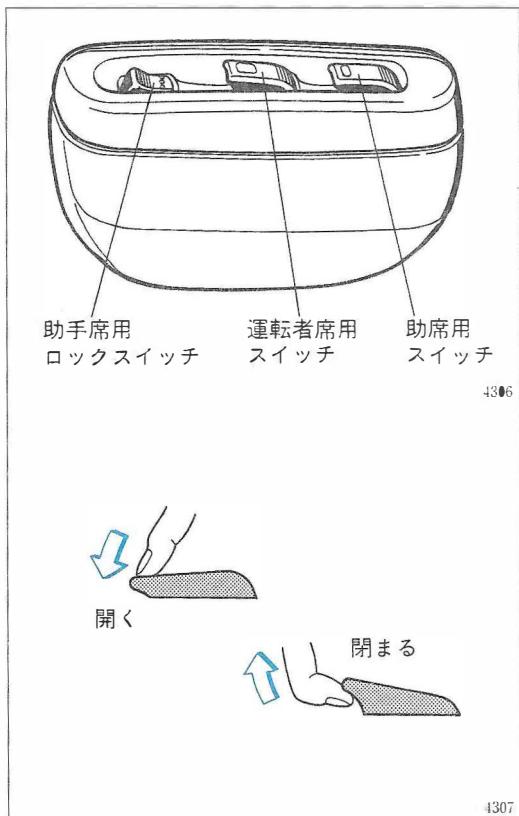


パワーウィンドウ

パワーウィンドウはエンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

- (1)運転席用スイッチにはオート機能がついています。
- (2)運転席にあるスイッチで助手席のウインドウガラスの開閉ができます。
- (3)運転席で助手席のウインドウガラスの開閉をできなくすることができます。
- (4)助手席でもウインドウガラスの開閉ができます。

注意 車を離れるとき、お子さまのいたずらが心配されるときは、安全のためキーを抜いておいてください。



■運転席スイッチ

▶運転席ウインドウガラスの開閉

①開けるとき

- ・軽く押すと、押している間下降し、手を放した位置で停止します。
- ・“カチッ”と音がするまで押すと、手を放しても自動で全開の位置まで動きます。途中で止めるときは、軽く引き上げます。

②閉めるとき

- ・軽く引き上げると、引き上げている間上昇し、手を放した位置で停止します。
- ・“カチッ”と音がするまで引き上げると、手を放しても自動で全閉の位置まで動きます。途中で止めるときは、軽く押します。

▶助手席ウインドウガラスの開閉

押している(引き上げている)間下降(上昇)し、手を放した位置で停止します。

▶ウインドウガラスのロック

“LOCK”スイッチを押すと助手席のウインドウガラスは開閉できなくなります。

解除するには再席押します。



- ・お子さまが各スイッチをいたずらして手や首をはさむと危険です。お子さまを乗せているときなどは必ずロックにしてご使用ください。
- ・ウインドウガラスを閉めるときに他の人の手や首などをはさまないようにご注意ください。

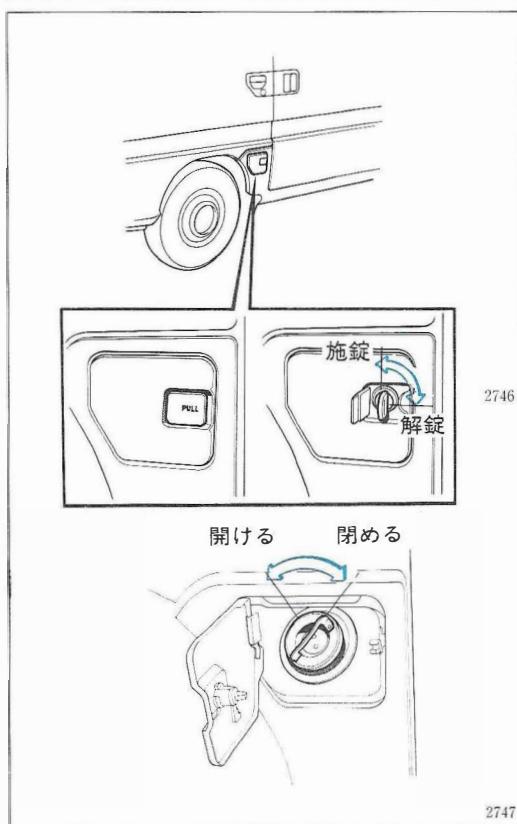


パワーウィンドウ、燃料補給口、リヤゲートの開閉



■助手席スイッチ

助手席ウインドゥガラスを開閉します。スイッチを押している間下降し、手を放した位置で停止します。
引き上げると上昇します。



燃料補給口

車体左側のフロントホイールアーチ後側にあり、キーで開閉します。燃料タンク容量は約40ℓです。

■フラップの開閉

▶あけるとき

- ①キーロックのキャップを手前に引いてあけます。
- ②キーを確実に差し込んで後にまわし、解錠します。
- ③そのまま手前に引いてフラップをあけます。

▶閉めるとき

- ①フラップを確実に閉じ、キーを元に戻して施錠します。
- ②キーを抜いてキャップを確実に閉めておきます。

■フューエルキャップの開閉

▶開けるとき

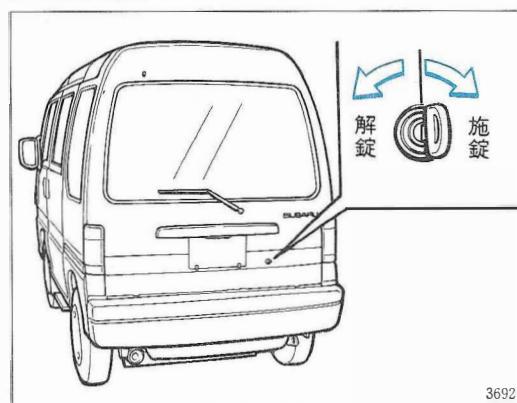
左にまわしてはすします。

▶閉めるとき

右にまわし、確実に閉めてください。



注意 燃料補給のときは、必ずエンジンを停止してください。



ディアス、バンのリヤゲートの開閉

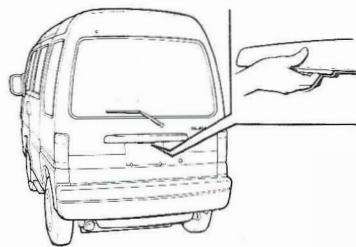
■施錠、解錠

▶キーによる施錠、解錠

キーを確実に差し込んで右に回すと施錠、左に回すと解錠されます。



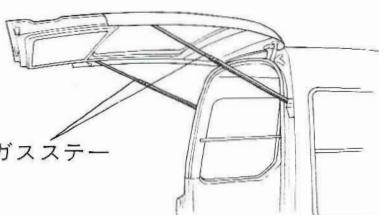
一言 施錠前に半ドアでないことを確認してください。



3693



3694



3694

■開閉

▶開けるとき

アウターハンドルを引いて、ゆっくり、いっぱいまで持ち上げます。

▶閉めるとき

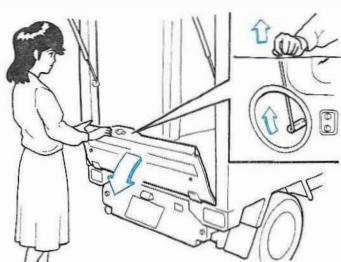
リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押えつけるように確実に閉めます。



- ・リヤゲートを開閉する際、ガスステーに手をかけないでください。ガスステーの故障の原因になります。
- ・完全に閉まっていることを確認してください。
- ・リヤゲートを開閉する際、開閉途中で一時的に止まる位置があります。そのまま放置しておくと、風・振動などで開閉してけがをしたり、破損したりするおそれがありますので注意してください。



2705



2753

パネルバンのリヤゲートの開閉

■施錠、解錠

キーを確実に差し込んで図のように回し、その位置で抜きます。

■開閉

▶開けるとき

- ①キーを使って解錠します。
- ②上側ドアのプッシュボタンを押し、上側ドアをゆっくり、いっぱいまで引き上げます。
- ③下側ドアのインナーハンドルを引き上げてロックをはずし、下側ドアを持って静かに降します。

▶閉めるとき

- ①下側ドアを持ち上げ、押しつけて確実にロックします。
- ②上側ドアをゆっくり下げて、上から手で押えつけるよう確実に閉めます。
- ③キーを使って施錠します。



トラックのゲート

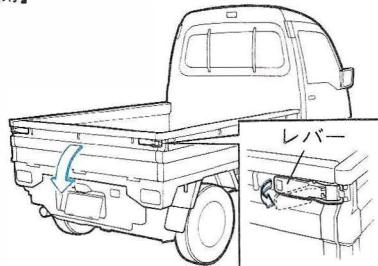
■リヤゲートを開閉するとき

- 必ず、キーを抜いて開閉してください。キーを差し込んだままバックドアを開閉すると、キー ホルダーなどで塗装面が傷つき、錆発生の原因になります。
- 走行中は、車内に排気ガスが侵入するのを防ぐためリヤゲートを完全に閉めてください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。足 元を汚すおそれがあります。

リヤゲートを閉め、荷物を積む。
荷物を積むときに、リヤゲートを倒して荷物を積む。

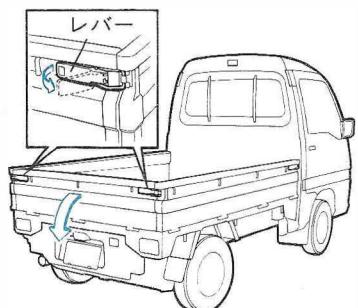
リヤゲートを倒して荷物を積む。
荷物を積むときに、リヤゲートを倒して荷物を積む。

【一方開】



3020

【三方開】



2756

トラックのゲートの開閉

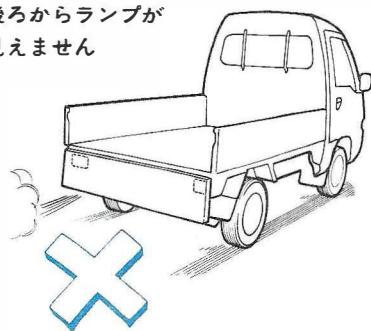
■ゲートの倒しかた

ゲートロックのレバーを引いてロックからはずし、ゲートを持って静かに倒します。



- 開けるとき、エンジンフードに当てないようにゲートを持って静かに倒してください。
- ゲートを倒したまま走行しないでください。ゲートを倒したまま走行すると、ゲートがバタついたり、尾灯・制動灯が後方から見えないので危険です。

後ろからランプが
見えません



3021

■ゲートの脱着

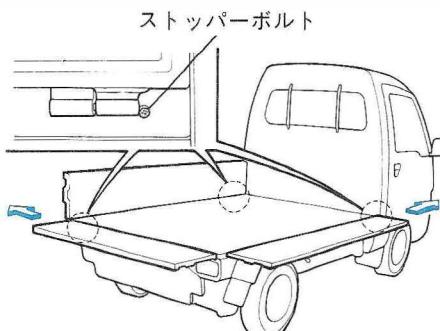
- ①ストッパー bolt をはずします。

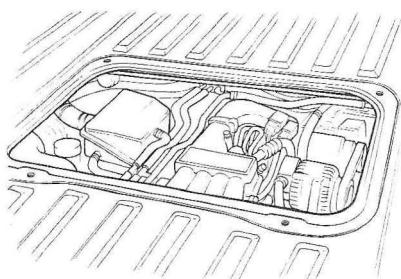
- ②ゲートを開いて水平にしっかり持ち、矢印方向にずらしてはずします。

►取り付けるとき

- ①リヤゲートは右端、サイドゲートは前から2番目のヒンジピンが他より長くなっています。これをガイドにして確実に差し込みます。
- ②ゲートを閉め、ストッパー bolt を取り付けます。

2757





2758

トラップドア

エンジン上部の点検・整備をするときなどに開けます。

■開けるとき

4本のスクリュをはずして取り外します。

[ディアス、バン系では荷物室のマットをめくっておきます。]

■閉めるとき

4か所のネジ穴を合わせてから4本のスクリュを確実に締め付けます。

エンジンフード

エンジン後部の点検・整備をするときなどに開けます。

■ディアス、バン

▶開けるとき

①リヤゲートを開けます。

②凶のレバーを左に押すと少し開きます。

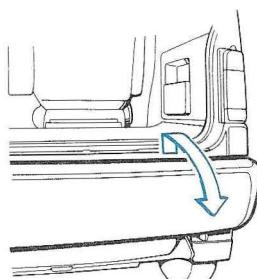
③リヤバンパーの右側を少し(約10mm)持ち上げ、両手で持って回転させます。

▶閉めるとき

リヤバンパーを両手で持って回転させ、押しつけるとロックされます。

注意

- ・排気管が近いので、走行直後や停車中にエンジンをまわしていると、下面が熱くなっていることがあります。触れるときは、やけどをしないよう手袋をはめて触れてください
- ・確実にロックしていることを確認後、走行してください。



2760

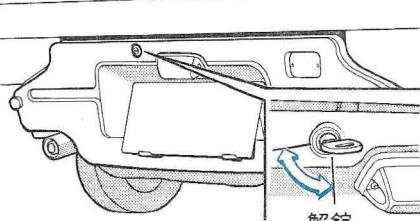
■トラック、パネルバン

▶開けるとき

キーを確実に差し込み、エンジンフードを押しながら解錠位置までまわし、エンジンフードを手前に引きます。

▶閉めるとき

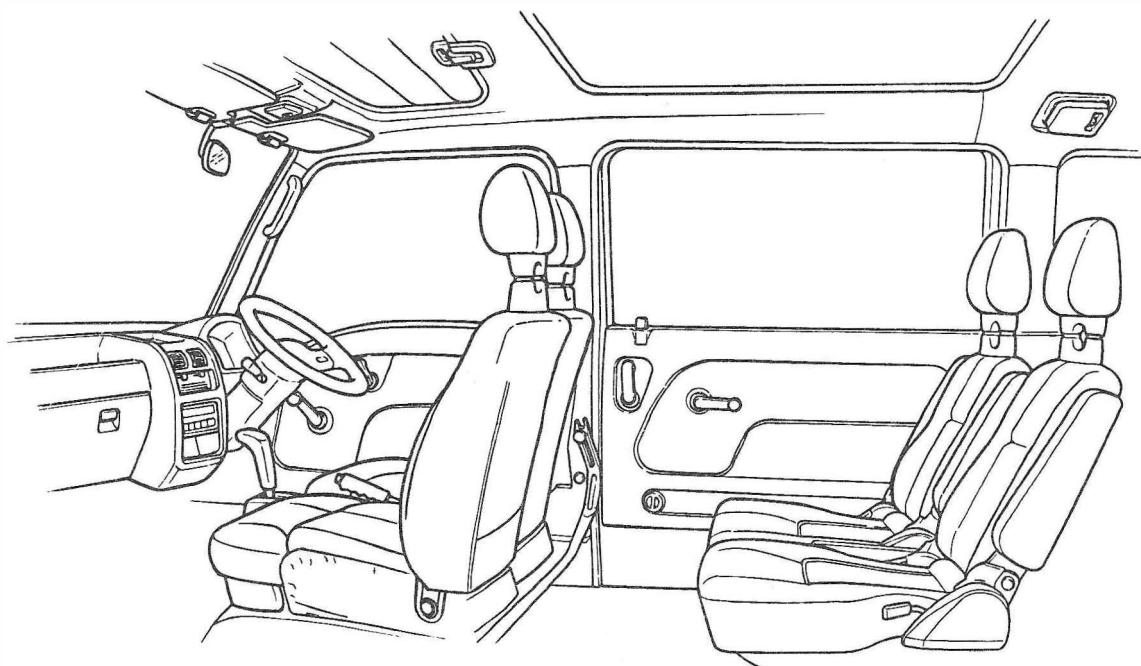
エンジンフードを確実に閉め、エンジンフードを押しながらキーを施錠位置まで戻し、抜きます。



2761



シート、シートベルト、ミラーの調整

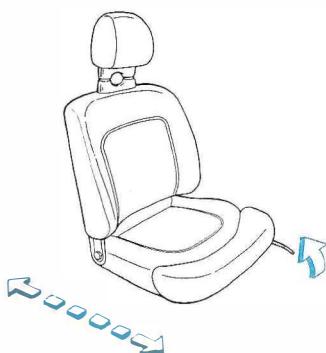


3677

■ フロントシート	27
■ 跳ね上げシート	28
■ 背当ての前倒し (トラック、パネルバンのみ)	28
■ 回転シート	29
■ ディアス系リヤセパレートシート	30
■ パン系リヤベンチシート (除く 2 シーター)	32
■ シートベルト	33
■ フロントシートベルト	33
■ ルームミラー	35
■ アウターミラー	35



2762



3680

フロントシート

シートは正しい運転姿勢がとれるように次の点に注意して調整します。

- ・ペダルが十分に踏み込めること。
- ・背当てから背中を離さなくても楽にハンドル操作ができること。
- ・シートベルトが正しく装着できること。

調整は必ず運転前に行い、調整後シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

■スライド調整(前後調整)

シートの下にあるレバーを引き上げるとロックがはずれ、前後に移動することができます。レバーを離した位置で固定されます。

■リクライニング調整(背当て角度調整)

背当てに背中をつけて背当て角度を調整します。

▶倒すとき

レバーを上に引いたまま、背中をもたせかけます。レバーを離した位置で固定されます。

▶起こすとき

レバーを上に引きながら、上体を起こせば背当ては自動的に戻ります。人がいないときは前に倒れます。

注意 背当ては必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルトの下に滑り込んだりしてシートベルト本来の機能をはたさず危険です。

■ヘッドレストの脱着

▶取り外すとき

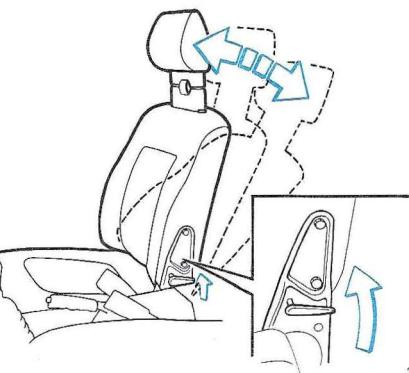
ノブを矢印方向に押したまま静かに持ち上げます。

▶取り付けるとき

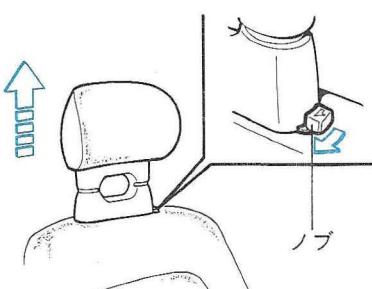
ヘッドレストの脚と背当ての差込部を合わせ、静かに押し下げます。

・ヘッドレストを外したままで運転しないでください。また、取り付け後は固定状態を確認してください。万一のとき外れて本来の機能をはたさないことがあります。

・取り付けるとき、ヘッドレストの下に手を入れないでください。はさまれえがをするおそれがあります。



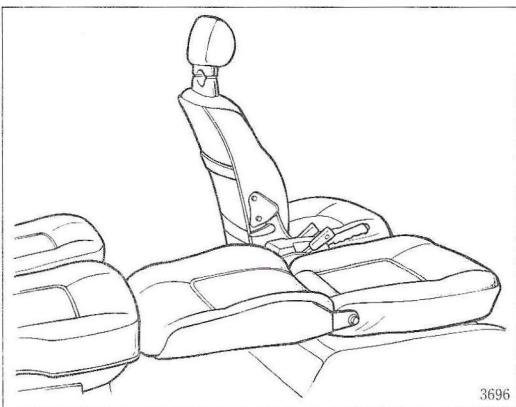
3695



2765



フロントシート



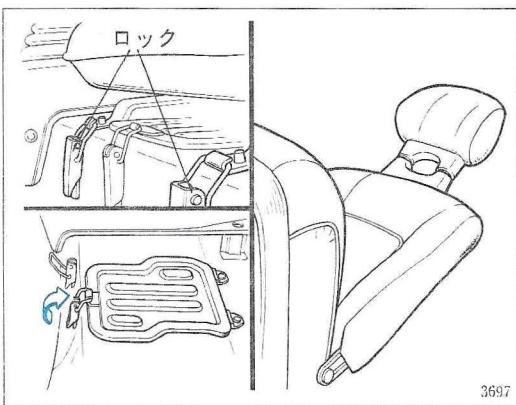
3696

■ フラットシートにするとき

- ①ガードバーAを格納します。
- ②ヘッドレストを取り外します。
- ③シートを最前位置まで移動させます。
- ④背当てを後に倒し、リヤシートとつなげます。



- ・シートの上を移動するときは、不安定なので十分注意してください。
- ・フラット状態で走行しないでください。安全な場所に止めたときだけ使用してください。



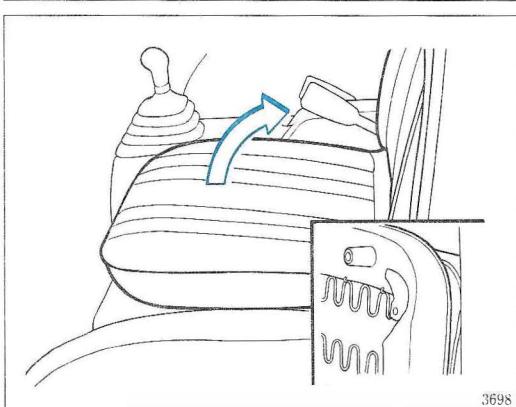
3697

跳ね上げシート

助手席シート床下のバッテリー、ラジエター、ウォッシャー液などを点検するとき使用します。

■ ディアス系

- ①リクライニングレバーを前に引き、背当てを前に倒します。
- ②クッション下側のロックを両方とも解除します。
- ③シート全体を後に回転させます。



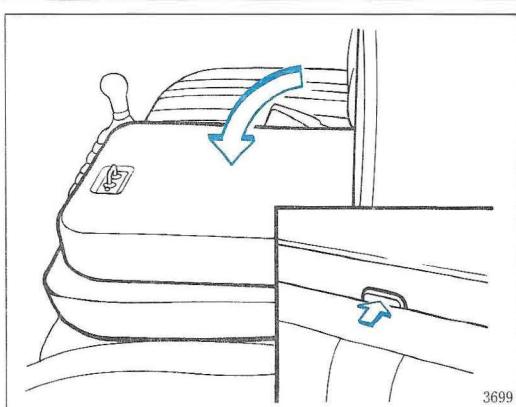
3698

■ トランク、パネルバン系

- ①シートのクッションに手をかけて引き起こします。



- ・跳ね上げた床面に荷物を乗せないでください。シートが倒れて荷物を破損したり、落下するおそれがあります。



3699

背当ての前倒し(トランク・パネルバンのみ)

運転席後部のジャッキ、ジャッキハンドルと助手席後部のリヤトレーより物を出し入れするとき、背当てを前に倒すことができます。

背当てを固定しているロックを解除して前に倒します。



・背当てを前に倒したとき、背当ての上には荷物を乗せないでください。シートが変形するおそれがあります。



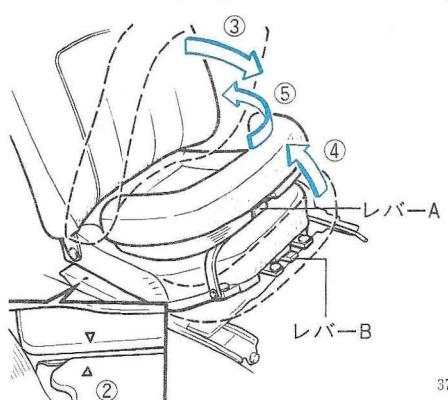
回転シート

■後向きにすること

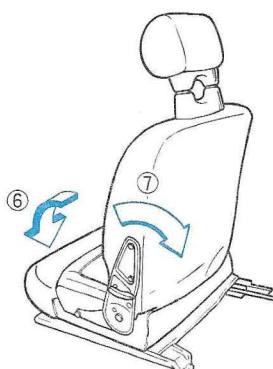
必ず運転席から先に後向きにします。助手席から先には回転できません。

- ①ガードバーAを格納します。
- ②スライド調整レバーを引き上げ、前後位置をマークに合わせます。
- ③リクライニング調整レバーを上に引き、背当てを前に倒します。
- ④クッション前側のレバーAを押し、クッション前縁部を斜め後方に持ち上げます。
- ⑤レバーBを押し下げたままシート全体を左回転に180度(ストップバーに当たるまで)回転させます。
助手席では右回転で180度になります。
- ⑥クッション前縁部を斜め前方(持ち上げたときと逆向き)に押し下げ、平らにします。
- ⑦背当てを起こします。

次に助手席も運転席と同様の手順で操作します。



3700



3701



3702

■前向きに戻すとき

助手席から前向きに戻します。後向きにすることと同様の手順で操作し、前向にします。

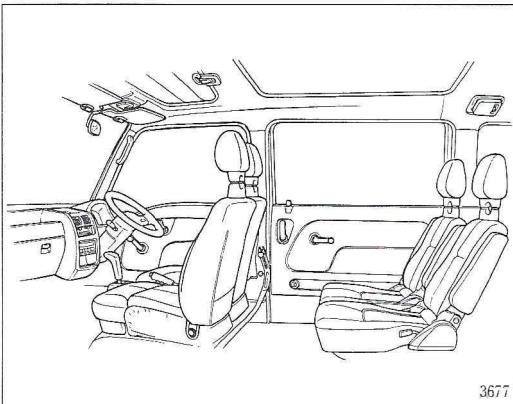


安全のため運転席だけを戻して、助手席を後向きのまま残すことはできません。

■回転させるときの注意

- ・お子さまに操作させないでください。けがなどをするおそれがあります。
- ・ハンドブレーキレバーを確実に引き、フロントドアを開けて操作してください。
- ・操作中、回転機構部分に手足を入れないでください。けがなどをするおそれがあります。
- ・完全に後向き、前向きになるよう回転させ、確実に固定してください。

なお、安全のため助手席単独では回転できない構造になっています。



ディアス系リヤセパレートシート

注意

- ・安全のため背当てを倒してフラットにした状態では走行しないでください。ブレーキをかけたときに危険です。
- ・走行中は、ガードバーAを正規の位置にして使用してください。
- ・リヤシートを荷物室として使用するときは、ガードバーAは正規位置にしてください。
- ・アームレストの上に乗らないでください。また、アームレストを持って乗り込まないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

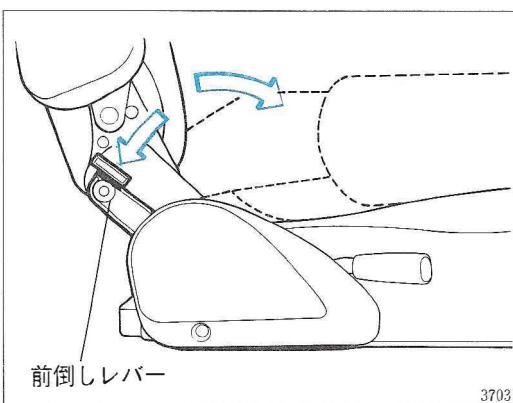
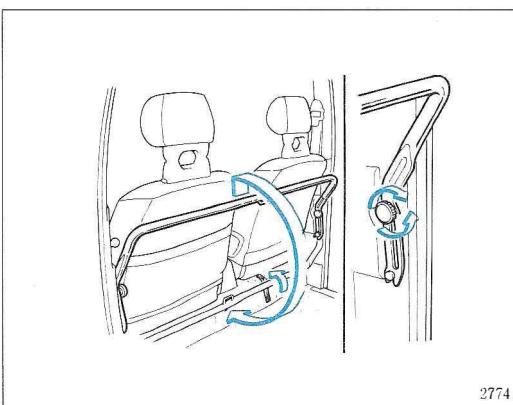
■ガードバーA

▶格納するとき

- ①左右のノブをゆるめます。
- ②ガードバーを上に引き上げてから下に回転させます。
- ③フロントシート後のフロアの上におき、バンドで固定します。
- ④左右のノブを締め付けます。

▶正規位置にするとき

逆順序に操作し、元に戻します。



■シートをたたむ(デッキを使用する)とき

右側シートから折りたたみます。左側シートから先に折りたたむことはできません。

- ①ガードバーAを正規位置にします。
- ②アームレストを起こし格納します。
- ③ピローを取り外します。
- ④前倒しレバーを後に押しながら背当てを前に倒します。
- ⑤シート後のデッキ部にあるストラップを上に引きながらシート全体を前に回転させて水平にします。

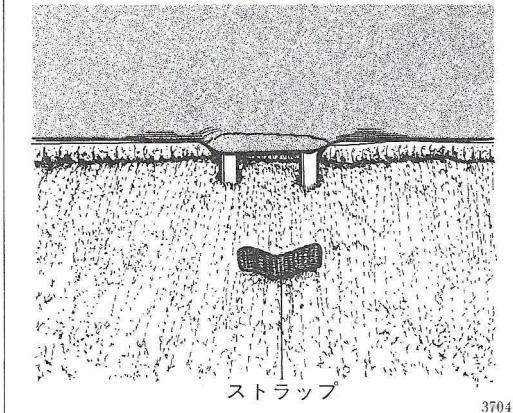
注意

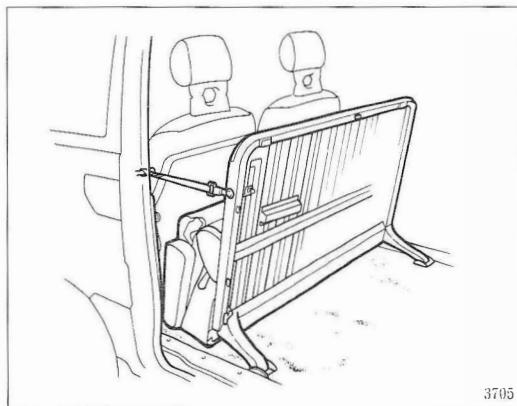
前に回転させるとき、フロントシートの背当てと干渉しないよう注意してください。

左側シートも同じ要領でたたみます。

▶元に戻すとき

左側シートから先に逆の手順で元に戻します。



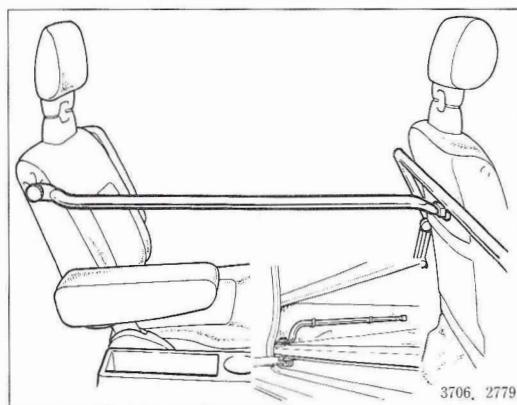


■ デッキをたたむ(フロアを使用する)とき

- ①ピローを取り外します。
- ②前倒しレバーを後に押しながら背当てを前に倒します。
- ③デッキを固定しているバンドBをフックからはずし、デッキ全体を前に立てます。
- ④バンドBをボディーのフックに確実にかけ、固定します。

注意

危険防止のためデッキが後に倒れないことを必ず確認してください。



■ 3名乗車の場合

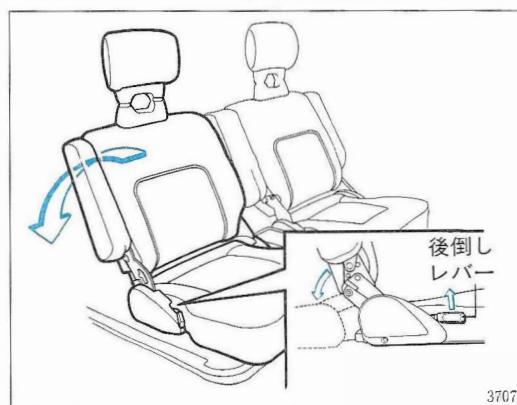
右側シートをたたんで荷物室として使用する場合は、必ずガードバーBを取り付けてください。

► ガードバーBの取り付けかた

- ①中央のアームレストを前に倒します。
- ②ガードバーBの先端をガードバーAに差し込みます。
- ③ガードバーBの後端を左側シートの背当てにノブで締め付けます。

► ガードバーBを使用しないとき

デッキ下のフロアのクリップに固定しておきます。



■ 背当てを後に倒すとき

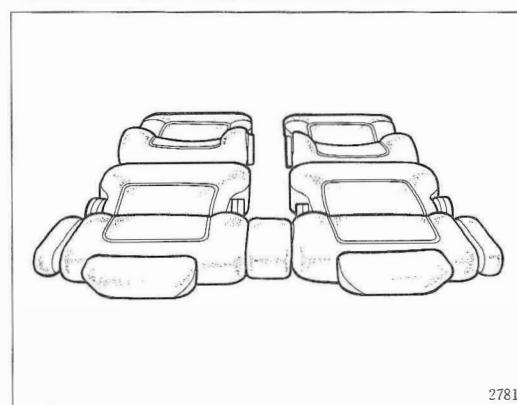
- ①背当てを手で押したまま後倒しレバーを軽く引き上げ、背当てを倒します。

注意

背当ては、中間では止まりません。固定するまで後に倒してください。

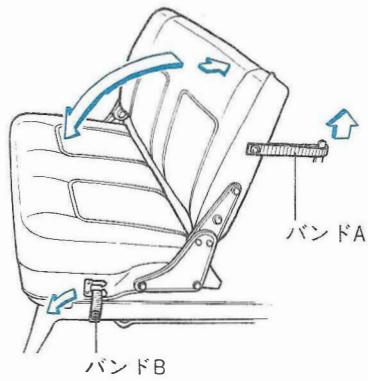
■ 背当てを起こすとき

背当てに手をそえたまま、後倒しレバーを引き上げます。

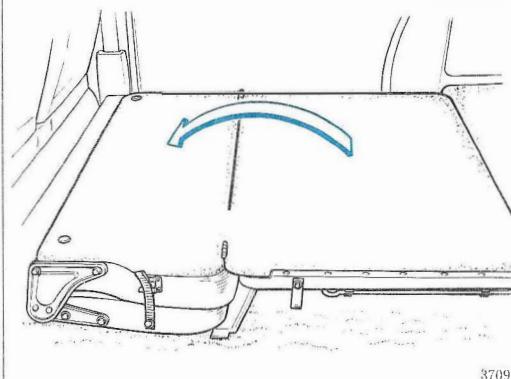


■ ソフトフラットにするとき

- ①ガードバーAを格納します。
- ②フロントシートをフラット状態にします。 28
- ③リヤシートの背当てを後に倒します。



3708



3709

バン系リヤベンチシート(除く2シーター)

■シートをたたむ(デッキを使用する)とき

- ①バンドAをボディのフックからはずし、背当てを前に倒します。
- ②はずしたバンドAの中央の輪をクッション側面のフックにかけ、背当てとクッションを固定します。
- ③バンドBをクッション側面のフックからはずします。
- ④シート全体を前に回転させ、水平にします。



- ・バンドAがはずしづらいときは、背当て上部を後に押しながらはずします。
- ・前に回転させるとき、フロントシートの背当てと干渉しないよう注意してください。

■デッキをたたむ(フロアを使用する)とき

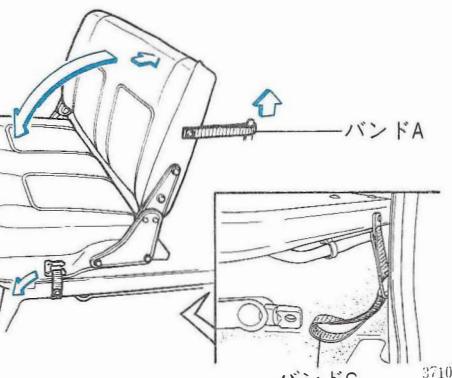
- ①バンドAをボディのフックからはずし、背当てを前に倒します。
- ②はずしたバンドAの中央の輪をクッション側面のフックにかけ、背当てとクッションを固定します。
(バンドBはクッションのフックに固定したまま次の操作をします)
- ③デッキを固定しているバンドCをボディのフックからはずし、デッキ全体を起こします。
- ④バンドCをボディのフックにかけ、固定します。

►元に戻すとき

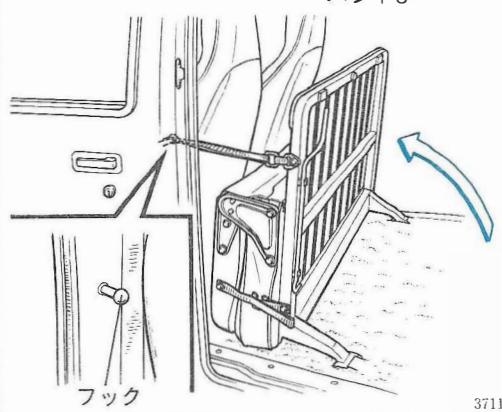
たたむときの逆順序で元に戻します。



- ・バンドAがはずしづらいときは、背当て上部を後に押しながらはずします。
- ・各バンドは、必ず、所定のフックにかけてください。
- ・デッキ、背当て、クッションが固定されているか確認後、走行してください。



3710



3711



■リヤシートを使用するときの注意

- ・背当てを倒してフラットにした状態では走行しないでください。ブレーキをかけたときに危険です。
- ・走行中はガードバーを正規位置にして使用してください。
- ・フロントシート下のすき間に手足を入れないでください。
- ・シートやデッキの取り扱いをまちがえると、思いがけない事故が発生することがあります。手順をまちがえないよう注意してください。操作手順のラベルがフロントシートの背当て背面に貼り付けてあります。見ながら取り扱ってください。
- ・折りたたみは小さなお子さまが近くにいるときはさけ、十分注意して操作してください。
- ・2シーター車のデッキは固定式で、折りたたむことはできません。



2787

シートベルト

シートベルトは正しく装着しないと効果が半減したり、危険な場合があります。シートベルトの使用方法をよく理解し、正しい取り扱いをしてください。

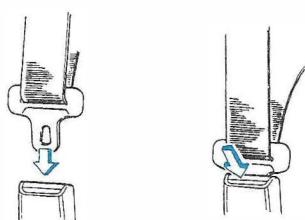
シートベルトは、

- ①必ず走行前に装着しましょう。
- ②上体を起こし、シートに深く腰かけて装着します。この状態で使用したときに最大の効果を發揮します。
- ③腰骨のできるだけ低い位置に腰部ベルトを装着します。腹部は万一のときに圧迫を受け危険な場合があります。

- ・ねじれがないこと
- ・肩に十分かかっていること



“カチッ”と音がする “PRESS”ボタンをまで差し込む 押してはずす



3712

フロントシートベルト

ELR(緊急時固定巻取式)付シートベルトで、長さ調整の必要はありません。ELR付シートベルトは、通常、体の動きに合わせて自由に伸縮しますが、車体が衝撃を受けて体が急に前に飛び出しそうなとき、ロックして体を固定します。

■ベルトの脱着

▶装着のしかた

- ①タングプレートを持ってゆっくり引き出します。
- ②ベルトがねじれないようにタングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- ③シート調整レバーなどにベルトが引っ掛けっていないか確認し、腰骨にかかるよう密着させます。

▶はずしかた

バックルの「PRESS」ボタンを押します。ベルトが自動的に巻き取られます。
ひっかかり、ねじれがないか確認し、ベルトを手で持ち、ゆっくり巻き取らせます。



<ブースターシート>

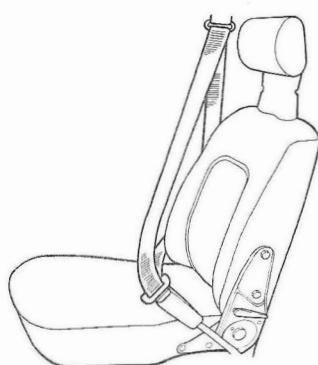


4309

<チャイルドシート>



4310



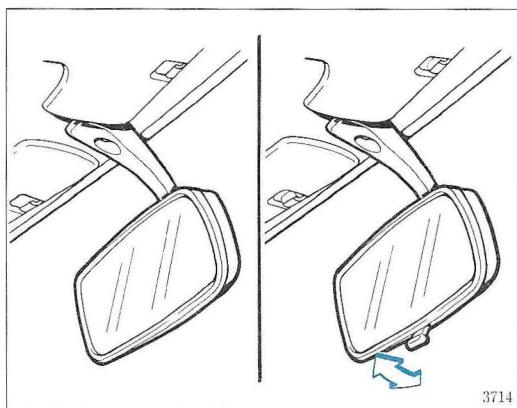
3713

シートベルト使用上の注意

- ・ベルトはすべて一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。本来の機能が発揮されず危険です。
- ・シートベルトが顔や首にかかる小さなお子さまを助手席に乗せる場合は、万一のときベルトによって負傷することを防ぐため、スバル純正のブースターシートを使用してシートベルトが正しい装着姿勢になるようにしてください。なお、ブースターシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご参照ください。
- ・一人で座ることの出来ない乳幼児を助手席に乗せる場合、ベルトを直接使用しないでください。身体の保持が難しく、万一のとき負傷する原因になることがあります。この場合はスバル純正のチャイルドシートの使用をお奨めします。なお、チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご参照ください。
- ・妊娠中のひとや疾患のあるひとのシートベルト装着は万一の場合、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談の上、ご使用ください。

■シートベルトの保守

- (1)バックル、巻き取り装置内部に異物を入れないよう注意してください。十分な機能をはたさなくなることがあります。
- (2)ベルトの傷つき、すり減り、色あせ、金具や取付部不良の場合は、新品と交換してください。
- (3)装着していて万一事故にあったときは、ベルト一式で交換してください。
- (4)洗浄には中性洗剤を使用してください。薬剤の使用、染色は絶対にしないでください。ベルトを弱めます。



ルームミラー

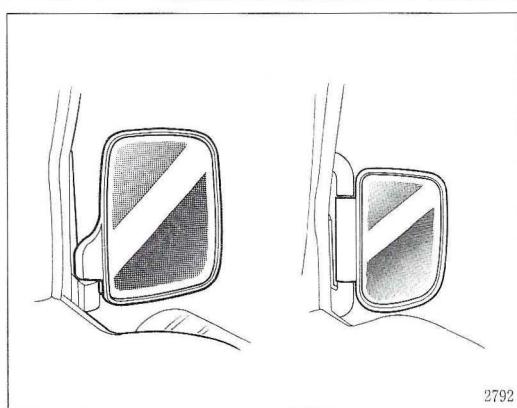
運転席に正しく座り、後方の状況が十分確認できる位置に、ミラーの中央部を持ち調整します。

■防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいとき、レバーを手前に引くとライトの反射が弱くなります。



調整は、昼間の位置にして行ってください。



アウターミラー

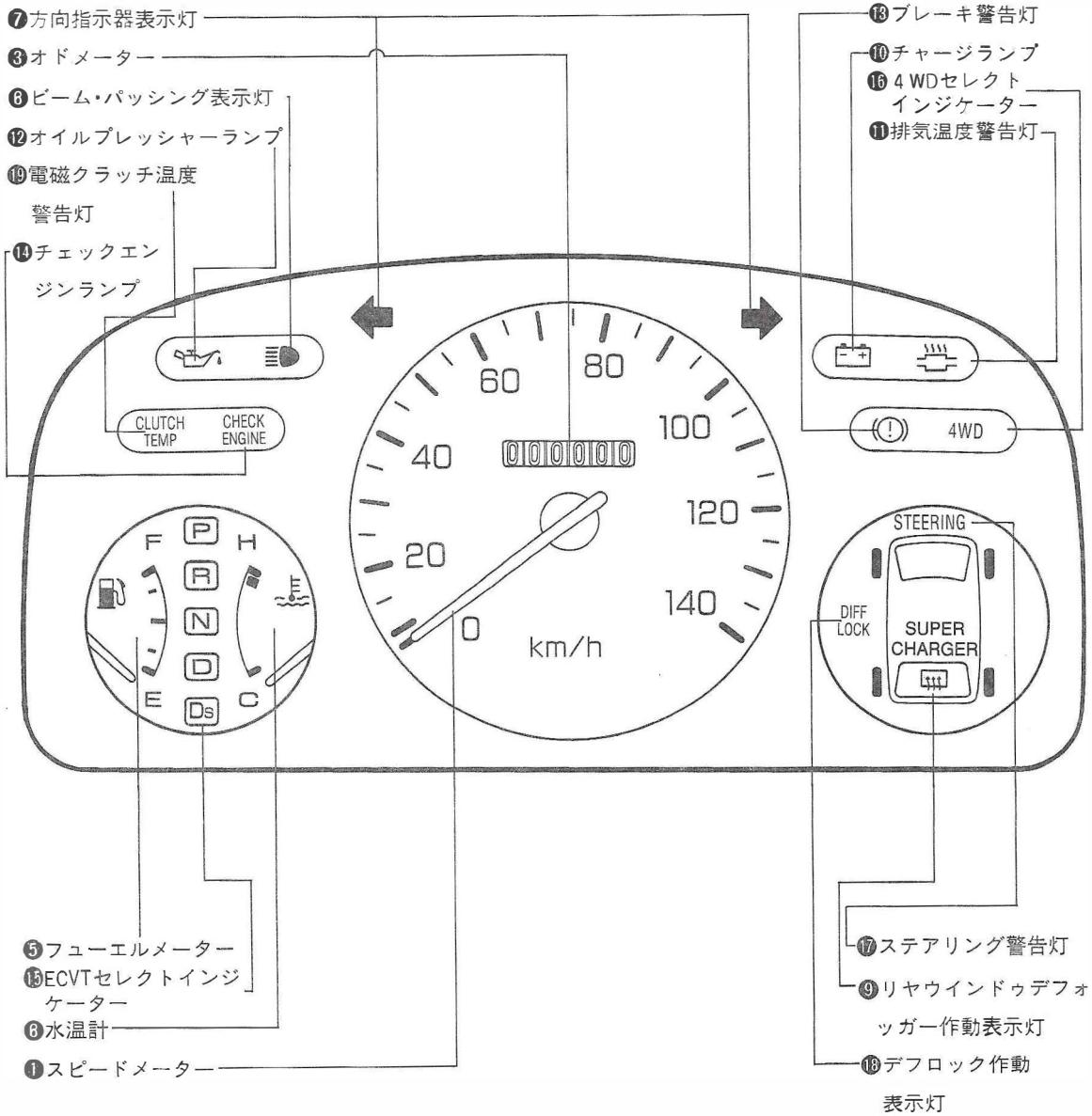
アウターミラーは可倒式ドアミラーです。走行するときは必ず元に戻し、視界を確認してください。

ドアミラーはフェンダーミラーに比べ

- (1)ミラーの張り出しが大きくなります。狭い道でのすれ違い、車庫入れ、歩行者などに注意してください。狭いところで当りそうなときは早目に倒してください。
- (2)助手席側ミラーを見るとき、目の移動量が大きくなります。前方不注意にならないよう注意してください。
- (3)目に近くなりますので、慣れるまで注意してください。



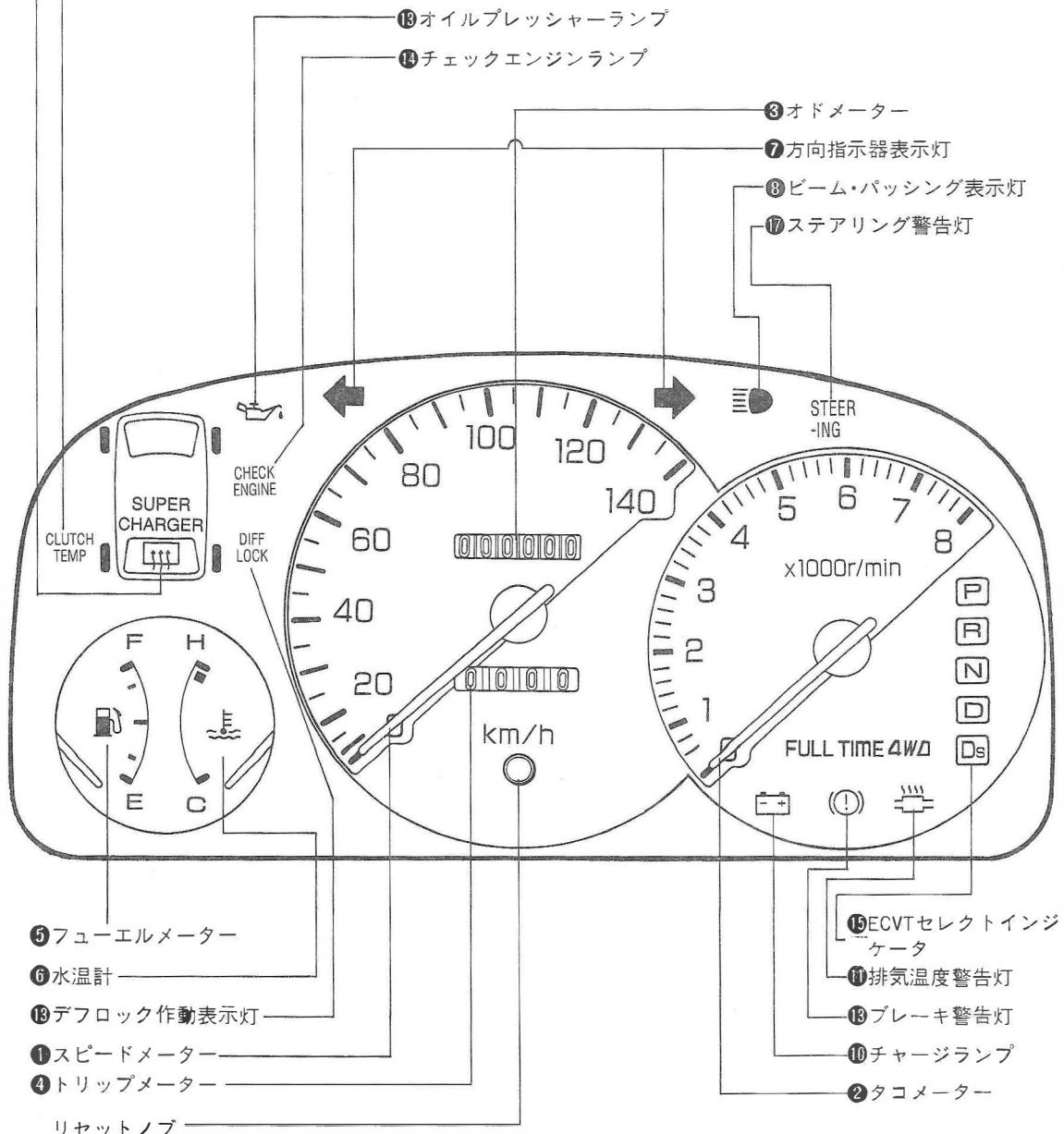
メーターの見かた





⑨リヤウインドウフォッガー作動表示灯

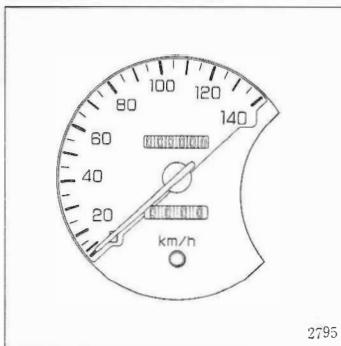
⑩電磁クラッチ温度警告灯





メーターの見かた

①スピードメーター(速度計)

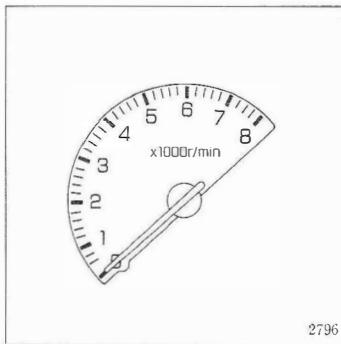


2795

- ・速度警告音は鳴りません。スピードを出し過ぎないようにしてください。

- ・速度警報装置の取りつけを要望されるかたは、注文装備として用意しておりますのでスバル販売店にご相談ください。

②タコメーター(エンジン回転計)

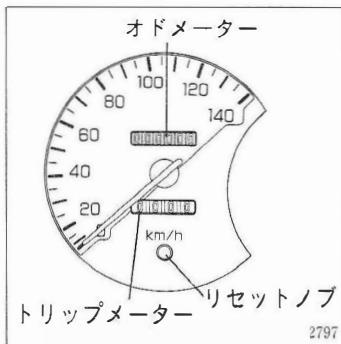


2796

特別な場合のほかは、赤い目盛部分(レッドゾーン：エンジンの許容回転数を超える範囲)に入らないよう運転してください。

- ・エンジンスイッチを操作した瞬間、針が振れることがありますが異常ではありません。

③オドメーター(積算距離計) ④トリップカウンター(区間距離計)



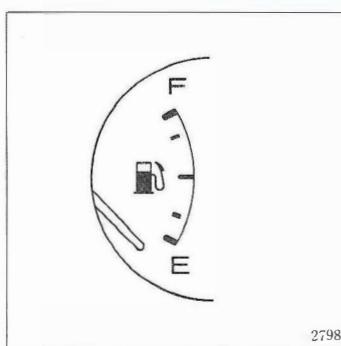
2797

- トリップカウンターは、一定区間や期間に走った距離を知りたいときに使用します。

右端の数字は100m単位です。

0に戻すときは、リセットノブを押してください。

⑤フューエルメーター(燃料計)



2798

“F”は燃料が十分、“E”は残り少ないと示します。

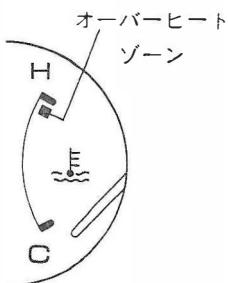
“E”に近づいたら早めに補給してください。



- ・エンジンスイッチを切っても、指示が保持されています。
- ・エンジンスイッチが切れているとき、温度変化や振動で指示が若干変わる場合があります。
- ・補給後エンジンスイッチを“ON”にしてから、指示が安定するまで時間がかかります。



⑥水温計

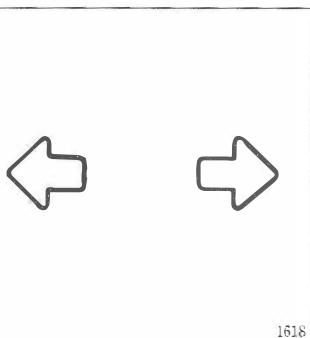


エンジンスイッチが“ON”的とき、エンジンの冷却水温度を示します。“C”は低温、“H”は高温を示します。通常はオーバーヒートゾーンより下側を指しています。

注意 指針がオーバーヒートゾーンを指して下がらないときは、オーバーヒートぎみです。安全な場所に止め、すみやかに処置してください。
☆オーバーヒートしたとき……122ページ

2799

⑦方向指示器表示灯



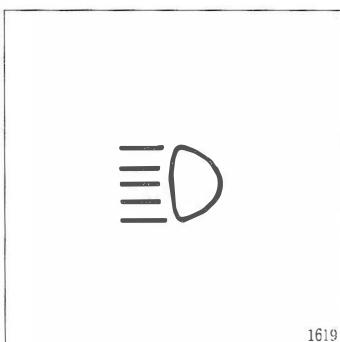
方向指示器の点滅状態を表示します。

非常点滅灯スイッチを操作したときは、左右とも点滅します。

注意 電球が切れたときや、ワット数の異なる物を使用したときは、点滅が異常になります。すみやかに点検してください。

1618

⑧ビーム・パッシング表示灯

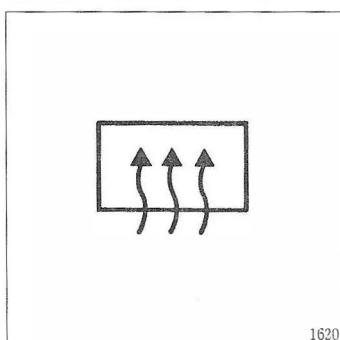


ヘッドライトが上向きのとき点灯します。

一言 対向車および近くに先行車があるときは、下向きに切り替えましょう。

1619

⑨リヤウインドウデフォッガー作動表示灯



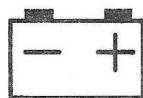
エンジンスイッチが“ON”的ときにスイッチを入れると点灯し、作動中を示します。

一言 エンジンを始動していないときにスイッチを入れるとバッテリー上がりの原因となります。

1620



⑬ チャージランプ(充電警告灯)



充電系統が異常のときに点灯します。

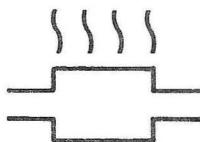
エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。



- ・エンジン回転中に点灯したときは、オルタネータベルトの切れなどが考えられます。安全な場所に停車し、エンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
- ・充電系統が故障で点灯したときは、同時に排気温度警告灯⑪も点灯します。

1621

⑪ 排気温度警告灯



触媒装置またはその周辺温度が異常に上昇したとき点灯し警告します。エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。



- ・走行中に点灯したときは、枯草など燃えやすいもののない安全な場所に停車し、エンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。走行が必要な場合は必ず徐行運転し、すみやかにスバル販売店で点検整備を受けてください。
- ・排気温度警告灯が点灯したままで運転は続けないでください。触媒装置を焼損することがあります。

0942

⑬ オイルプレッシャーランプ(油圧警告灯)



エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

※「オイルプレッシャーランプ」はオイル量を示すものではありません。
☆エンジンオイル量の点検……⑧ 97ページ



- ・旋回時やブレーキを踏んだときに点灯した場合は、エンジンオイルの不足が考えられます。点検してすみやかに補給してください。
- ・エンジン回転中に点灯したときは、エンジンオイルの不足、潤滑系統の故障が考えられます。ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、スバル販売店にご連絡ください。

2222

⑬ ブレーキ警告灯



エンジンスイッチが“ON”的とき、次の場合に点灯します。

- (1)ハンドブレーキレバーを引いたとき(戻すと消灯)
- (2)ブレーキ液が不足したとき



次の場合は点検整備を受けてください。

- (1)走行中に点灯したとき
- (2)ハンドブレーキレバーを戻しても消灯しないとき
- (3)ハンドブレーキレバーを引いても点灯しないとき

2224



⑭ チェックエンジンランプ(スーパー・チャージャー車のみ)



エンジン電子制御系に異常が生じたとき点灯します。

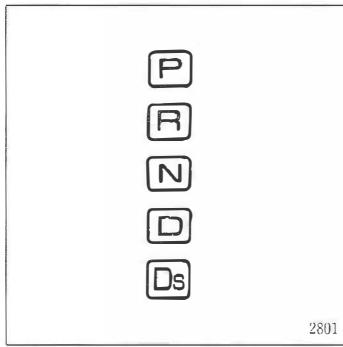
エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。



走行中に点灯した場合は、すみやかに点検整備を受けてください。

CHECK
ENGINE

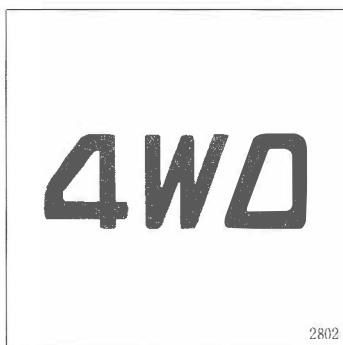
⑮ ECVTセレクトインジケータ(ECVT車のみ)



エンジンスイッチが“ON”的とき、セレクトレバーの位置を表示します。



⑯ 4WDセレクトインジケーター表示灯(セレクティブ4WD車のみ)



4輪駆動に切り替えると点灯し、2輪駆動に切り替えると消灯します。

4WD

⑰ ステアリング警告灯(電動パワーステアリング車)



車速応動型電動パワーステアリングの制御系に異常が生じたとき点灯します。エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後消灯すれば正常です。次の条件では警告灯が点灯することがあります。①停車中に必要以上の空吹かしを続けたとき②すべり易い路面で後輪がロックしたとき

もし、点灯したときはいったんエンジンを止め、再起動して消灯することを確認してください。



走行中に点灯した場合は、すみやかに点検整備を受けてください。

STEERING

STEER
-ING



⑧デフロック作動表示灯(デフロック付車のみ)

エンジンスイッチが“ON”的とき、デフロックスイッチを“ON”にしてデフロック状態に切り替わると点灯します。

DIFF
LOCK

☆デフロックの切り替え……[57](#)ページ

2803

⑨電磁クラッチ温度警告灯(ECVT車のみ)

ECVTのクラッチ温度が異常上昇したとき点滅します。

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。走行中に点滅した場合は次の処置をしてください。

CLUTCH
TEMP

2804

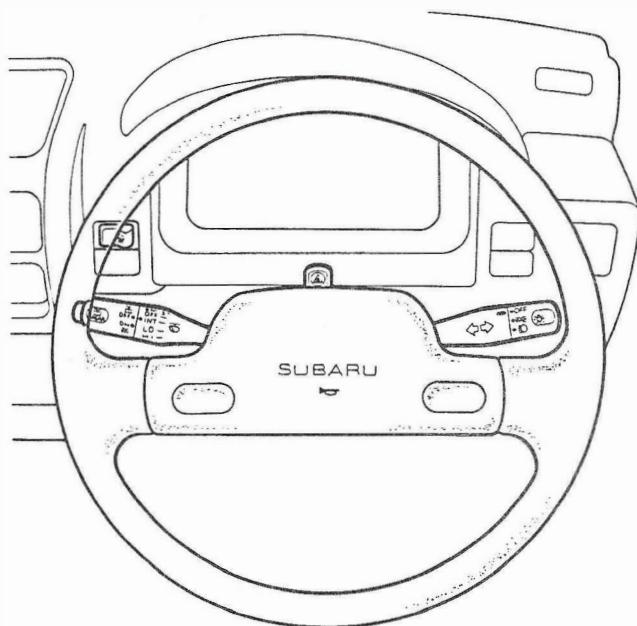


- ・これ以上、無理な運転はさけてください。
通常の走行に入り、クラッチ温度が下がれば警告灯は消えます。
- ・車両移動ができない場合は、その場で「N」か「P」に入れ、エンジンをアイドリング回転にしてクラッチ温度を下げてください。
- ・警告灯が点滅している間はクラッチのスリップ量を少くしてあります。発進時にエンジンの回転上昇がおそくなりますが異常ではありません。



スイッチの使いかた

43

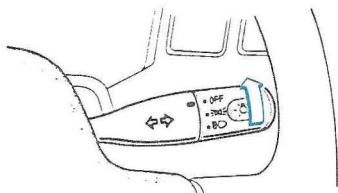


2805

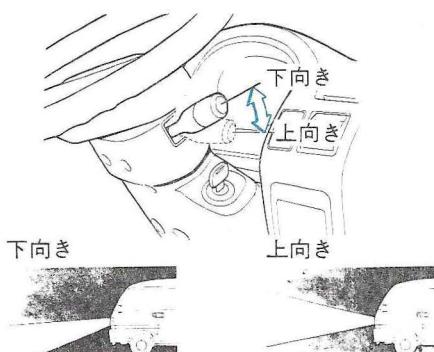
■ ライティングスイッチ	44
■ 方向指示レバー	44
■ ワイパー・ウォッシャー・スイッチ	45
・フロントワイパー	45
・リヤワイパー・ウォッシャー	45
・ウォシャータンク	46
■ ワイパー、ウォッシャーを使うとき	46
■ リヤウインドウデフォッガー(曇り取り)スイッチ	47
■ ハザードランプスイッチ	47
(非常点滅灯)		
■ 作業灯スイッチ(トラック全車)	47



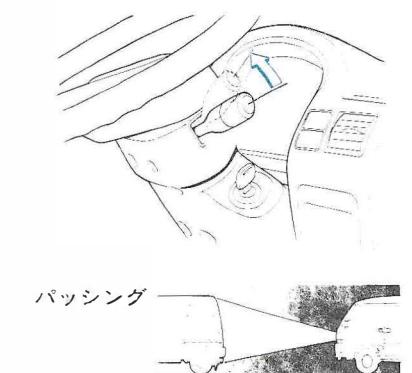
ライティングスイッチ、方向指示レバー



2806



2807



2808

ライティングスイッチ

エンジンスイッチに関係なくスイッチを回すと次のように各ランプが点灯します。

スイッチ位置	ヘッドライト	車内灯、尾灯、番号灯、メータ類照明灯
OFF	消灯	消 灯
△△△	消灯	点 灯
△○	点灯	点 灯

ヘッドライトの切り替え

ヘッドライト点灯時、レバーを前に押すと上向きに、戻すと下向きに切り替わります。



- 先行車や対向車がある場合は、下向きに切り替えください。
- エンジン停止時、ヘッドライトなどを長時間点灯させるとバッテリーが上がり、エンジン始動ができなくなることがあります。

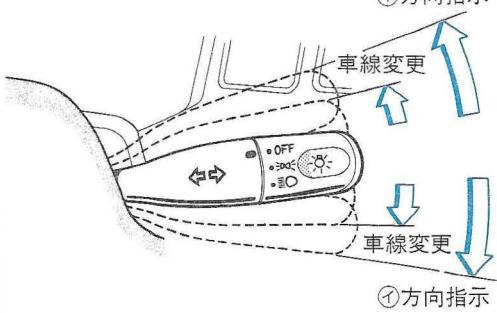
追い越し合図(パッシング)

先行車や対向車に合図するときに使います。

レバーを手前に引いている間、ヘッドライトの上向きが点灯し、離すと元に戻り消灯します。

ヘッドライトが上向きのときは作動しません。

①方向指示



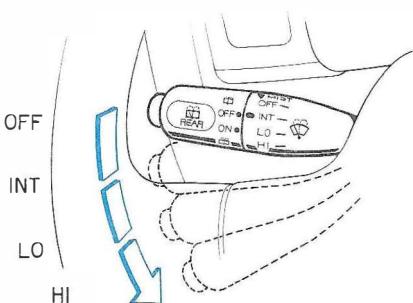
3809

方向指示レバー

エンジンスイッチが“ON”的ときレバーを①まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。ハンドルを戻すとレバーは自動的に元の位置に戻ります。自動的に戻らないときは、手で戻します。

▶車線変更合図

レバーを変更しようとする方向に軽く抑えていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。手を離すと、元の位置に戻ります。



2811

ワイパー・ウォッシャースイッチ

■フロントワイパー

エンジンスイッチが“ACC”か“ON”的とき使えます。

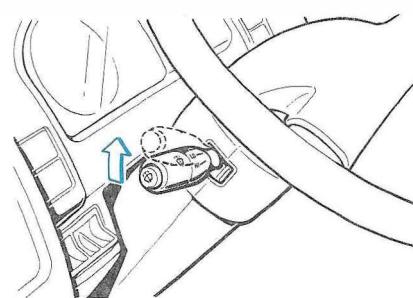
OFF 停止位置

INT 約4~6秒に1回作動します。 

LO 普通雨量のとき使用します。

HI 雨量が多いとき使用します。

※エンジンスイッチを切ってからワイパーを止めると、その場で停止します。ワイパーを先に止めてください。

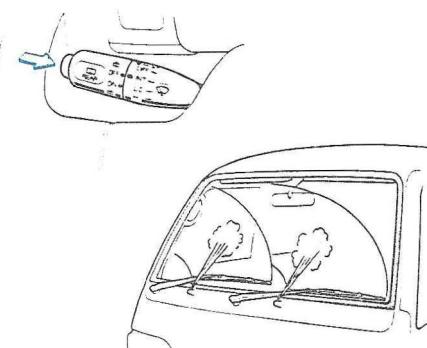


2812

▶ミストスイッチ

霧雨時や対向車からの水しぶきがかかってしまったときなど、ワイパーを一時的に作動させたいときに使います。スイッチを約1秒くらいの間手前に引くと、ワイパーが1度動いて停止します。

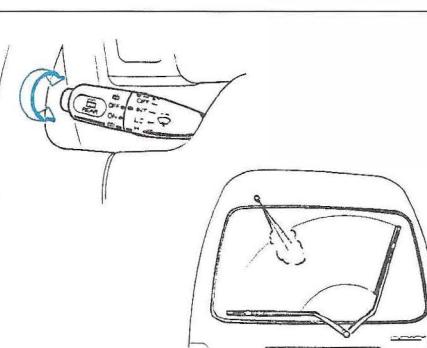
MIST……霧



2813

▶フロントウォッシャー

フロントガラスが汚れて見にくいときなどにスイッチを押すと、ウォッシャー液が噴射します。



2814

■リヤワイパー・ウォッシャー

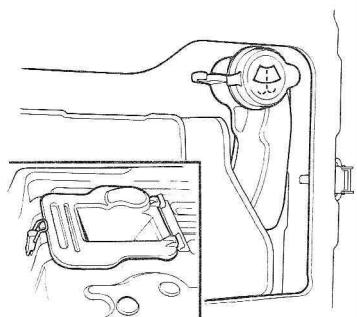
エンジンスイッチが“ACC”か“ON”的とき、使用できます。

OFF ウォッシャー液が噴出し、同時にワイパーが作動します。手をはなすとOFFに戻ります。

停止

連続作動

ワイパーが作動状態で、ウォッシャー液が噴出します。手をはなすとONに戻ります。



2815

■ウォッシャータンク

▶フロント

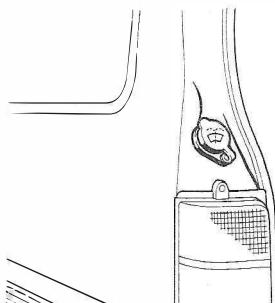
助手席側のシートの床下にあります。

補給する時は、助手席シートのクッションを跳ね上げて点検窓のフタをはずします。

ウォッシャータンクのキャップをはずし、ウォッシャー液を上限まで補給してください。

☆助手席シートの跳ね上げ……28 ページ

☆ウォッシャー液の補給……103 ページ



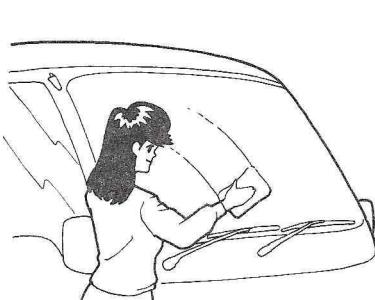
2816

▶リヤ(ディアス&バン)

ウォッシャータンクの注入口は、リヤゲートを開いた左側のランプの上にあります。

注入口のキャップをはずし、ウォッシャー液を上限まで補給します。

☆ウォッシャー液の補給……103 ページ



2817

ワイパー、ウォッシャーを使うとき

(1)ガラスが乾いているときはガラスの傷つきを防ぐためウォッシャー液を噴射してから作動させてください。

(2)ガラスに油などがついているとワイパープレードが振動します。時々ガラスを拭いてください。

(3)ウォッシャー液が空のときは、20秒以上連続して作動させないでください。(モーターの故障につながります)

(4)ワイパープレードの拭きが悪くなり、拭き残りができるようでしたらワイパープレードを交換してください。

☆ワイパープレードの交換……106 ページ

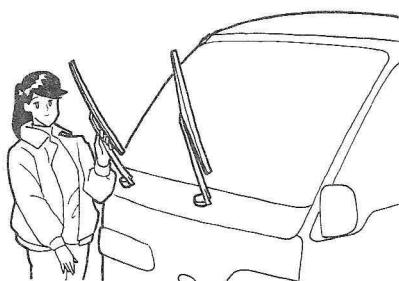
■寒冷時は、次の点に注意してください。

(1)ワイパープレードがガラスに凍りついていないことを確認してから、ワイパーのスイッチを入れてください。

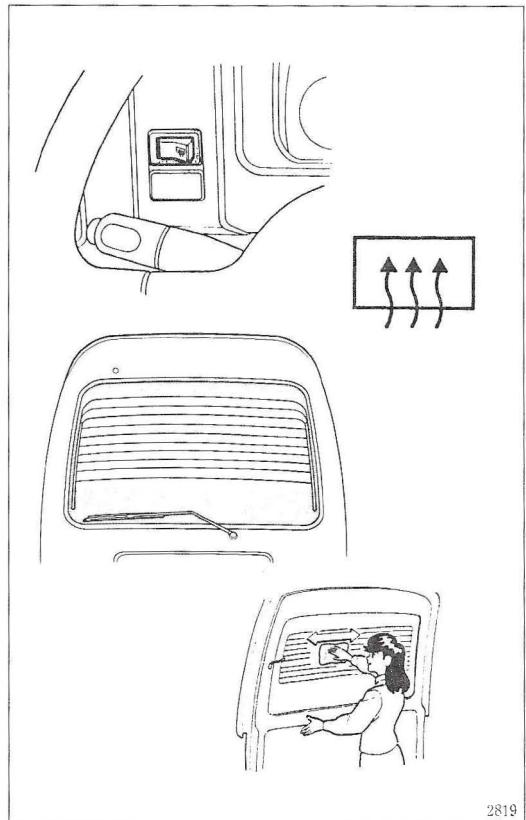
(2)屋外駐車するときは、ワイパープレードを立てておいてください。(ガラスから離しておいてください)

(3)ガラス下側の雪を取り除いてください。雪がたまっているとワイパープレードが定位まで戻れず、作動し続けることがあります。

(4)噴射したウォッシャー液の凍結を防ぐため、ガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射してください。



2818



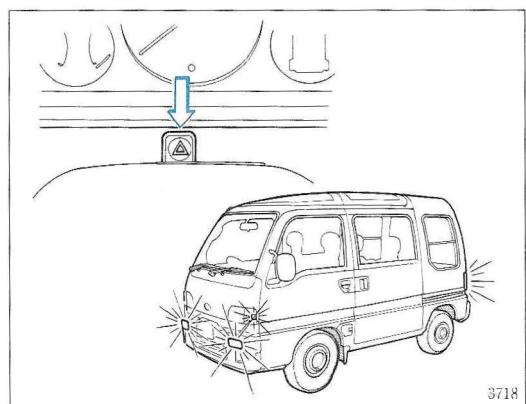
2819

リヤウインドウデフォッガー (曇り取り)スイッチ

エンジンスイッチがONのときスイッチを押すと、リヤガラスが暖められて曇りが取れます。同時にメーター内の作動表示灯も点灯します。



- ・消費電力が大きいので、曇りが取れたらこまめにスイッチを切るようにしてください。
- ・ガラスの室内側に電熱線が配線されています。清掃するときは、柔かい布で横方向に拭いてください。また、清掃するときはガラスクリーナーなどは使用しないでください。
- ・曇り取り以外には使用しないでください。雨水の乾燥や雪などを解かすことはできません。
- ・電熱線に金属などを接触させると、過大電流が流れ切れることがあります。荷物などが当たらないようにしてください。



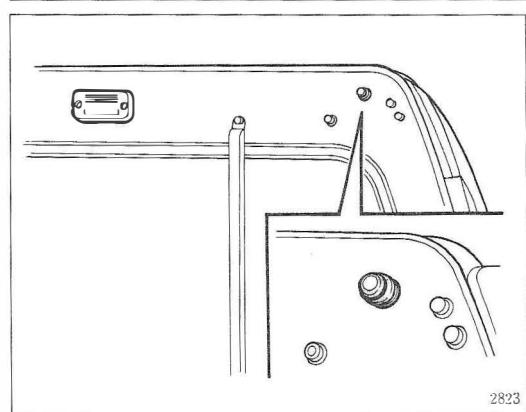
3718

ハザードランプ(非常点滅灯)スイッチ

故障などでやむを得ず路上駐車するとき、他車に知らせるため使用します。エンジンスイッチに関係なくコラムカバー上面のスイッチを押すと、すべて2方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。



- ・完全充電のバッテリーでも1~2時間連続使用すると放電してしまいます。非常にのみ使用してください。また、他車の誤解をまねき危険ですので非常にのみ使用してください。



2823

作業灯スイッチ(トラック全車)

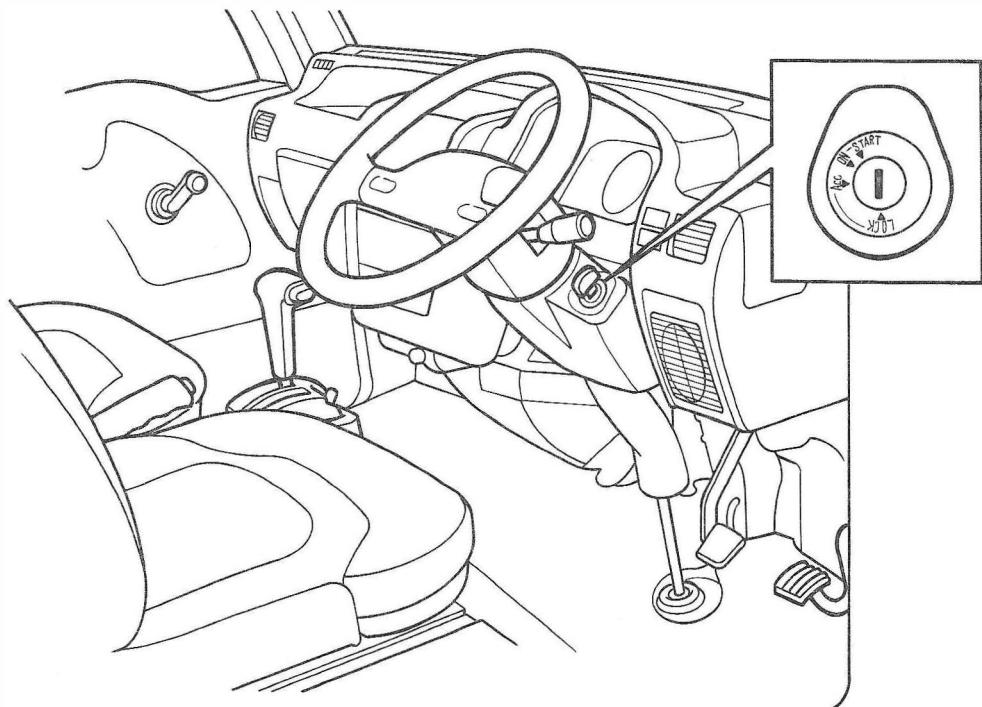
夜間、荷物の積み降しをするとき利用します。エンジンスイッチがACCかONのとき、ハンドブレーキレバーを引いてからスイッチを引くと点灯します。



- ・上記以外の操作をしても点灯しません。
- ・走行するときは、スイッチを切っておいてください。ONのままですると、交差点などでハンドブレーキレバーを引いたとき作業灯が点灯し、後続車に迷惑をかけることになります。

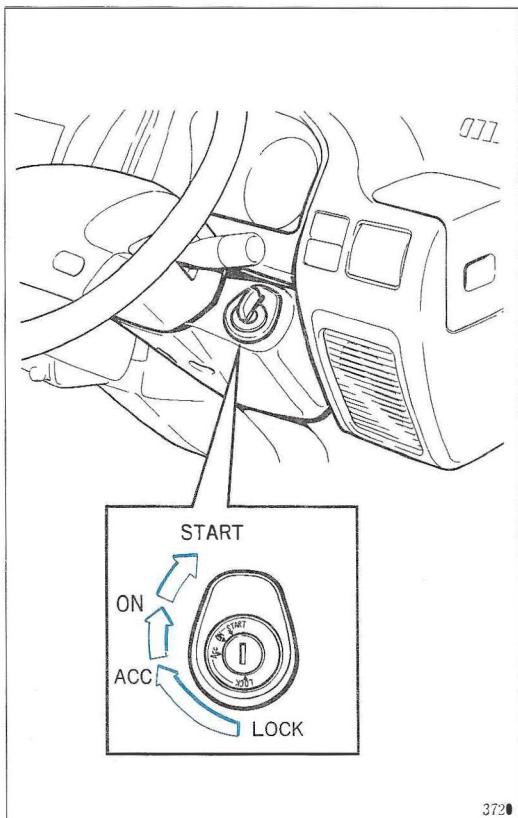


運転装置の使いかた



3719

■ エンジンスイッチ	49
■ チェンジレバー	50
■ ハンドブレーキレバー	50
■ エンジン始動・停止	50
■ ECVT車の運転	52
■ 4WD車の運転	56
・セレクティブ4WD	56
・フルタイム4WD	60



エンジンスイッチ

LOCK キーを抜き差しする位置。この位置でキーを抜き、ハンドルを左右に動かすとカチンと音がしてハンドルが固定されます。
(ステアリングロック装置)

注意 ハンドルが固定されたときはキーを差し込んでACC位置まで回さないと解除されません。

ACC エンジンを止めたままラジオ、シガーライタが使用できる位置。

ON エンジン運転時の位置。すべての電気系統が作動します。

START エンジン始動位置。スターターモーターが回ります。始動後、手をはなすと自動的にONに戻ります。

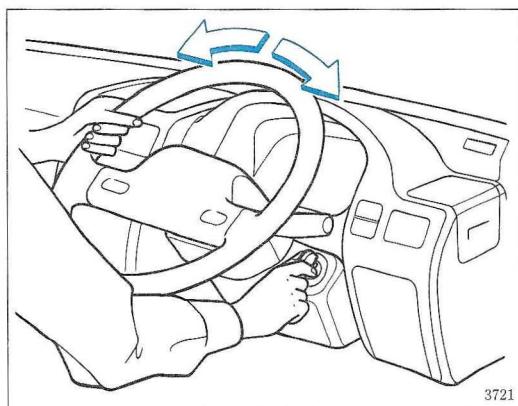
- 注意**
- ・バッテリー上がりを起こさないためにエンジン停止時はスイッチをLOCKにしてください。
 - ・エンジン回転中はSTARTに回さないでください。
 - ・手動変速機車は走行中キーをLOCKにすると、キーが抜けたときハンドルが回らなります。絶対にLOCKにしないでください。

■キーがLOCKからACCに回らないとき

ステアリングロックの固定解除をするとき、キーが軽く回らない場合は、ハンドルを左右に動かしながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき(ECVT車)

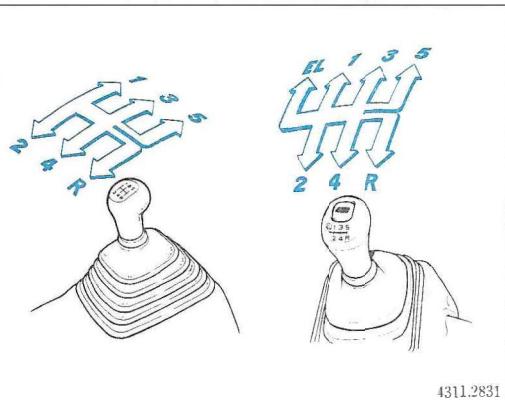
ECVT車は、セレクトレバーをPにしないとキーをLOCKまで回すことはできません。(キーインターロック)セレクトレバーを確実にPに入れてからキーをLOCKまで回して抜いてください。



3721



チェンジレバー、ハンドブレーキレバー エンジン始動・停止



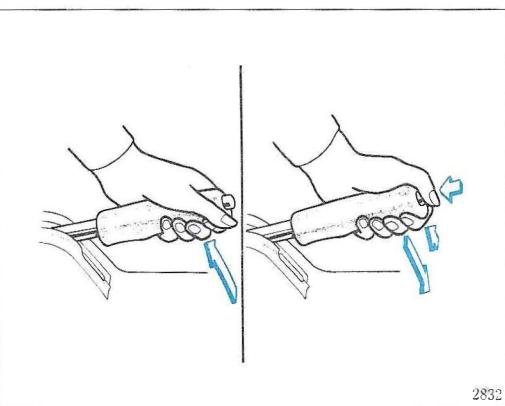
チェンジレバー

クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作します。⑤→⑩へは直接入りません。いったん⑪に戻してから入れます。ELレンジ付車はチェンジレバーを左に押すと1～2速位置で止まります。ELレンジを使用するときはさらに左に強く押します。



- ギヤを抜きレバーから手を離すと⑪の位置に戻ります。

- エンジンスイッチが“ON”的とき⑫に入れると後退灯が点灯します。



ハンドブレーキレバー

▶ 使用するとき

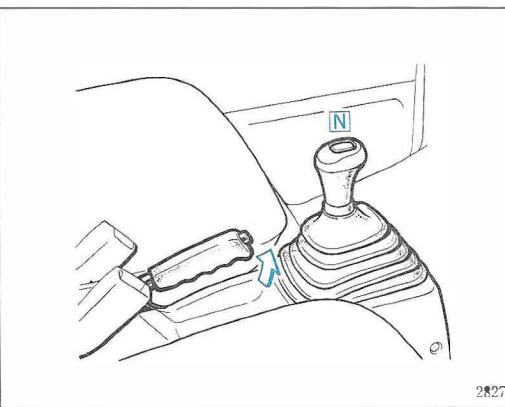
そのままレバーをいっぱいに引けば、後輪ブレーキが効き、メーターのブレーキ警告灯が点灯します。

▶ 戻すとき

レバーを軽く引き上げ、先端のボタンを押して完全に下まで戻します。戻したとき、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。

■ ハンドブレーキを使用するとき

- レバーを引いたまま走行すると、後輪ブレーキが、過熱してブレーキが効かなくなることがあります。走行前に確実に戻し、ブレーキ警告灯の消灯を確認してください。
- 車をはなれるときはレバーをいっぱいに引き、安全のためチェンジレバーを①か⑫(ECVT車は⑬)に入れておいてください。



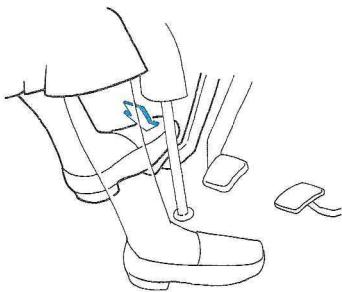
エンジン始動・停止

■ 始動前の安全確認

次の確認をしてからエンジンを始動してください。

- ハンドブレーキレバーを引く。
- チェンジレバーを「N」の位置にする。

*ECVT車の場合は⑯ページを参照してください。



2828

■エンジン始動

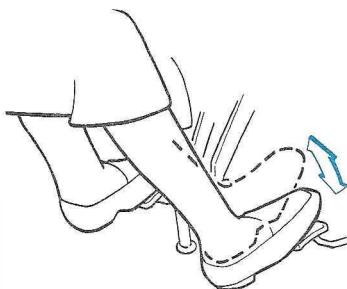
(1)アクセルペダルから足を離し、クラッチペダルを踏んで(除くECVT車)始動します。

(2)暖機運転をします。

エンジンが暖機されるにしたがって、エンジン回転が下がるようになっています。

►再始動(エンジンが暖まっているとき)

アクセルペダルを半分程度(除くスーパーチャージャー車)踏み込んで始動してください。



2829

►寒冷時(気温-20°C以下)の始動

寒冷時に始動するときは次のことを行ってください。

(1)アクセルペダルを3回位踏みこんでから足をはなしてスターターをまわしてください。(スーパーチャージャー車は不要です。)

(2)クラッチペダルをはなすと回転が若干下がります。アクセルペダルを少し踏み込み、一度回転を上げてください。

■エンジン始動するときは

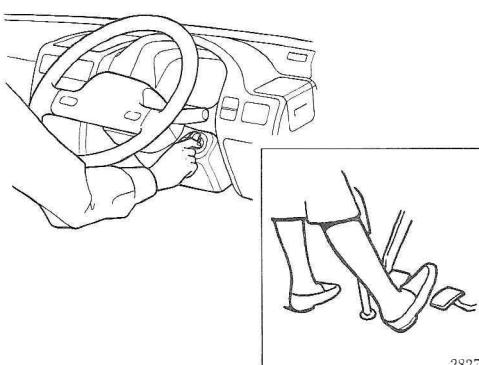
- ・ライティングスイッチ、ファンスイッチ、リヤデフォッガースイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。

- ・バッテリーあがりを防ぐため、スターターは10秒以上回し続けないでください。始動しなかったときは10秒位休んでバッテリーの能力回復を待ってから始動してください。

- ・寒い日または数日間運転しなかったときは、必ず暖機完了してから走行してください。

- ・始動時に繰り返しアクセルペダルを踏みすぎると、ガソリンを吸い込み過ぎて始動しない場合があります。このようなときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだまま始動します。

始動後アクセルペダルを徐々に戻してください。



2827

■エンジン停止

アイドリング回転に落してからエンジンスイッチを切ります。



エンジン回転を上げてエンジンスイッチを切ったり、スイッチを切ってからアクセルペダルを踏み込むことはしないでください。未燃焼ガスが多量に排出され、排気管から大きな音がすることがあります。



ECVT車の運転

ECVT車はコンピューターで制御された電磁クラッチとローからオーバードライブ領域まで走行条件に応じて無段階に変速する自動変速機を組み合わせ、運転操作のイージー化をはかったものです。

操作の負担が軽くなり運転が楽になります。

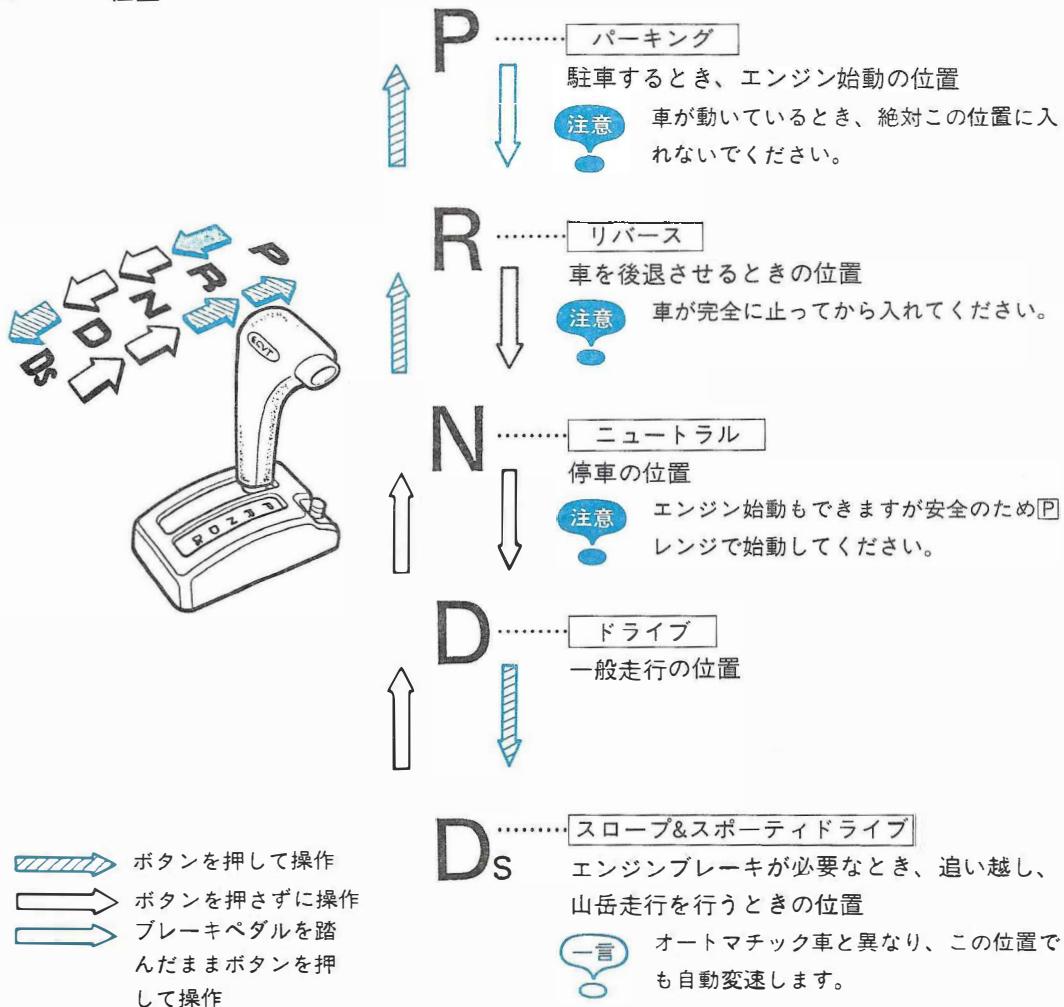
ECVT車の特長をよく理解し、正しく操作する習慣をつけ、安全に運転してください。

■セレクトレバー

セレクトレバーを操作して5ポジションを選択します。ボタンを押して操作するポジションと、押さずに操作するポジションがあります。

一言 ボタンを押さずに操作するポジションは押しても操作できますが、誤操作防止のため押さずに操作する習慣をつけてください。

■レバーの位置





2762

■エンジン始動

▶エンジンをかける前に

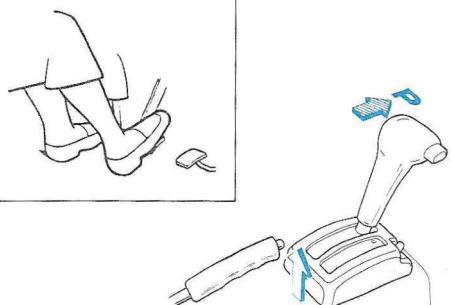
(1)正しい運転姿勢をとる。

ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整してください。

(2)アクセルペダルの位置を確認する。

(3)ブレーキペダルの位置を右足で確認する。

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足に覚えさせておくことが重要です。



2838

▶エンジン始動

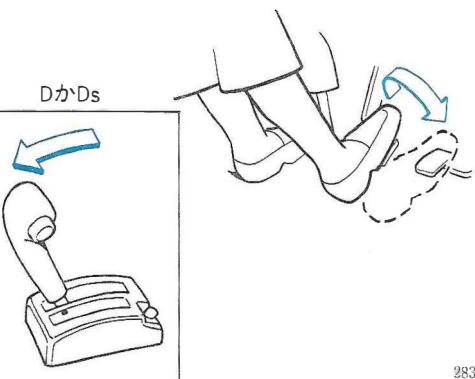
①ハンドブレーキが引いてあることを確認します。

②セレクトレバーがPレンジにあることを確認します。

③右足でブレーキペダルを踏みながら、エンジンを始動してください。

一言 始動時、アクセルペダルを踏む場合は、始動してからブレーキペダルに踏み替えてください。

DかDs



2839

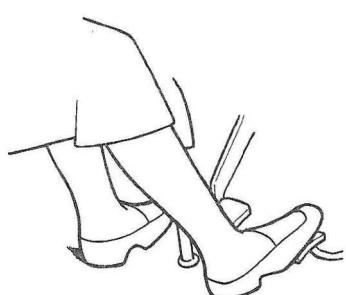
■発進

①ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを操作します。

セレクトレバーを操作するときは、必ずアクセルペダルから足を離してください。

②セレクトレバーの位置を目で確認し、ハンドブレーキを解除します。

③ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくり踏み込んで発進します。



アクセルペダル操作は慎重に！

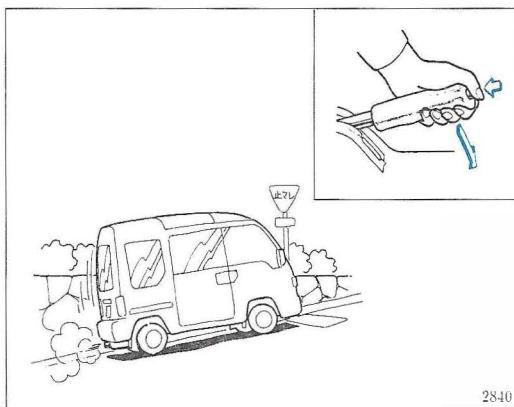
2834

▶発進時の注意

手動変速機車は発進時の速度をクラッチペダル操作とアクセルペダル操作を併用して調整しますが、ECVT車の場合はアクセルペダル操作のみで行うので、アクセルペダル操作は慎重に行ってください。

注意

アクセルペダルを踏み込んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。



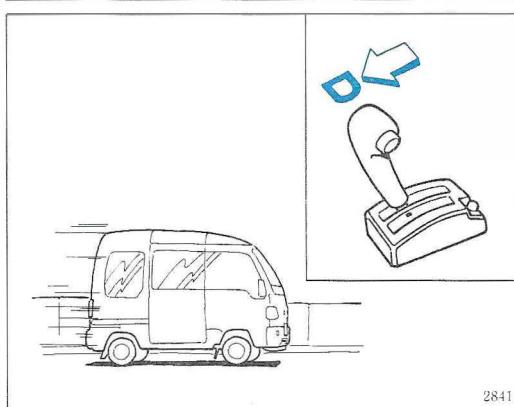
2840

▶急な坂道の多進

車が動かないようハンドブレーキを引いたままブレーキペダルを離します。次にアクセルペダルをゆっくり踏み込みます。車が動くことを確認してからハンドブレーキを戻して発進します。

注意

登り坂の途中でアクセルペダルを踏み込みながら、車を止めておくことはやめてください。クラッチに悪影響をあたえます。必ずハンドブレーキを引いて車を止めてください。



2841

■走 行

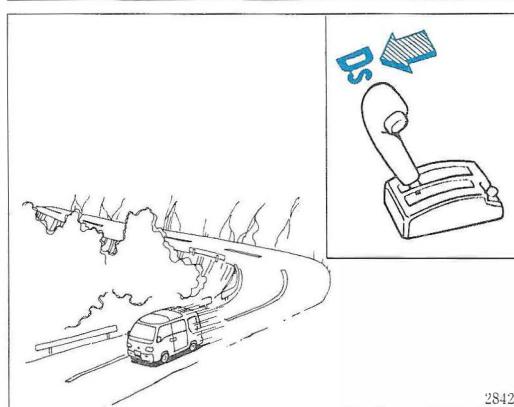
▶通常走行

セレクトレバーを[D]レンジに入れ、アクセルペダルとブレーキペダルで速度調整します。

アクセルペダルの踏みかたと速度によって、自動変速します。

▶急加速

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし急加速できます。



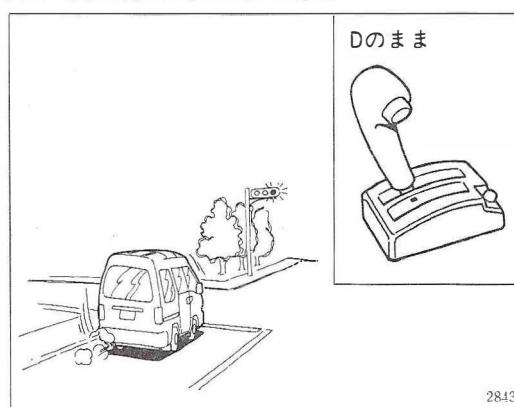
2842

▶下り坂走行

[D]レンジに入れ、アクセルペダルから足を離してエンジンブレーキを効かせます。

注意

[D]レンジのまま走行するとエンジンブレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなとき、フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。必ず、エンジンブレーキを併用してください。ただし、低速になると電磁クラッチが自動的に切れます。



2843

Dのまま

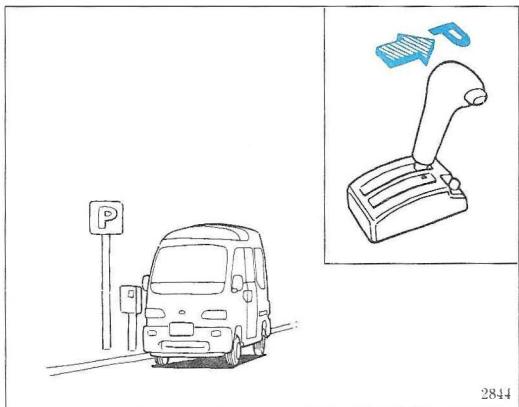
■駐・停車

▶停車

- (1)[D]レンジのまま、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- (2)停車時間が長くなりそうなときは、[N]に入れます。
- (3)必要に応じて、ハンドブレーキを引いてください。

注意

低速になると電磁クラッチが自動的に切れるので[N]レンジに戻す必要はありませんが坂道では停車位置から動かないようブレーキペダルを踏み、ハンドブレーキを引いてください。

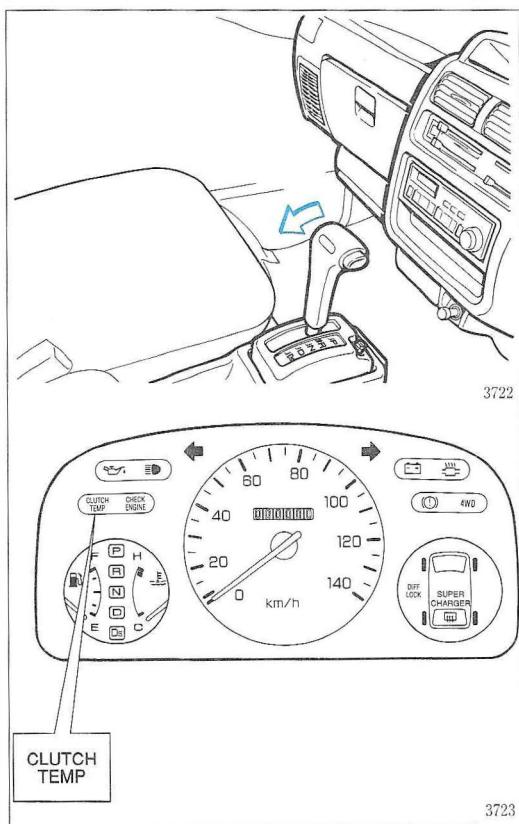


▶駐車

- (1)ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めます。
- (2)ブレーキペダルを踏んだまま、ハンドブレーキを引きます。
- (3)セレクトレバーをPレンジに入れて、エンジンを切ります。

注意

Pレンジでは車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には必ずセレクトレバーガPの位置にあることを確認してください。



■電磁クラッチ温度警告灯が点滅したとき

砂地や深雪の中で、連続してクラッチを滑らせながら走行すると、クラッチ内部の温度が上がり、「CLUTCH TEMP」警告灯が点滅することがあります。

この場合は、次の処置をしてください。

- ①これ以上無理な運転は、避けてください。
通常走行に入り、クラッチ温度が下がれば警告灯は消えます。
- ②車両移動ができない場合は、その場で「N」か「P」に入れ、エンジンをアイドリング回転にしてクラッチ温度を下げてください。
- ③警告灯が点滅している間は、クラッチのスリップ量を少くしてあり、発進時にエンジン回転上昇がおそらくありますが異常ではありません。

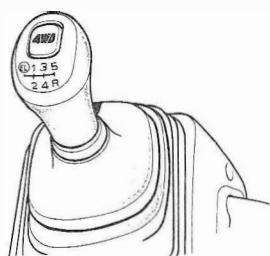


4WD車の運転

4WD車はエンジンの出力を4つのタイヤに伝えるため滑りやすい路面でもスリップが少なく、走破性、加速性、走行安定性が高いという特長があります。

サンバーには、2つのタイプの4WD車があります。操作方法を十分に理解してご使用ください。

- ・セレクティブ4WD
- ・フルタイム4WD



4WD

押し込む



【4WD走行】



もう一度押し込む



【2WD走行】

2848

2849

セレクティブ4WD

必要に応じて4WDになる車です。通常、2WDで走行し、悪路、雪道、ぬれた路面の高速道路、山岳路などを走行するとき4WDにします。4WDにすると前後輪が直結になり、前後輪に等分に駆動力が配分されます。

■ 2WD走行↔4WD走行の切り替え

エンジンが回っているとき、チェンジレバーノブ中央の「4WDセレクトスイッチ」で切り替えます。

▶ 4WD走行にするときは、スイッチを押し込みます。

スイッチは押し込んだ位置に保持され、同時にメーターの「4WDセレクトインジケーター」が点灯します。

▶ 2WD走行に戻すときは、スイッチをもう一度押し込みます。

スイッチは元に戻り、「4WDセレクトインジケーター」も消灯します。



- ・切り替えは、クラッチペダルを踏まないで、直進時、アクセルペダルを戻してからスイッチを押すと、スムーズに切り替わります。
- ・タイヤが空転しているときは、絶対に切り替えないでください。

■ 4WD-ELレンジの切り替え

砂地、悪路、急坂路など特に大きな駆動力を必要とする場合に切り替えます。

▶ 2WD走行のとき

ELレンジに入れると自動的に4WD-EL走行に切り替わり、同時にメーター内の「4WDセレクトインジケーター」も点灯します。ELレンジ以外にすると2WD走行になり「4WDセレクトインジケーター」も消灯します。

▶ 4WD走行のとき

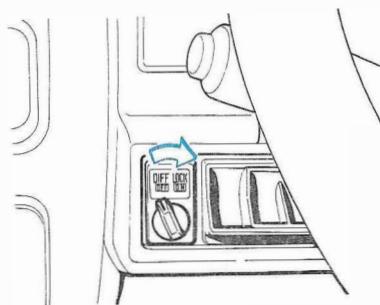
ELレンジ以外にしても4WDのままです。



4311



2852



2853

■リヤデファレンシャルロック

積雪地、砂地、ぬかるみなどで車輪が空転して動けなくなったり、駆動力を左右車輪に等しく伝達して脱出しやすくする装置です。

チェンジレバーがELかR(後退)の位置でのみ作動します。

▶ デフロックの切り替え

①エンジンが回っているとき、チェンジレバーをELかRにします。

②デフロックスイッチを「ON」にします。

③デフロック状態になるとメーター内の表示灯が点灯します。

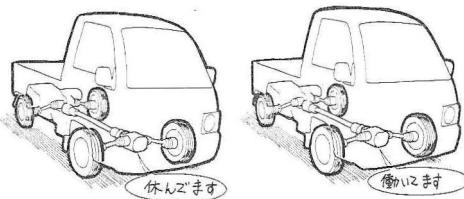
▶ 解除するとき

①デフロックスイッチを「OFF」にします。

②デフロックが解除されると、メーター内の表示灯も消灯します。

■リヤデファレンシャルロックを使用するときは

- ・タイヤの摩耗を防ぐため舗装路では使用しないでください。
- ・変速機を傷めないために車輪が止まってからデフロックスイッチを操作してください。
- ・デフロックスイッチを操作しても切り替わらないときは、アクセルペダルを軽く踏むなどして車輪を少し回転させてください。
- ・ぬかるみなどからの脱出後は、デフロックスイッチをOFFにしてください。切り替え遅れが発生する場合もありますが異常ではありません。



2854

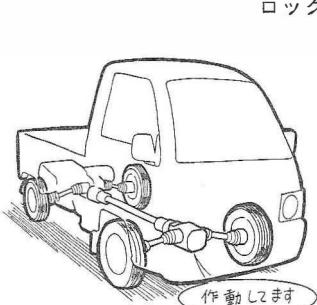
■フリーホイールアクスル

フリーホイールアクスルは2WD走行のとき、プロペラシャフトなどの前輪駆動装置を切り離して回転を止め、車輪のみを自由に回転させて騒音や摩耗を減らし、経済的に運転するための装置です。

4WDセレクトスイッチを操作することにより自動的にロック(結合)、フリー(切り離し)に切り替わります。



押し込む



2855

ロック

▶ロック(結合)にするとき

- (1) 4WDセレクトスイッチを押し込み、4WDにします。
- (2) 走行して4WD状態になると、自動的にロック(結合)になります。

▶フリー(切り離し)にするとき

- (1) 4WDセレクトスイッチをもう一度押して4WDを解除します。
- (2) 走行して2WD状態になると、自動的にフリー(切り離し)になります。

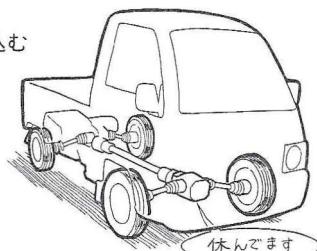


- ・切り替えは、走行中にアクセルペダルを戻し、クラッチペダルを踏まないでスイッチを押すと、スマーズに切り替わります。

- ・フリーホイールアクスルが切り替わるとき作動音「カチッ」がすることがありますが、異常ではありません。
- ・旋回時に行うと切り替わらない場合があります。直進状態にして再度行ってください。

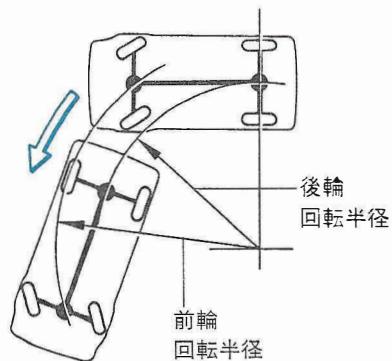


もう一度押し込む

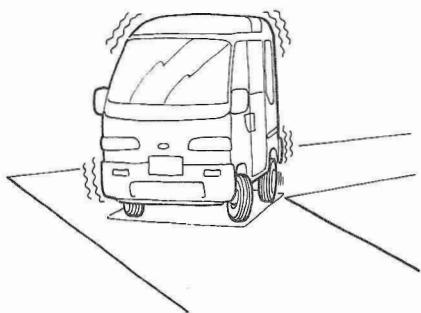


2856

フリー



1671



2865

■タイトコーナーブレーキング現象

▶「タイトコーナーブレーキング現象」とは？

セレクティブ4WD車の4WD走行で、乾いた舗装路の急カーブを曲がろうとすると、ブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。

これは、前後タイヤの回転差をプロペラシャフトで強制的に抑えるため起こる現象で、滑りやすい路面では、前後いずれかのタイヤがスリップするので、ほとんど発生しません。

▶「タイトコーナーブレーキング現象」

を避けるために

- (1) 急カーブを走っているときにスイッチを操作しても、4WD ⇔ 2WDの切り替えができないことがあります。この場合は、直進走行すると切り替わります。
- (2) 4WD走行で車庫入れや急ハンドルを切って、走行をしないでください。大きな力がクラッチ系統や駆動系統に加わり、悪影響を与えます。
- (3) 急加速中や急カーブを走っているとき、切り替え操作をすると、切り替え遅れや軽いショックを感じます。これは、切り替えクラッチに加わっている力が解除されるために生じるもので、異常ではありません。
- (4) 同じ理由で、前後タイヤのサイズが違う場合も、切り替え遅れや切り替えショックが発生します。異なるサイズのタイヤは絶対に使用しないでください。また、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。
- (5) タイヤチェーンを装着したとき、4輪駆動が解除しにくくなることがあります。この場合は、スイッチ操作後、少し走ると解除します。

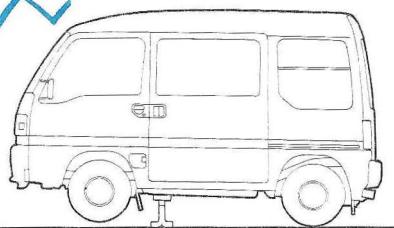


2858

フルタイム4WD

フルタイム4WDは道路条件、気象条件などに左右されず、常に路面の状況に適した安全、快適な走行を楽しめる車です。

ビスカスカップリングにより、前後輪に回転速度差が生じたとき、適正に駆動力が分配され、深雪、ぬかるみ、どろんこ道などの走破力向上、滑りやすい路面での走行安定性の向上がはかれます。



3724

整備時の注意

常に4輪に駆動力が伝達されるため、整備時などには注意してください。



- ・前輪(後輪)だけを回転させることは絶対しないでください。車が飛び出し非常に危険です。
- ・オンザカータイヤバランスやスピードメータテスターなどを使うときは、4輪駆動を解除(下記参照)してください。

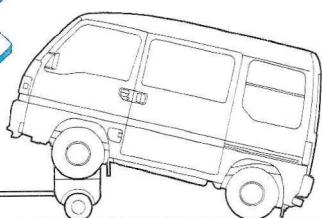
■ 4WDを解除するときの注意

解除は、けん引時や整備時など必要なときだけ行ってください。

☆ 4輪駆動の解除…… 92ページ



解除はスバル整備工場で行ってください。路上故障などやむを得ない場合は、安全に十分注意して行ってください。



3725

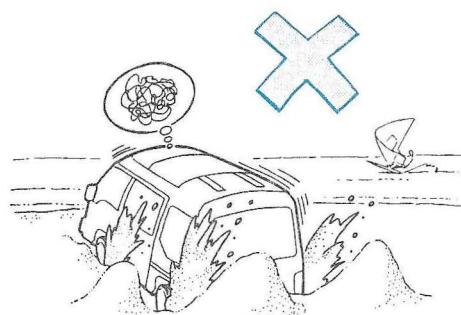
■ けん引するときの注意

前輪(後輪)が回転すると後輪(前輪)もまわされるため、けん引時などは注意してください。



前輪(後輪)だけを上げたけん引は、絶対にしないでください。ビスカスカップリングの劣化や車が飛び出す原因となり非常に危険です。

☆ けん引…… 119ページ



2862

4WD車を使用するとき

■万能車ではありません！

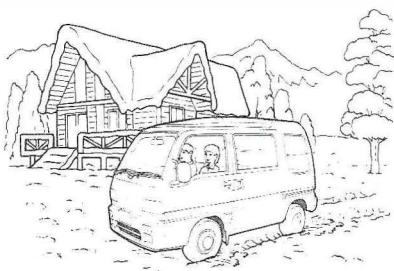
タイヤがはまり込むような深い砂地、河川、海水中などに乗り入れないでください。

やむをえず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入ってしま常があるときはすみやかに点検整備を受けてください。

注意

- ・酷使による故障修理は保証修理の対象外になりますのでご注意ください。
- ・ECVT車の「クラッチ温度警告灯」が点滅したときは適切な処置をしてください。……55ページ

安全な速度で慎重に！



4312

■過信は禁物！

4WD車は滑りやすい路面、積雪路などすぐれた性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキではあまり差がありません。

カーブや下り坂、雪道や凍結路などの滑りやすい路面では安全な速度で慎重に走行してください。

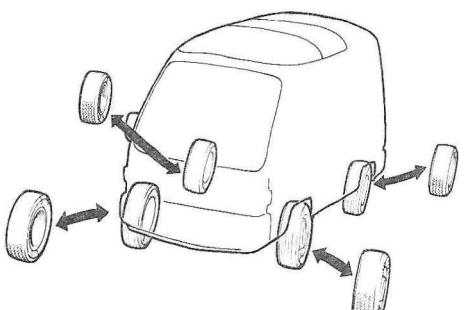
■雪道走行は冬用タイヤで！

①積雪路、凍結路走行には4輪ともスタッドレスタイヤ、スノータイヤなどの冬用タイヤを装着してください。夏用タイヤではスリップして非常に危険です。

②非常の場合にタイヤチェーンを取り付ける場合は、必ず指定のタイヤチェーンを後輪に取り付けてください。(前輪には取り付けないでください)

③タイヤチェーンを取り付けたときは、前輪と後輪の路面とのグリップのバランスが変化するので安全な速度で慎重に運転してください。(30km/h以下で走行し、急発進、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください)

☆タイヤチェーン装着時の注意128ページ



4輪共冬用タイヤ！

4313



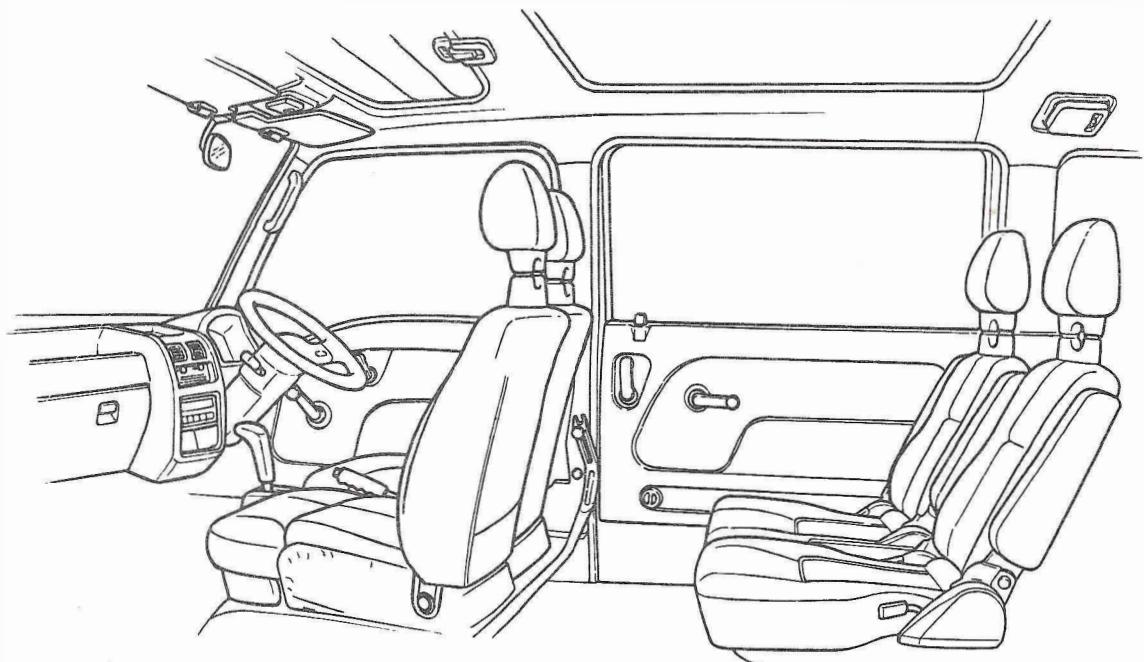
■前後輪に同じタイヤを！

前後車輪の回転数を揃えるために次のことをお守りください。

注意

- ・4輪に同一サイズ、同一銘柄のタイヤを装着してください。
- ・指定の空気圧を保ってください。
- ☆タイヤ空気圧.....133ページ

1669

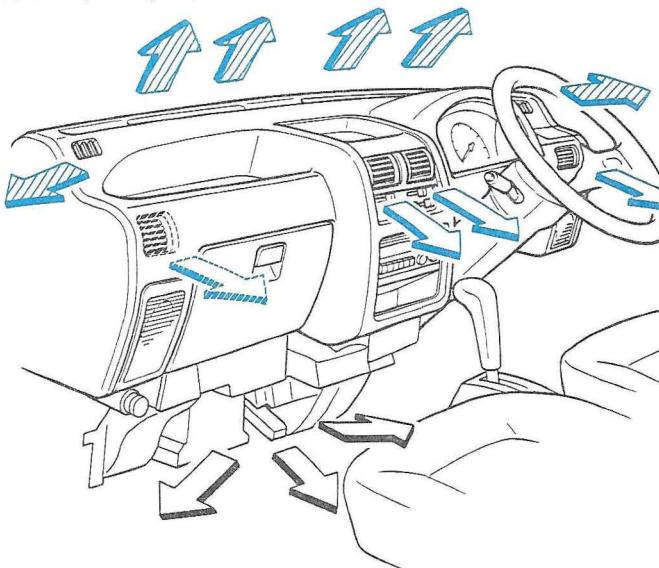


■ヒーター・エアコン	63
・フロントヒーター	63
・リヤヒーター	65
・ヒーターの使いかた	65
・エアコンの使いかた	67
■ラジオ	69
・AM電子チューニングラジオ	70
・カセットデッキ一体型ラジオ	72
■シガーライター	77
■灰皿	77
■室内の小物入れ	78
■サンバイザー	79
■ルームランプスイッチ	80
■サンサンルーフ(装備車のみ)	81

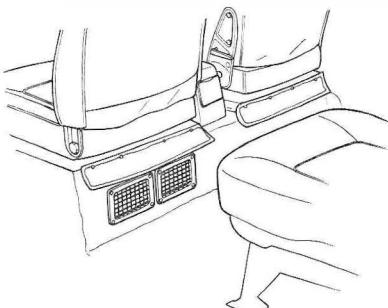


ヒーター・エアコン

<フロントヒーター>



<リヤヒーター>



3726

フロントヒーター

④温度調整レバー

風の吹き出し温度を調節します。

COLD～HOTを無段階に調節できます。

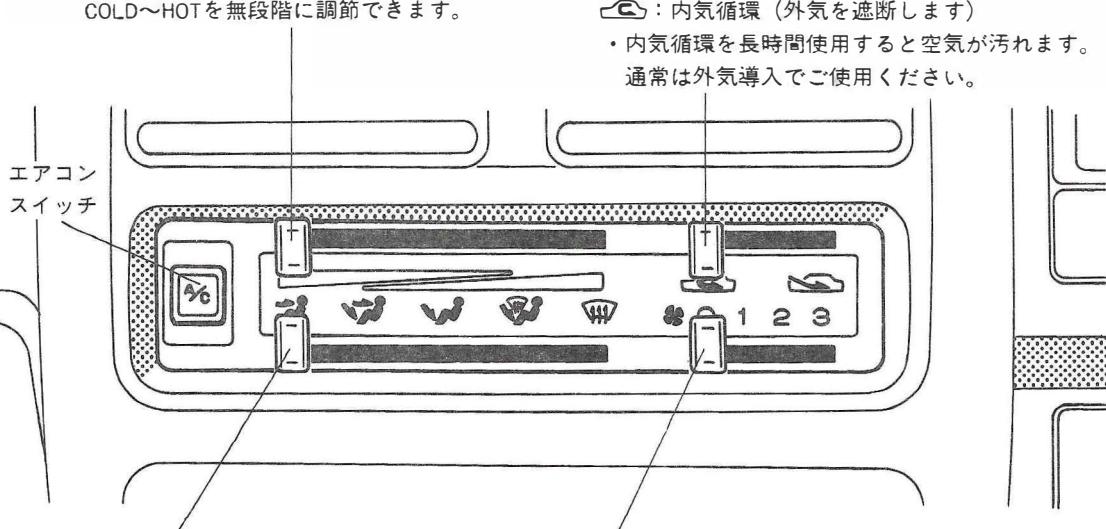
①内外気切換レバー

左：外気導入（外気を取り入れます）

右：内気循環（外気を遮断します）

・内気循環を長時間使用すると空気が汚れます。

通常は外気導入でご使用ください。



②モード切換(吹出口切換)

風の吹き出し口を選択します。

③ファンスイッチ

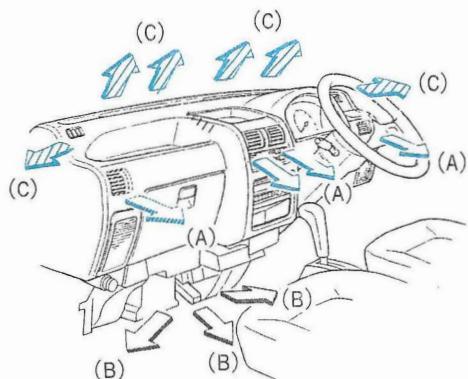
風の吹き出す強さ（量）を3段階に調節します。

0：停止 1：弱 2：中 3：強

2868

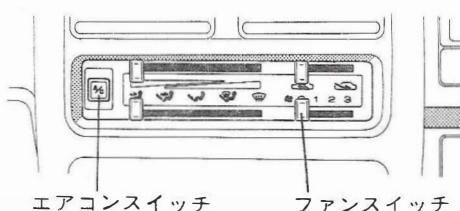


ヒーター・エアコン



- : ベント (A)
(ベントから出る風は暖められていません。)
- : ヒート (B)
- : デフロスター (C)

3726



2868

■吹き出し口

位置	吹き出し方向
	(ベント) : (A) 顔から胸にかけて風を送ります。
	(バイレベル) : (A)+(B) 顔から胸と足元に風を送ります。
	(ヒート) : (B) 足元に多く、ガラス(フロント・サイド)に少し風を送ります。
	(デフロスター/ヒート) : (B)+(C) ガラス(フロント・サイド)と足元に風を送ります。
	(デフロスター) : (C) ガラス(フロント・サイド)に風を送りガラスの曇りを取ります。

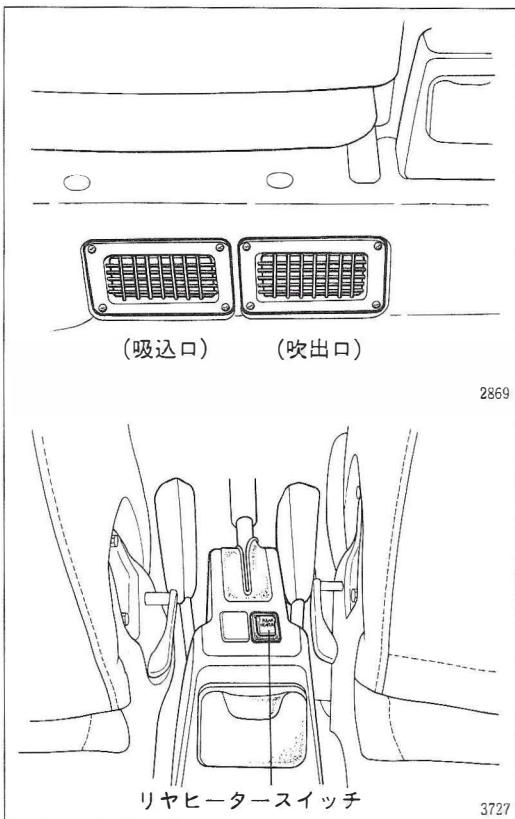
■エアコンスイッチ

エンジンが回っているとき、ファンスイッチを1~3にしてエアコンスイッチを押すと、エアコンが作動します。

エアコンは、冷房や除湿をするときに使用します。使用しないときは、スイッチを切っておいてください。



エアコンは、室内温度や外気温度が低いときは自動的に作動を停止します。



リヤヒーター

リヤヒータースイッチを操作すると、助手席シート下の吹き出し口より温風が吹き出し、後席を暖房します。

■ 使用するとき

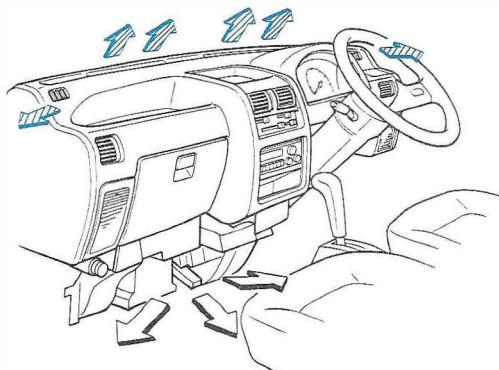
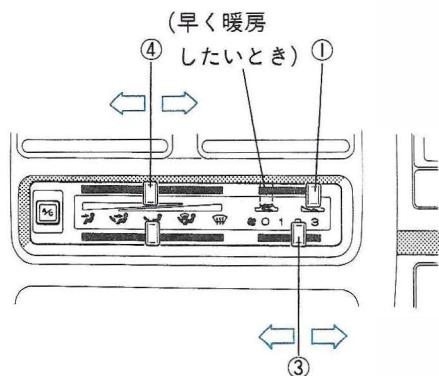
フロントヒーターの温度調整レバーを「HOT」側にし、リヤヒータースイッチをONにします。



リヤヒーターを使用しているときは、ヒーターの空気吸い込み口、吹き出し口を荷物などでふさがないでください。ファンモーターが過熱し、焼損するおそれがあります。

ヒーターの使いかた

暖房をするとき

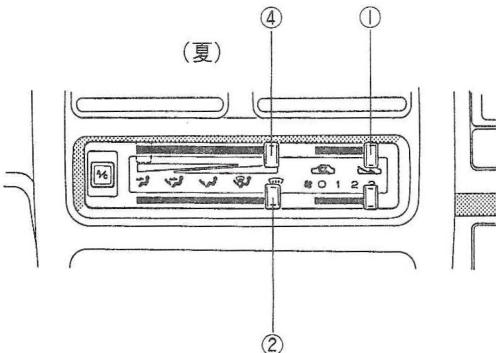


足元に暖かい風が吹き出します。同時にフロントガラスにも少量吹き出し、ガラスの曇りを防止します。室内温度の調節は④の温度調整レバーと③のファンスイッチで行います。

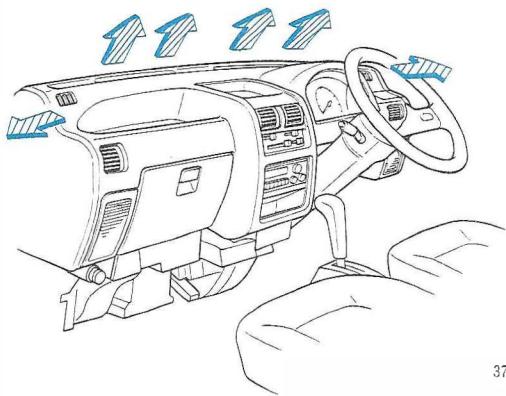
▶ 室内を早く暖めたいとき：①を内気循環にします。室内が暖まったら外気導入に切り替えてください。内気循環を長く使うとガラスが曇ります。



ガラスの曇りを取るとき



2874

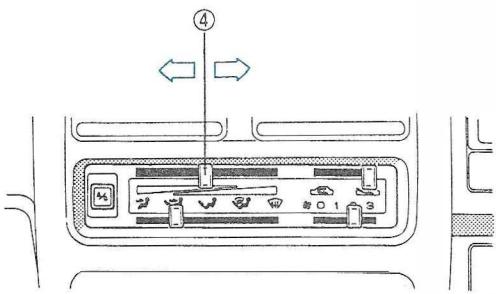


3729

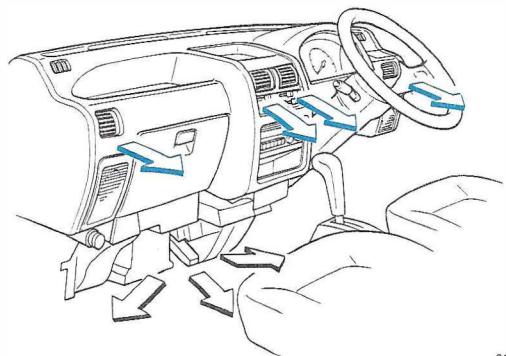
暖かい風がガラスに吹き出し、曇りや霜を取ります。曇り取りは外気導入でお使いください。

▶夏期の曇り止め：④の温度調整レバーを適度に調節します。②の吹出口切換レバーを の位置にして足元に暖気がこないようにしてください。

頭寒足熱にするとき



2882



3730

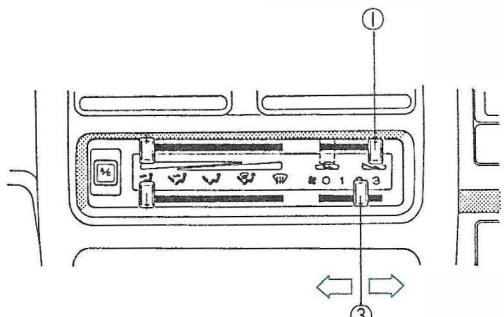
暖められた風が足元から、外気が顔から胸にかけて吹き出します。温度の調節は④の温度調整レバーで行います。



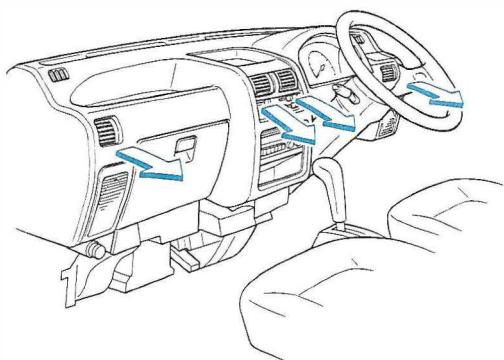
④の温度調整レバーを右端または左端にすると頭寒足熱にはなりません。



換気をするとき



2880



3731

③のファンスイッチでファンの強さを調節してください。(温度調節はできません)

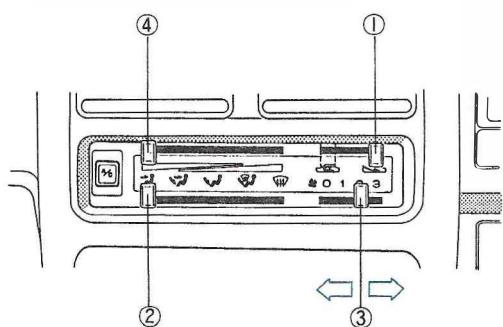
►自然換気をするとき：③のファンスイッチを“OFF”にしてファンを止めます。

※停車中、低速走行などのときは強制ベンチレーション(ファン回転)にしてください。

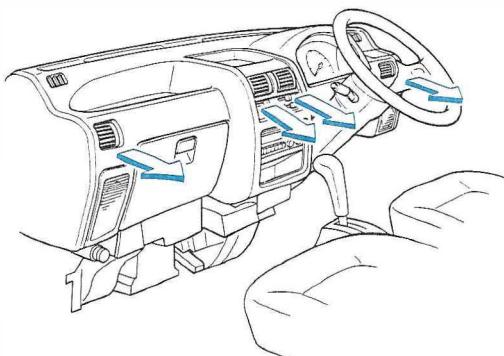
※風の流れを止めるときは、③のファンスイッチを“0”の位置にして、①を内気循環にしてください。

エアコンの使いかた

冷房をするとき(暑い日)



2881



3732

④の温度調整レバーをCOLD側にします。③のファンスイッチをお好みの位置にしてご使用ください。

►最大冷房をするとき……①を内気循環にして、③のファンスイッチを最大にします。

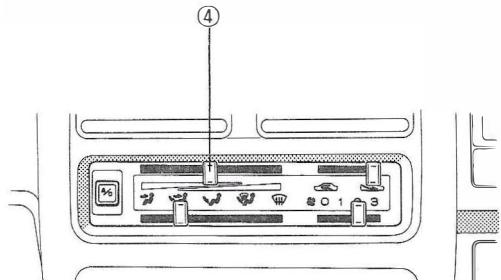


- ・内気循環は空気が汚れますので長時間連続使用しないでください。
- ・炎天下駐車後は、しばらく窓を開けながらエアコンを使用すると効果的です。

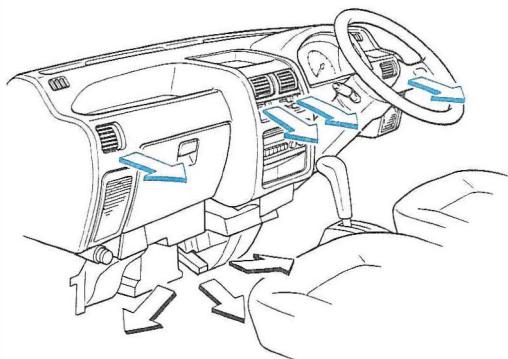


頭寒足熱にするとき(早春、晚秋)

④



2882



3733

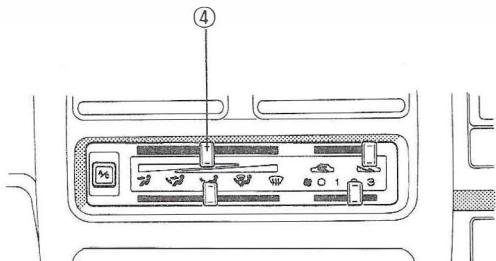
④の温度調整レバーを好みの位置に調節してご使用ください。



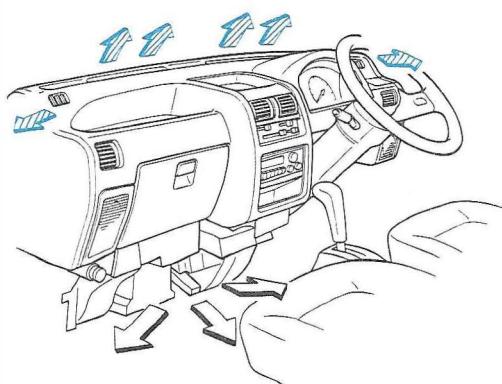
④の温度調整レバーを右端または左端にすると頭寒足熱にはなりません。

除湿暖房をするとき(つめたい雨の日)

④



2884

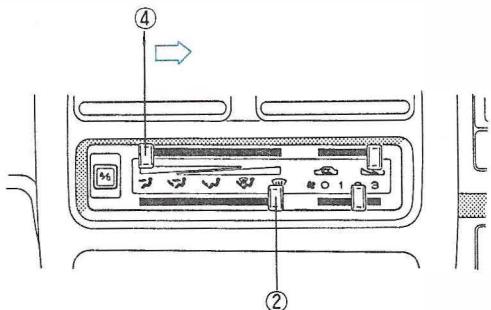


3734

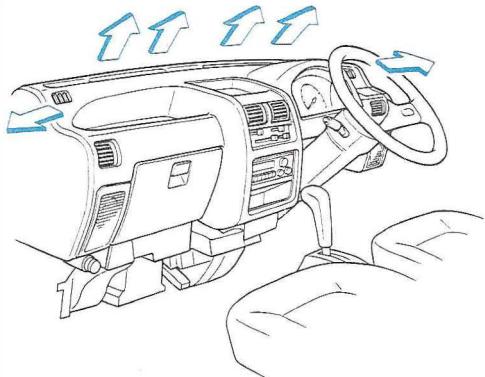
除湿された暖かい空気が足元と、ガラスに吹き出し、ガラスの曇り防止と室内温度を適温に保ちます。④の温度調整レバーで室内温度を調節してください。



—ガラスの曇りを取るとき(夏期)—



2886

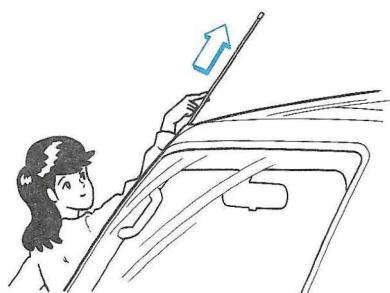


2887

冷気がガラスに吹き出し、曇り取りと室内を冷やします。

※外気温と吹き出し風の温度差が大きいと、窓の外が曇る場合があります。このときはエアコンを“OFF”にするか、④の温度調整レバーを“HOT”側に移動してください。

<ディアス、バン系>



ラジオ

■アンテナ

ラジオを聞くときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

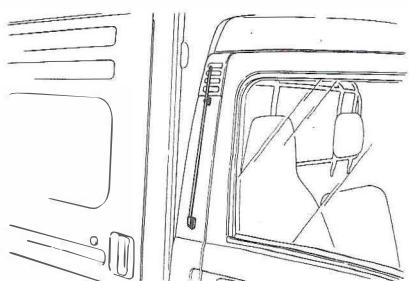


自動洗車機や屋根の低い所に入るときは、必ずアンテナを収納してください。

アンテナを曲げたりすると、伸縮性を損ないます。

2888

<トラック、パネルバン系>



4313



AM電子チューニングラジオ

■ラジオ放送を聞くとき

①電源スイッチを“ON”にします。

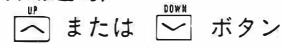
②適度な音量に調整してください。

③選局は
（自動選局）
（手動選局）
（ワンタッチ選局）

④お好みの音質にしてお聞きください。

③選局ボタン

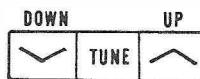
（自動選局）



またはボタンを0.5秒以上押し続けると自動選局し、放送局を受信すると止まります。

（手動選局）

またはボタンに軽く触るようになると9kHzピッチで選局ができます。

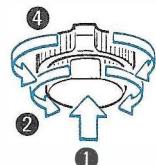


①電源 (SW)

エンジンスイッチがACCかONのとき押せば電源が入り、もう一度押すと切れます。

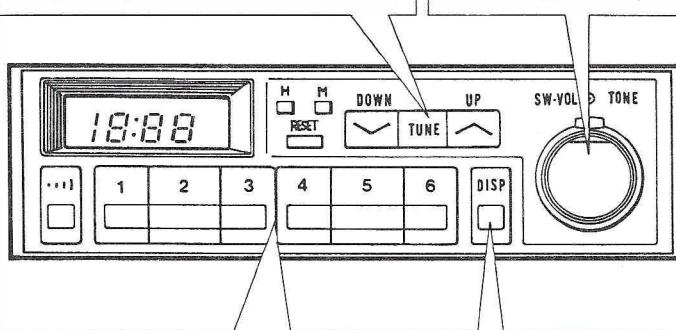
②音量調整 (VOL)

右に回すと音が大きくなり左に回すと小さくなります。



④音質調整 (TONE)

右に回すと高い音になり、左に回すと低い音になります。



③ワンタッチ選局ボタン

押すと、あらかじめセットされた放送局が受信できます。

（記憶方法）

選局ボタンで選局後、どれか1つのボタンを選び、2秒以上押し続けると記憶されます。同様に全てのボタンに記憶できます。



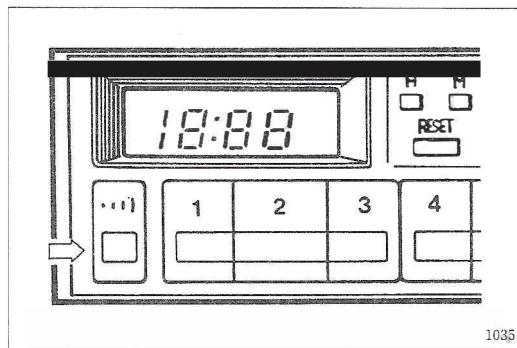
1. 時刻表示になっているときは記憶できません。周波数表示に切り替えて記憶させてください。
2. バッテリーをはずしたとき、ヒューズ切れのときには記憶が消えます。再度記憶させてください。

ディスプレイ切替ボタン

- ・押すと、受信周波数表示と時刻表示が交互に切り替わります。ただし、受信周波数表示にしたときは5秒後に時刻表示に切り替わります。
- ・ラジオ電源をONにしたときや選局ボタンを操作したときにも5秒間周波数表示に切替わります。



■交通情報を聞くとき



交通情報ボタンを押すと、高速道路等で実施している交通情報局(1620KHz)を自動的に受信します。もう一度押すと、事前に受信していた放送局に戻ります。

このボタンは「7つ目のワンタッチ選局ボタン」としても利用できます。

(ワンタッチ選局ボタンの記憶方法参照)



- ・新車時は1620KHzにセットしてあります。

- ・バッテリーの接続が切れたときは1620KHzになります。

■時計を合わせるとき

エンジンスイッチが“OFF”でも時刻表示をしています。

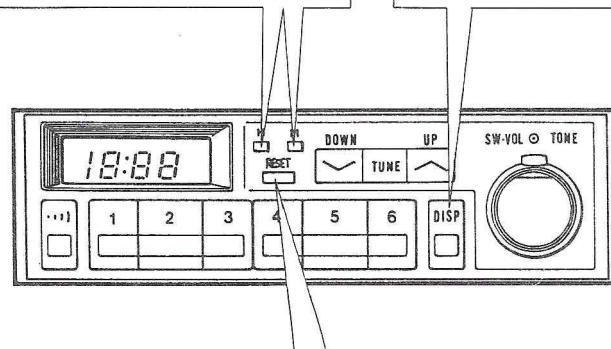
夜間は、エンジンスイッチを“ACC”か“ON”にして確認してください。

時分調整 (H、M)
Hボタンを押せば「時」の調整
Mボタンを押せば「分」の調整
ができます。

表示のしかた (DISP)

通常は時刻表示になっています。

周波数表示しているときは、このボタンで
時刻表示に切替えます。



時報合わせ (RESET)

時報と一緒にこのボタンを押すと、時報合わせ
ができます。

(例) 12:01～12:29 → 12:00
12:30～12:59 → 1:00

この場合「秒」もゼロになります。ただし、秒
表示はありません。



バッテリをはずしたとき、ヒューズ
が切れたときなどで電源が切れて再
び電源を接続したときは、表示が
12:00で点滅します。正しい時刻に
合わせてください。



カセット一体型ラジオ

■ ラジオ放送を聞くとき

▶ディスプレイ切り替えボタン

- 押すと、受信周波数表示と時刻表示が交互に切り替わります。ただし、受信周波数表示にしたときは、5秒後に時刻表示に切り替わります。
- ラジオ電源を「ON」にしたときや選局ボタンを操作したときにも5秒間受信周波数表示に切り替わります。

③ AM/FM 切り替えボタン

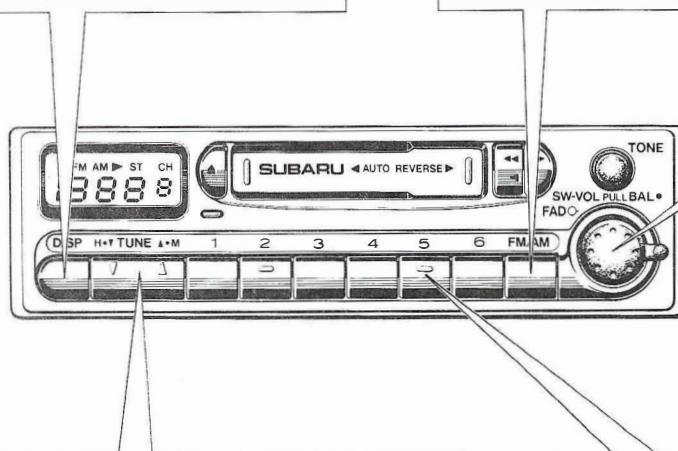
ボタンを押すとAMとFMが交互に切り替わります。表示部にAM、FMの表示が点灯します。FMステレオ放送を受信しているときは、表示部に **ST** が点灯します。

① 電源スイッチ(SW)

エンジンスイッチが「ACC」か「ON」のとき電源スイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

② 音量調整(VOL)

右にまわすと音が大きくなり、左にまわすと小さくなります。



④ 選局ボタン

【自動選局】

または 側を0.5秒以上押し続けると自動選局し、放送を受信すると止まります。

【手動選局】

または 側に軽く触れるとAMで9kHz、FMで0.1MHzピッチで周波数が変わります。

④ ワンタッチ選局ボタン

押すと、あらかじめセットしてある放送局が受信します。AM放送6局、FM放送6局が記憶できます。

【記憶方法】

AM/FM切り替えボタン、選局ボタンで選局後、どれか1つのボタンを選び、2秒間以上押し続けると記憶されます。同様にすべてのボタンに記憶できます。



●時刻表示になっているときは記憶できません。周波数表示に切り替えて記憶させてください。

●バッテリーをはずしたとき、ヒューズ切れのときには記憶が消えます。再度記憶させてください。



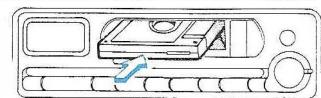
■テープの再生

▶テープのそう入

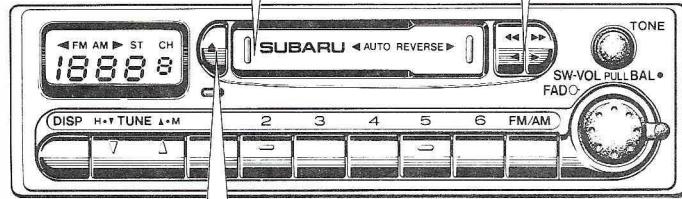
エンジンスイッチが「ACC」か「ON」のとき、テープを差し込むと電源が入り、再生が始まります。

ラジオ受信中でもテープの再生ができます。
(カセットデッキが作動すると自動的にラジオが切れます)

音量調整、音質調整はラジオ受信時と同じです。



3907



▶再生テープを止め

るには
「テープイジェクト
ボタン」を押すとカ
セットが押し出され
ます。



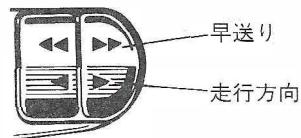
8909

▶テープの早送り、巻き戻し、走行方向 の切り換え

テープ走行方向(矢印の点灯方向)のボタ
ンを押すと早送り、反対方向のボタンを
押すと巻き戻しになります。

早送り、巻き戻しを止めるときは反対側
のボタンを軽く押します。その位置から
再生がはじまります。

テープの走行方向を替えるときは、両方
のボタンを同時に押します。



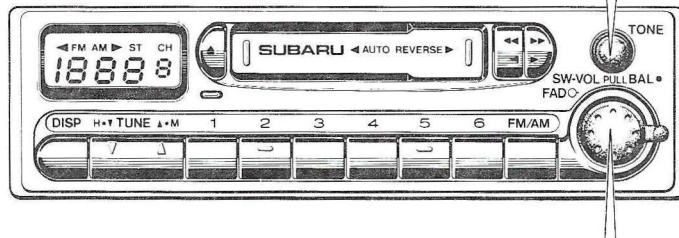
3908



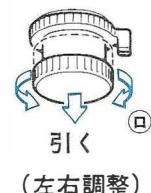
■ 音質調整、バランス調整

▶ 音質調整

右に回すと高音、左に回すと低音が強調されます。



3906



▶ バランス調整

④ 前後バランス調整(FADER)

右に回すと後側スピーカーの音量が、左に回すと前側のスピーカーの音量が小さくなります。

通常、右にいっぱい回しておいてください。

⑤ 左右バランス調整(BALANCE)

ノブ(SW・VOL)を引いて行います。右に回すと左側スピーカーの音量が、左に回すと右側スピーカーの音量が小さくなります。

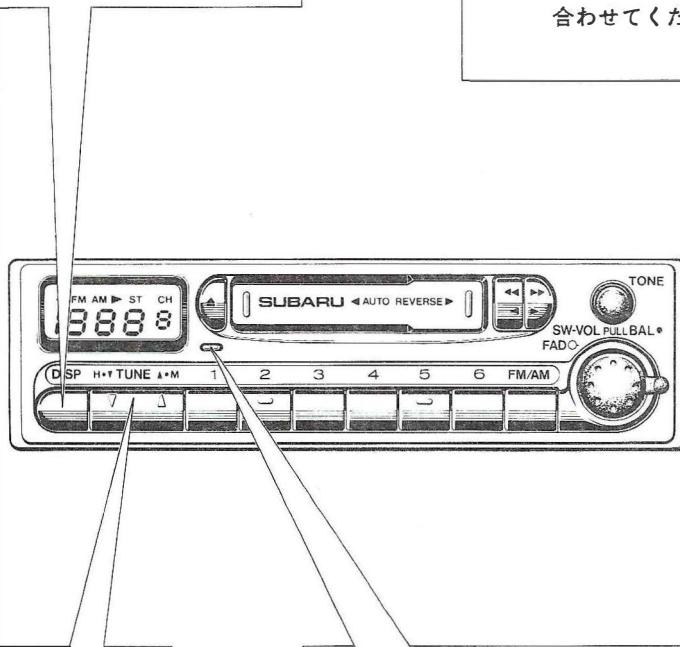
■時計を合わせるとき

- エンジンスイッチが“OFF”でも時刻表示しています。
- 夜間は、エンジンスイッチを“ACC”か“ON”で確認してください。

表示のしかた(DISP)

通常は時刻表示になっています。
周波数表示しているときは、このボタンで時刻表示に切替えます。

一言 バッテリをはずしたとき、ヒューズが切れたときなどで電源が切れて再び電源を接続したときは、表示が12:00で点滅します。正しい時刻に合わせてください。



3609

時分調整(H、M)

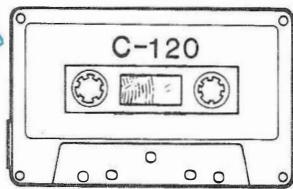
「DISP」ボタンを押しながらHボタンを押せば「時」の調整
Mボタンを押せば「分」の調整
ができます。

時報合わせ(RESET)

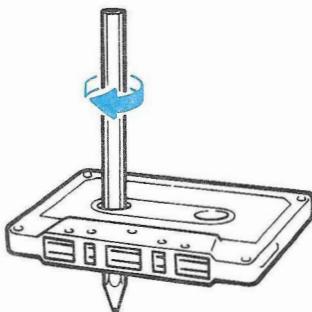
時報と同時にこのボタンを押すと、時報合わせ
ができます。

(例) 12:01～12:29→12:00
12:30～12:59→1:00

この場合「秒」もゼロになります。ただし、秒
表示はありません。



1729



1730

■カセットテープについて

カセットテープの性能を悪くしないため、また、カセットテープの巻きつきなどを防ぐため、次の点に注意してください。



- C120(120分用)は、テープが非常に薄いため、伸びたりプレーヤーに巻き付いたりして使用不能の原因となります。使用しないでください。
- ラベルのはがれたテープを使用したり、テープをデッキに入れたまま放置するのはやめてください。回転不良やテープが取り出せなくなる場合があります。

▶テープの保管

カセットテープは、高温多湿、直射日光、ほこり、強い湿気を嫌います。保管するときは次の点に注意してください。



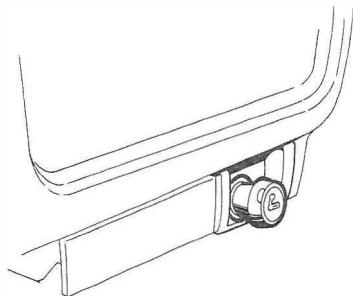
- 必ずケースに入れ、日の当たらない場所を選んで保管してください。
- プレーヤーにテープが巻に込まれたりしないよう使用するときは、エンピツなどでたるみを取つてからデッキに差し込んでください。

▶クリーニングテープ

ヘッド周辺をクリーニングするときに使います。ヘッド周辺は汚れやすいので、1か月に1回程度はクリーニングテープでクリーニングしてください。



1731



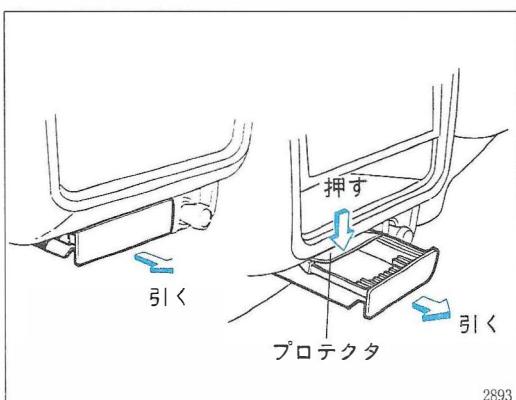
2892

シガーライター

- エンジンスイッチをACCまたはONにします。
- 押し込んだら手を離し、自動的に戻るまで待ちます。



- ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。
- 押えつけたままにしないでください。ライターが過熱して非常に危険です。
- 30秒たっても戻らないときは、手で引き出してください。
- 他車のライターを使用しないでください。戻らなくなることがあります。
- 差し込み口からは、スバル純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。



2893

灰皿

■フロント

▶使うとき

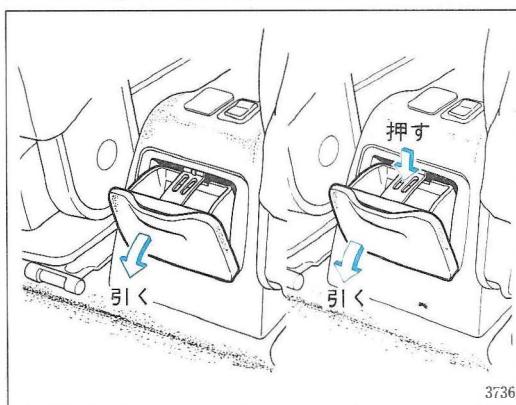
底の凹みに手をかけて引き出します。

▶はずすとき

いっぱいに引き出し、プロテクタを下に押しながら引き抜きます。

▶つけるとき

ホルダーの板ばねの下から差し込みます。



3736

リヤ

▶使うとき

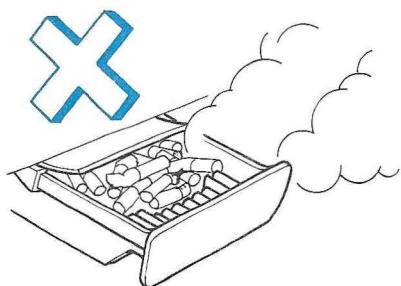
灰皿の上を引きます。

▶はずすとき

灰皿を開けた状態で灰落しを押したままはずします。

▶つけるとき

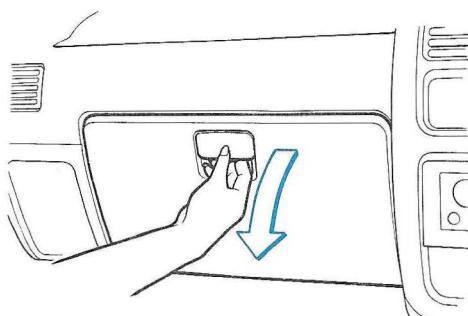
灰皿下部を差し込み、灰落しを押したまま押し込みます。



2895

■灰皿を使用するときは

- ・マッチ、タバコなどは、完全に消してから入れてください。
- ・紙くずなど燃えやすいものを、入れないでください。
- ・吸いがらをため過ぎないでください。
- ・使用後は確実に閉めてください。あけたままにすると、タバコの火が他の吸いがらに燃え広がり、火災になるおそれがあります。



2897

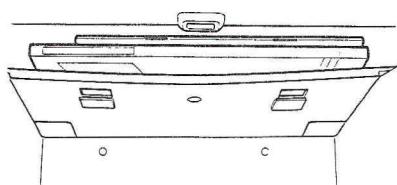
室内の小物入れ

■グローブボックス

小物、地図、書類、工具などを入れるのに利用します。
ロックの凹みに手をかけ、手前に引いてフタを開けます。

注意

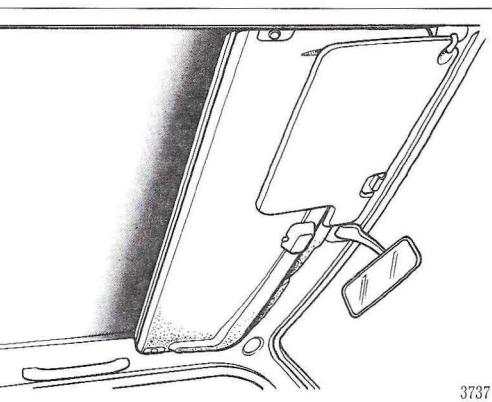
グローブボックスを開けたまま走行しないでください。
走行中のショックで中に入れたものが飛び出し、危険です。



2898

■車検証入れ

グローブボックスの上側に車検証入れがあります。



3737

■オーバーヘッドシェルフ

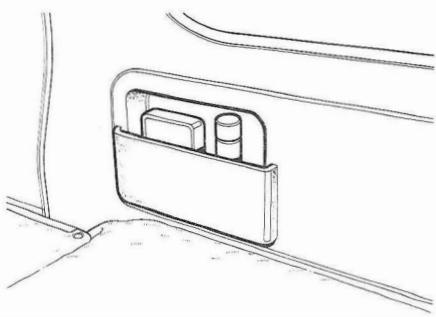
カバンなどの荷物をしまうのに使用します。



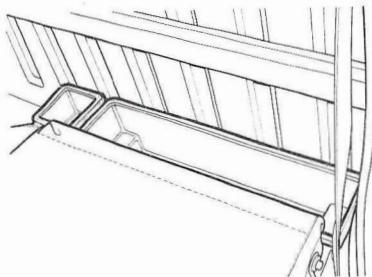
■サイドポケット

フラットシートにするとき、はずしたヘッドレストを入れておくのに使用します。

また、小物類や手回り品を入れておくのにも便利です。



2900



2901

■リヤトレー

助手席後部にあり、小物、手回り品、工具などを入れておくのに便利です。

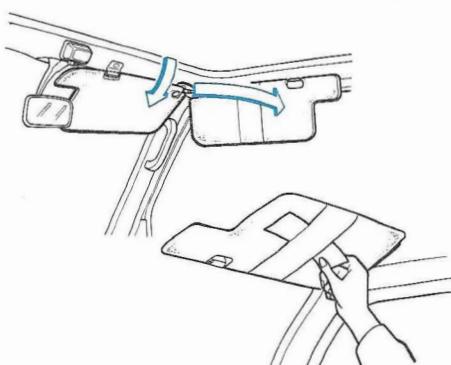
出し入れするときは、助手席の背当てを前に倒します。

.....[28](#)ページ

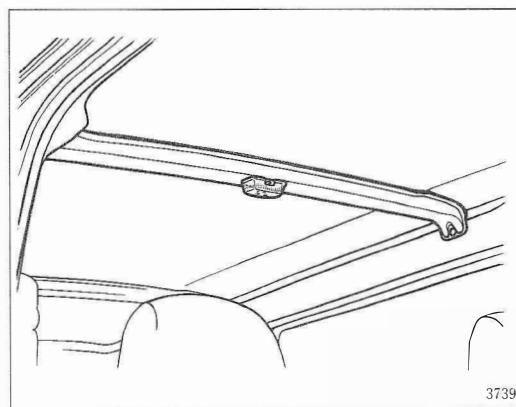
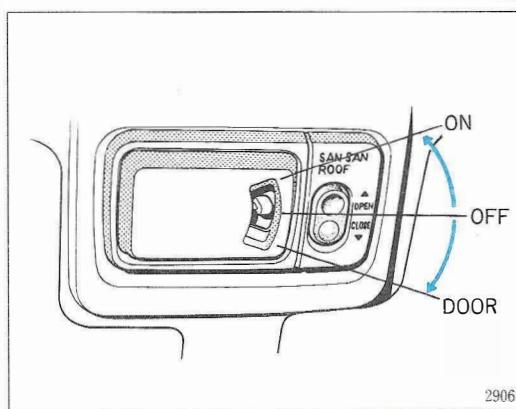
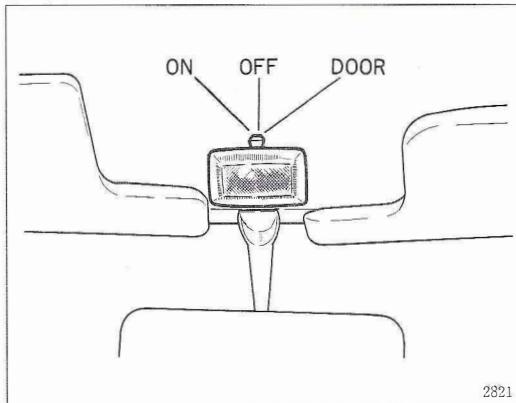
サンバイザー

直射光線やドアから入る光線をさえぎるときに使用します。横に回すときはフックからはずして回します。

運転席サンバイザーには、チケットホルダーがついています。



3738



ルームランプ

■ トラック、バン・ハイルーフ、ディアス系
.....ルームミラー取付部に1個取り付け

▶ STD仕様 ON、OFFのみ
ON 常に点灯のまま
OFF 消灯

▶ SDX仕様 運転席ドアの開閉と連動
ON 常に点灯のまま
OFF 消灯
DOOR 運転席ドアを開けたとき点灯

▶ バン・ハイカスタム 運転席ドアと助手席ドアの
ディアス 開閉と連動
ON 常に点灯のまま
OFF 消灯
DOOR 運転席ドアか助手席ドアを開けた
とき点灯

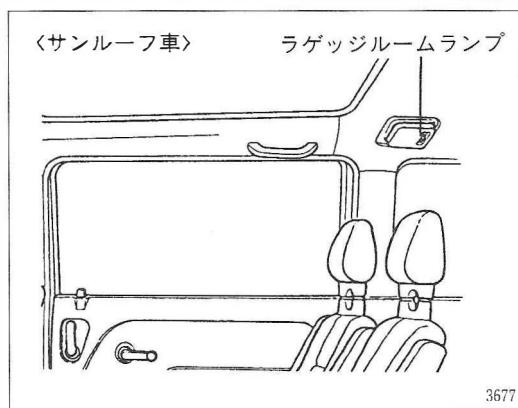
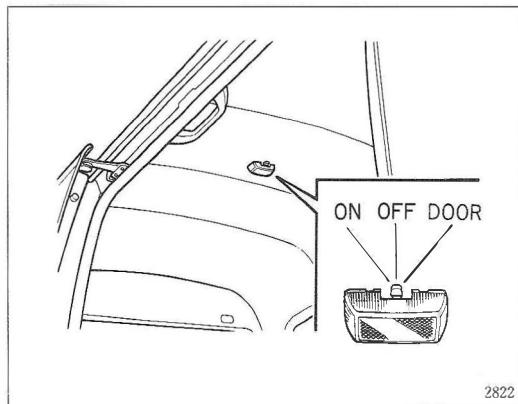
■ 標準ルーフ・バン系 ルーフ中央に1個取り付け

▶ STD仕様 ON, OFFのみ
ON 常に点灯のまま
OFF 消灯

▶ SDX仕様 運転席ドアの開閉と連動
ON 常に点灯のまま
OFF 消灯
DOOR 運転席ドアを開けたとき点灯

ルームランプを長時間点灯したままにすると、バッテリーあがりを起こすことがあります。

車をはなれるときは、必ず消灯を確認してください。



ラゲッジルームランプ

バン・ハイルーフ系とディアス系に取り付けられています。

▶ STD仕様 ON, OFFのみ

- | | |
|-----------|---------|
| ON | 常に点灯のまま |
| OFF | 消灯 |

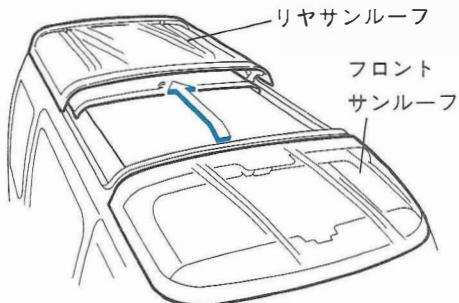
▶ SDX仕様 前席ルームランプの点灯・消灯と連動

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| ON | 常に点灯のまま |
| OFF | 消灯 |
| DOOR | 前席ルームランプの点灯・消灯と連動
前席ルームランプが |
| ON | 点灯したまま |
| OFF | 消灯 |
| DOOR | 運転席ドアを開けるとルームランプ、
ラゲッジルームランプ同時点灯 |

▶ バン・ハイカスタムとディアス

- | | |
|------------|---------------------------|
| | 左スライドドアとリヤ
ゲートの開閉と連動 |
| ON | 常に点灯のまま |
| OFF | 消灯 |
| DOOR | 左スライドドアカリヤゲートを開けた
とき点灯 |

ラゲッジルームランプを長時間点灯したままにすると、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。
車をはなれるときは、必ず消灯を確認してください。



2903

サンサンルーフ(装備車のみ)

- 手でハンドルを操作するとガラスリッドの後端が持ち上がるフロントサンルーフ
- スイッチを操作するとガラスリッドがスライドして開閉するリヤサンルーフが装備されています。

■フロントサンルーフ

▶あけるとき

フロントサンシェードを全開にしてからハンドルを手前に引き、サンルーフ後端を持ち上げるように押し上げて固定します。

▶閉めるとき

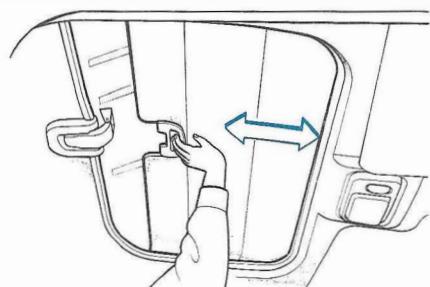
ハンドルを手前に引いてサンルーフを下げ、手のひらでハンドルをいっぱい押します。



注意 開閉操作時、指をはさまれないようにご注意ください。



2904



2905

■フロントサンシェード(遮光板)

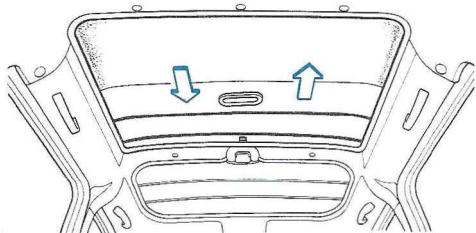
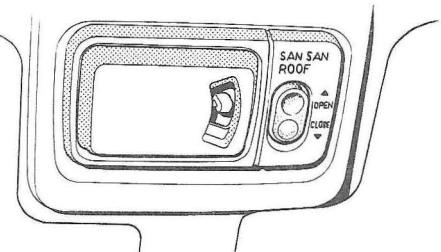
日差しの強いときなどに手で開閉できます。

■開閉するとき

取っ手に手を入れ、ゆっくりスライドさせます。



注意 サンシェードは全開か全閉で使用してください。途中で止めて使うと走行中音が出たり、急発進、急制動時に開閉することがあります。



3740

■リヤサンルーフ

▶あけるとき

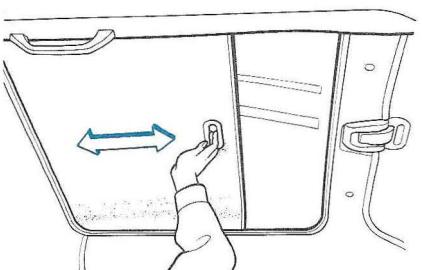
エンジンスイッチ「ON」のとき、サンルーフスイッチの「OPEN」側を押している間、ガラスリッドが開きます。手を離すとその場で止まります。

▶閉めるとき

サンルーフスイッチの「CLOSE」側を押している間閉じます。全閉になる手前(約250mm)で1度止まります。一度手を離し、安全を確認して再びスイッチを押します。途中で手を離すと、その場で止まります。

注意

消費電力が大きいので、エンジンをかけた状態で開閉してください。



2907

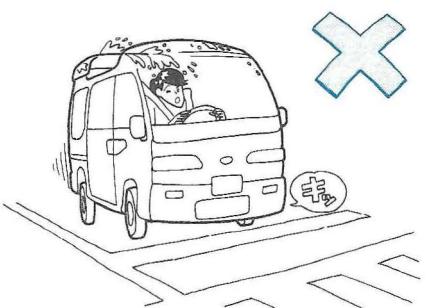
■リヤサンシェード(遮光板)

ガラスリッドと連動して開閉します。また、ガラスリッドが閉まっているときは、手で開閉できます。

取っ手に手を入れ、ゆっくりスライドさせます。

一言

サンシェードは、なるべく全開か全閉で使用してください。途中で止めて使うと、走行中音が出ることがあります。



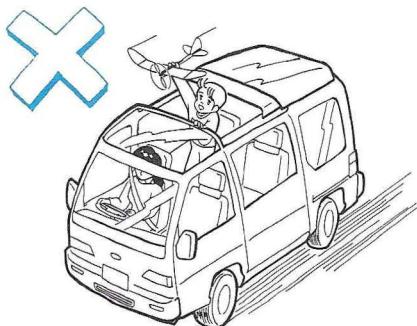
2908

■サンルーフを開閉するとき

- 雨の後や洗車後はサンルーフ上の水を拭き取ってから開けてください。また、降雪時はルーフ上の雪を取り除いてください。室内に水や雪が入るおそれがあります。

- サンルーフを開閉するときは、手や首をはさまないよう十分ご注意ください。とくにお子さまには気をつけてください。

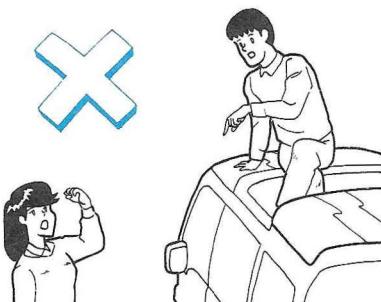
- サンルーフが全開、または、全閉したらスイッチを押し続けないでください。故障の原因になります。



2909

●走行中または一時停止時に、ルーフ開口部から顔や手、物などを出さないでください。思わぬ障害物で事故のおそれがあります。とくにお子さまには気をつけてください。

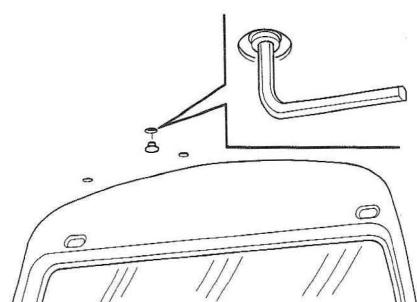
●降雪時や厳寒時などには凍結することがあります。このようなときには作動させないでください。故障の原因になります。



2910

●ルーフ開口部のふちに腰をかけたり、荷物をのせるなど大きな力を加えないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。

●車を離れるとき、洗車時は、サンルーフが完全に閉じていることを確認してください。



2911

■リヤサンルーフが動かないとき

バッテリー上がり、故障などで「CLOSE」側を押しても作動しないときは、次の方法でガラスリッドを閉めてください。

①緊急開閉用メクラキャップをはずします。

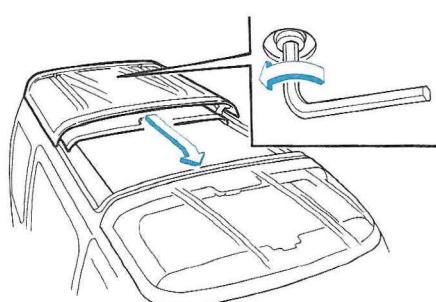
②L型ハンドル(6角)をモーターの軸穴に差し込みます。

(L型ハンドルは車両搭載工具に入っています)

③L型ハンドルでモーター軸を左回転させて閉めます。



応急処置後は、必ず販売店で点検整備を受けてください。



2706



点検整備と車の手入れ

85

■ 点検と整備	85
■ 運行前点検	85
■ 定期点検	91
■ 簡単な整備	99
■ 車の手入れ(洗車)	109
■ 車の手入れ(ワックスかけ)	110
■ 車の手入れ(内装の手入れ)	111
■ 車の保管	112

点検と整備

車は使用していくにしたがって劣化が進み、性能低下が生じます。劣化や性能低下を放置しておくと事故や故障、公害の原因となります。また、燃費を悪くしたり、車の寿命を短くする原因にもなります。

車の点検整備制度は、「くるま社会」の安全と快適さを保つために必要なものです。



運行前点検

運行前点検は、自動車を使用する人が1日1回、運転する前におこなう点検です。

この点検は、運転席に座ったり、エンジンルームをのぞいたり、車の周りをまわりながら車の状態を見ることでどなたでも短時間に簡単にできます。

運行前点検を確実におこなうためには、一定の順序でおこなうことが効果的です。



■運行前点検の順序

①前日の異状個所の点検

②車の周りをまわりながら

- ・反射器、ナンバープレートの点検 87
- ・灯火装置、方向指示器の点検 87
- ・タイヤの点検 87

③エンジンフードを開けて

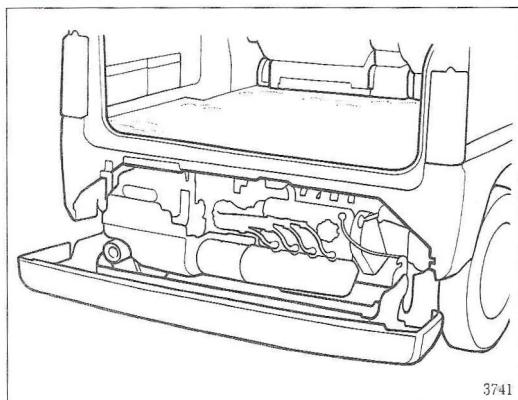
- ※エンジンオイル量の点検 88
- ※オルタネータベルトの点検 88
- ※冷却装置の点検 89

④運転席に座って

- ※燃料の量の点検 89
- ・後写鏡の点検 89
- ・ハンドブレーキの点検 100
- ・ブレーキの点検 100
- ・ブレーキ液量の点検 100

・※印の点検項目は、80km/h以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、点検を省略できる項目です。

・異常が認められた場合は、必ず、スバル販売店で点検を受けてください。



■点検作業上の注意

- ・安全な場所で点検してください。
- ・エンジンルーム内に布や工具などを置き忘れないでください。
- ・必要なとき以外は、エンジンを止めて点検整備してください。

①前日の異状個所の点検

異状を認められた個所は運行に支障はないかを点検します。



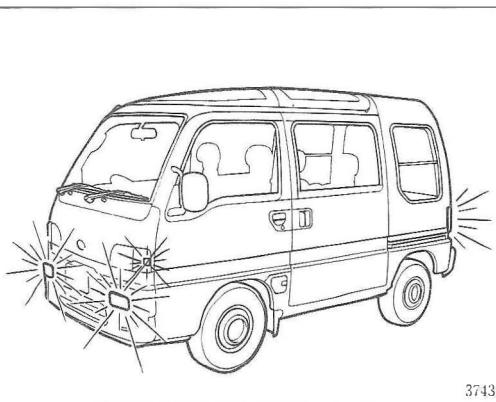
ナンバープレート

3742

②車の周りをまわりながら

■反射器、ナンバープレートの点検

- ①反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。
- ②ナンバープレートが確実に取り付けられているかを手でさわって点検します。



3743

■灯火装置、方向指示器の点検

- ①ヘッドライト、車内灯、尾灯、番号灯、後退灯、方向指示器などを作動させ、点灯または点滅するか点検します。また、レンズの汚れ、損傷の有無も点検します。
- ②ブレーキペダルを軽く、くり返し踏み込み、制動灯の点灯を確認します。

点検は、壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。



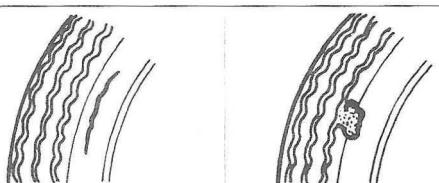
適性空気圧 過大空気圧 過少空気圧

0355

■タイヤの点検（空気圧）

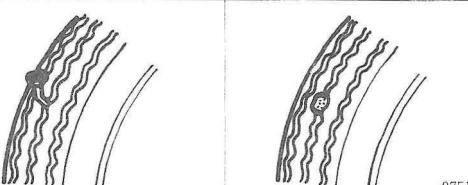
タイヤ接地部のたわみ状態をみて、空気圧が適当であるかを点検します。

☆タイヤ空気圧 [133 ページ](#)



■タイヤの点検(き裂、損傷、異常摩耗、異物)

- ①タイヤ接地面全周と両側面にき裂、損傷がないか目視点検します。また、釘、金属片、異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないか、目視や手でさわって点検します。
- ②タイヤ全周に片減り、局部摩耗、段付き摩耗がないか目視点検します。



0751



2916

■タイヤの点検(タイヤの溝の深さ)

タイヤの溝の深さは十分かをスリップサイン(摩耗限度表示)で点検します。

ウェア
インジケーター

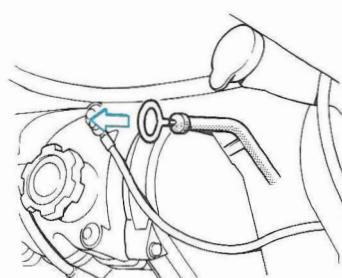


1797

●スリップサイン

タイヤの溝には円周上に6か所(△印部)、1.6mmだけ深い部分があります。

スリップサインが表れたら、すみやかに新品タイヤと交換してください。



2920

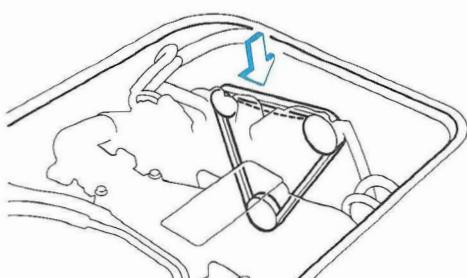
③エンジンフードをあけて

■エンジンオイル量の点検

- 車を水平な場所におき、エンジン始動前かエンジン停止後5分以上たってから点検してください。

- (1)オイルレベルゲージを抜いて付着しているオイルを拭いてからいっぱい差し込みます。
- (2)静かに抜いてゲージ先端にいたオイルが上限と下限の間にあるかを点検します。上限と下限の間は約1ℓです。

☆エンジンオイルの補給 101 ページ



2921

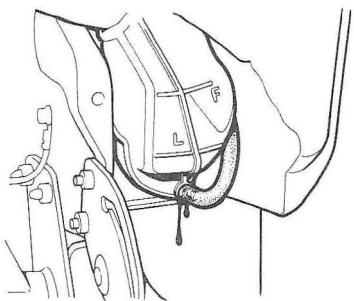
■オルタネータベルトの点検

- ①ブーリー間のベルト中央部を指で強く押して(約10kgの力)たわみ量を定規などで点検します。

☆ベルトのたわみ量 132 ページ

- ②ベルトにきずやひび割れがないかも点検します。

注意 ベルトを交換するときは、必ずスバル純正ベルトをご使用ください。

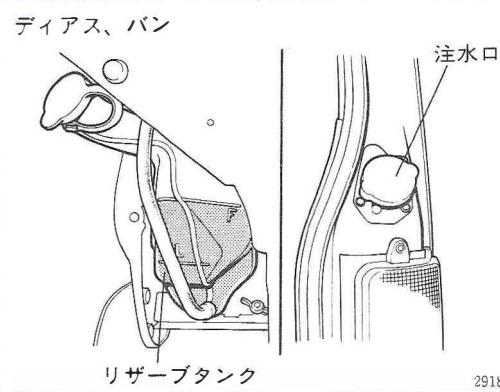


2917

■冷却装置の点検(水もれ)

リザーブタンク、ラジエータホースなどから水もれがないかを点検します。

また、車を止めておいた地面に水のもれたあとがないかも点検します。



2918

■冷却装置の点検(冷却水の量)

①エンジンが冷えているとき、リザーブタンク内の冷却水量が上限(FULLまたはF)と下限(LOWまたはL)の間にあるかを点検します。

②液面が下限に近いときは、リザーブタンクの上限まで「スバルクーラント」を補給します。

③液面が下限より低いときは、さらに注水口のキャップをはずし、口元まで補給します。

[注水口位置]

ディアス、バン：リヤゲートを開いた右側ランプの上トラック、パネルバン：助手席シート下の点検口の中

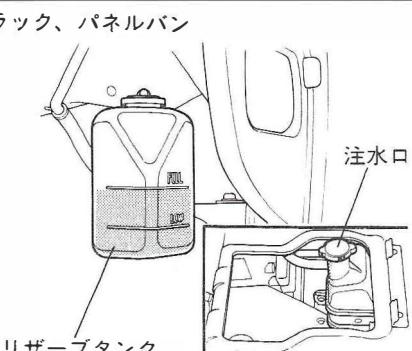
注意

- 約2か月に一度、エンジンが冷えているときに注水口のキャップを外し、液面を確認して減っていたら口元まで補給します。

補給後は、キャップを確実に取り付けてください。

- 冷却水の減りかたが著しいときは、もれが考えられます。早めに点検を受けてください。
- エンジン停止直後の水温が高いとき注水口キャップをはずすと熱湯や蒸気が吹き出しやけどする危険があります。水温が下がってから布きれなどで包み、静かに開けてください。

★冷却水の補給 102 ページ



2919

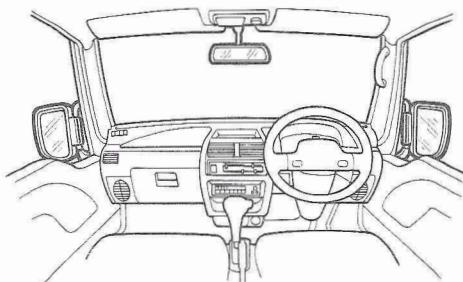
④運転席に座って

■燃料の量の点検

エンジンスイッチをONにして燃料計で燃料残量が目的地まで走行するのに十分であるか点検します。



2786

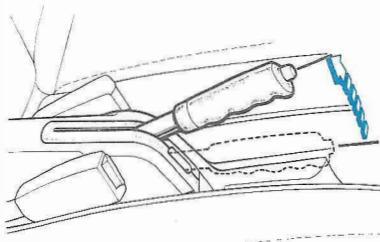


2822

■後写鏡の点検

運転席に正しく座り、ルームミラー、アウターミラーが後や側面の状況が十分確認できる位置に調整されているかを点検します。

また、汚れているときは、きれいに清掃しておきます。



2823

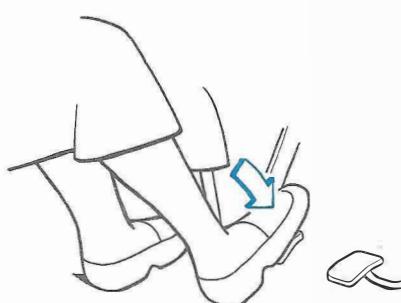
■ハンドブレーキの点検

レバーを完全に戻してから約20kgでゆっくり引き上げ、「カチカチ音」を数えて引きしろを点検します。

引きしろ	7～9山
------	------

注意

引きしろが多いときや異常を感じられたときは、すみやかに点検整備を受けてください。



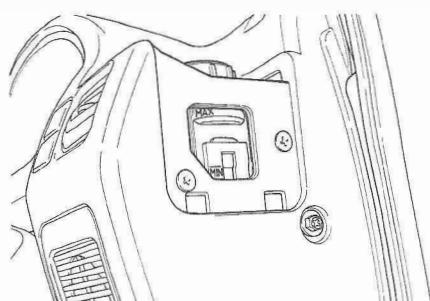
2835

■ブレーキの点検

- ①エンジンを始動して2～3回ペダルを踏み込みます。
- ②ペダルを約30kgで踏み込んで床面とのすき間(踏み残りしろ)や踏み応えが適当であるかを点検します。

注意

床面とのすき間が少なかつたり、踏み応えがやわらかく感じられるときは、ブレーキ液のもれや空気混入のおそれがあります。すみやかに点検整備を受けてください。



4314

■ブレーキ液量の点検

ブレーキ液点検用フタをはずしてから、リザーブタンク内の液量が上限「MAX」と下限「MIN」の間にあるかを点検します。

液もれは、タンク周辺を目視や手できわって点検します。

注意

ブレーキ液の減りかたが目立つて早いときはブレーキ系統の液もれが考えられます。すみやかに点検整備を受けてください。

☆ブレーキ液の補給 100 ページ



2926

定期点検

常時、車の状態をベストコンディションに維持するため、定期的に行う点検整備です。

定期点検は、車を使用する人の責任で行うもので、6か月、12か月、24か月の3種類があります。

6か月点検には、Ⓐ、Ⓑの項目があります。

Ⓐ…点検を行うに当たって、自動車の構造・装置に関する基礎的な技術知識を有する人なら、自らでも実施可能なもの。

Ⓑ…点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械・工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取り外しを伴うもの。

ご自身で6か月点検のⒶ項目の点検を行う場合は、点検方法に基づき作業してください。



Ⓐ、Ⓑの項目の分類については、整備手帳をご覧ください。

■点検項目

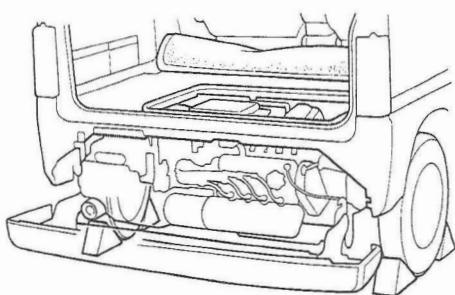
- ・ブレーキペダルの遊び 93
- ・踏み込んだときの床板とのすき間 93
- ・ブレーキのきき具合 93
- ・ハンドブレーキレバーの引きしろ 94
- ・ブレーキホース、パイプのもれ、損傷
および取り付け状態 94
- ・リザーバタンクの液量(ブレーキ液量) 94
- ・タイヤの空気圧 94
- ・タイヤのき裂、損傷 95
- ・タイヤの溝の深さ、異常な摩耗 95
- ・タイヤの金属片、石、その他の異物 95
- ・クラッチペダルの遊び 95
- ・切れたときの床板とのすき間 96
- ・バッテリー液量 96
- ・エンジンオイルの汚れ、量 97
- ・冷却水の量 97
- ・オルタネータベルトのゆるみ、損傷 98
- ・灯火装置、方向指示器の作用 98



2928

■定期点検整備記録簿の保管

定期点検整備記録簿(整備手帳)は、点検結果と整備概要を記録、保存して、車の維持管理に役立てるものです。常時車に備えつけることになっています。なお、保存期間は2年です。



注意！回転部、高温部

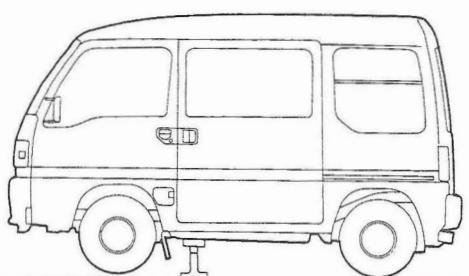
3744

■点検作業上の注意

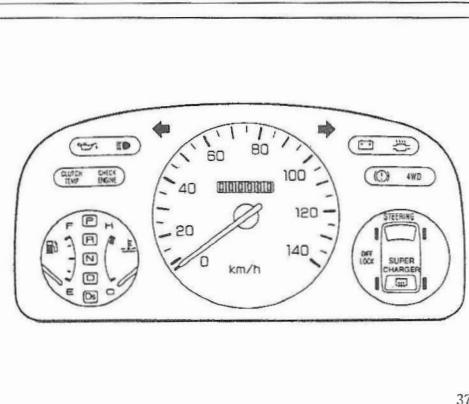
- (1)安全な場所で、輪止めをしてから作業を行ってください。
- (2)換気の悪い車庫、屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒をおこす危険があります。
- (3)エンジンルーム内の点検整備では、エンジン高温部、回転しているブーリーやベルト、エンジンルームファンに触れないよう十分ご注意ください。やけどなど思わずぬけがをするおそれがあります。
- (4)必要なとき以外は、エンジンを止めて点検整備してください。

■ジャッキアップするとき

ジャッキアップする場合、適切なジャッキを使用し、標準装備のジャッキは使用しないでください。(標準装備のジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン脱着に使用するものです)



3724



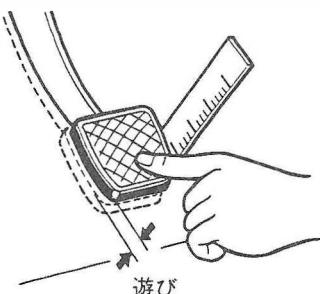
3715

■4WD車を点検整備するとき

4WDのまま作業すると車が急に動いたり、クラッチ系統を損傷させるおそれがあります。必ず次の方法で2WD状態にして作業をしてください。

セレクティブ4WD……「4WDセレクトスイッチ」を2WD状態にし、「4WD表示灯」の消灯を確認してください。

フルタイム4WD……「トランスファーシフトロッド」を引き出して4WDを解除します。



1781

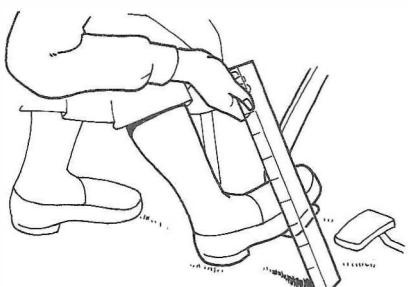
■ブレーキペダルの遊び

エンジンを止めた状態で2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを指で抵抗を感じるまで押し、移動量(遊び)を定規などで点検します。

遊び	1～3 mm
----	--------



ハンドブレーキレバーを戻した状態で、点検してください。



2927

■ブレーキペダルの踏み込んだときの床板とのすき間

エンジンを始動して2～3回ペダルを踏み込んでからペダルを約30kgの力で踏み込んで、床板とパッド上面のすき間を定規などで点検します。

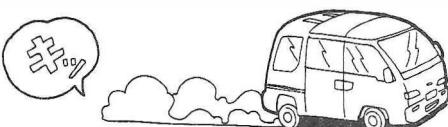
床板とのすき間	110mm以上
---------	---------



ハンドブレーキレバーを戻した状態で点検してください。

- ・ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、踏み応えがやわらかく感じられる場合は、空気が混入しているおそれがあります。

ただちに点検整備を受けてください。



2930

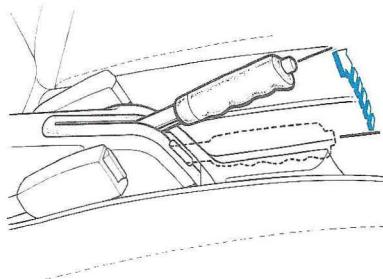
■ブレーキのきき具合

乾いた舗装路を低速走行してブレーキテストをおこない、ブレーキのききが十分であるか、片ぎきしていないかを点検します。



- ・テストするときは、周囲の交通状況に十分注意してください。

- ・異状が感じられたときは、ただちに点検整備を受けてください。



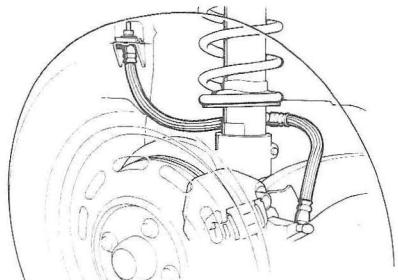
2923

■ハンドブレーキレバーの引きしろ

レバーを完全に戻してから約20kgの力でゆっくり引き上げ、「カチカチ音」を数えて引きしろを点検します。引いたとき完全にロックするかも点検します。

引きしろ	7~9山
------	------

注意 引きしろが多いときや異常を感じられたときは、すみやかに点検整備を受けてください。

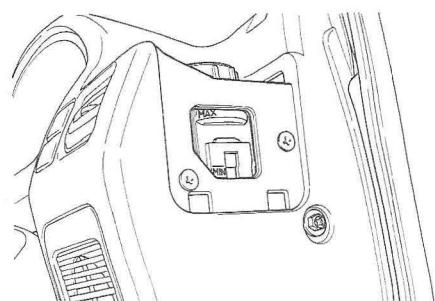


2931

■ブレーキホース、パイプのもれ、損傷、取り付け状態

ハンドルを左にいっぱい切った状態で、左側フロントブレーキホースにきず、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または、手でさわって点検します。また、ホースが車体などと接触していないか、ホース接続部から液もれがないかも点検します。

つぎに、ハンドルを右にいっぱい切り、右側フロントブレーキホースも左側同様に点検します。



4314

■リザーバタンクの液量(ブレーキ液量)

ブレーキ液点検用フタをはずしてからリザーバタンク内の液量が、上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるか点検します。

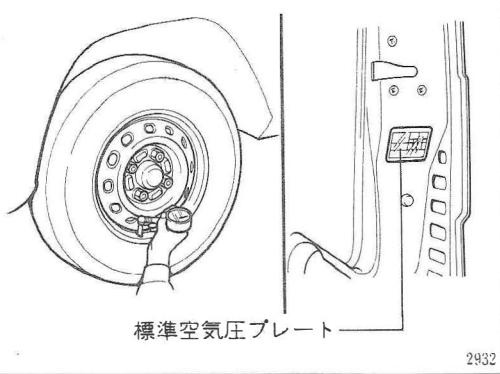
タンク周辺から液もれがないか、目視や手でさわって点検します。

注意 ブレーキ液の減りかたが目立って早いときは、ブレーキ系統のもれが考えられます。すぐ点検整備を受けてください。

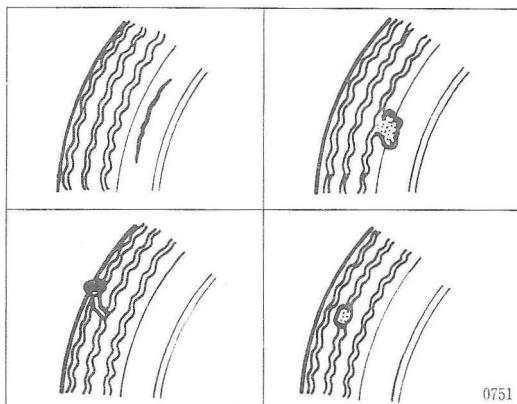
■タイヤの空気圧

走行前のタイヤが冷えているときの空車時、タイヤゲージで空気圧が基準値にあるか点検します。(巻末のサービスデーター参照)

- 一言** • 標準空気圧プレートは運転席ドア後部に貼ってあります。
- 走行直後(タイヤが暖まっている状態)に空気圧を調整するときは、表より 0.2kgf/cm^2 高めに入れてください。



2932



■タイヤのき裂、損傷、金属片、石その他の異物 異状な摩耗

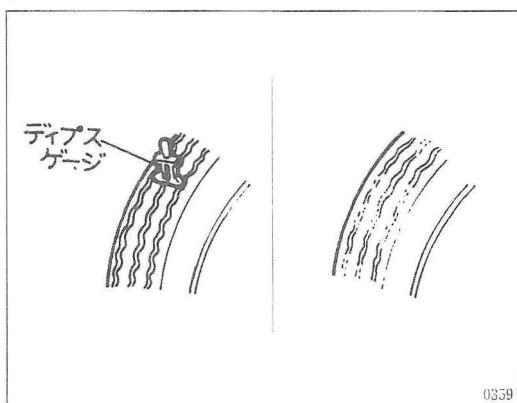
タイヤ接地面全周と両側面にき裂、損傷がないか目視点検します。また、釘、金属片、異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないか、目視や手でさわって点検します。

タイヤ全周に片減り、局部摩耗、段付摩耗がないか目視点検します。

■タイヤの溝の深さ

タイヤがすり減ってくると接地面に現われるスリップサイン(摩耗限度表示)、または、ディップスゲージで溝の深さが1.6mm以上あるかを点検します。

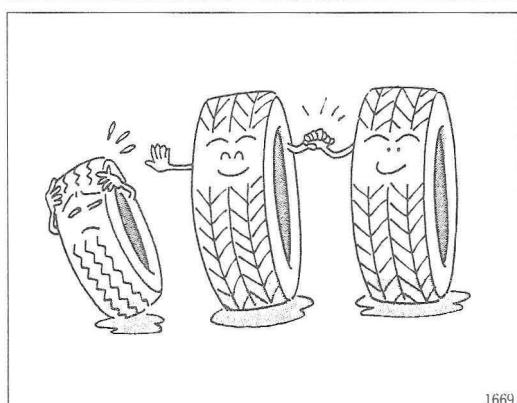
一言 スリップサインが表れたり、溝の深さが限度以下のときは、すみやかに、新品タイヤに交換してください。



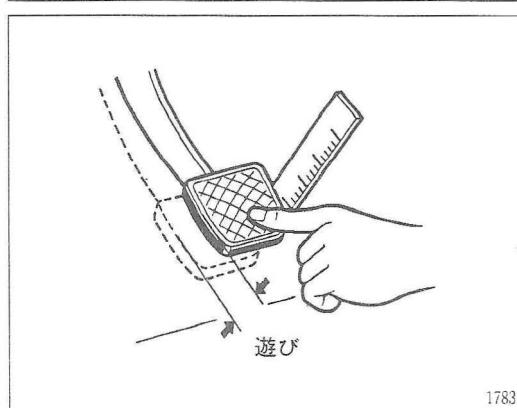
0359

●新品タイヤに交換するときは

- ①必ず4本とも同一銘柄の同一サイズタイヤを装着してください。
- ②銘柄、サイズの異なるタイヤを装着すると、操縦安定性をそこなうことがあります。
- ③新品タイヤに交換したときは、最初の100km位まで慣らし運転してください。



1669

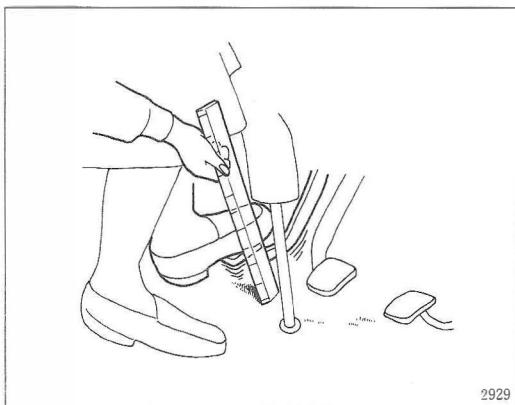


1783

■クラッチペダルの遊び(除くECVT車)

クラッチペダル上面を指先で抵抗を感じるまで軽く押して移動量(遊び)を定規などで点検します。

遊び	10~25mm
----	---------



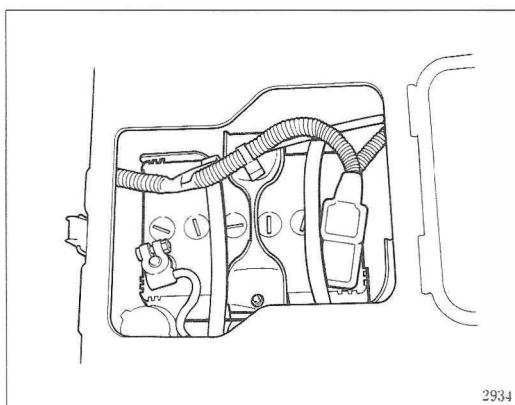
■クラッチが切れたときの床板とのすき間(除くECVT車)

- ①ハンドブレーキレバーを確実に引き、輪止めをして車が動かないようにします。
- ②エンジンを始動してアイドリング状態にします。
- ③クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、1速またはR(後退)に入れます。
- ④クラッチペダルを徐々にはなして、クラッチがつながる直前の状態(エンジン音が変化したり、振動が発生する)で、ペダルと床板とのすき間を定規などで点検します。

床板とのすき間	110mm以上
---------	---------

注意

点検時、急発進などの危険があるため十分注意してください。



■バッテリー液量

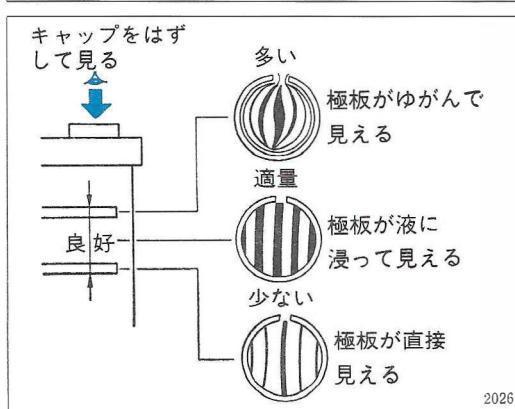
●ディアス、バン

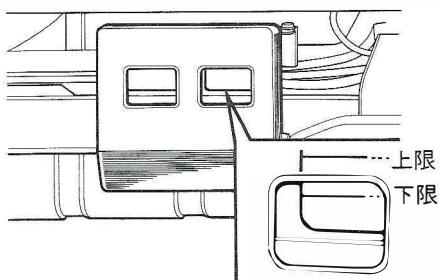
バッテリーは、助手席シート下のバッテリーボックスに格納されています。

- ①助手席シートのクッションを跳ね上げて、点検窓のフタをはずします。
- ②キャップをはずして、液量を液面の状態で確認します。
(左下図参照)
- ③液量が少ないとときは、各そうとも適量のレベルまでバッテリー補充液(蒸留水)を補給します。

☆助手席シートの跳ね上げ 28ページ

☆バッテリー液の補給 100ページ





2935

● トラック、パネルバン

バッテリーは、車体左側の荷台下・後方にあります。

①バッテリー各々の液面が上限と下限の間にあるかを目視点検します。見づらいときは、車体を少しゆらして点検します。

②液面が下限より下がっているときは、すみやかに上限までバッテリー補充液(蒸留水)を補給します。

■ エンジンオイルの汚れ、量

①オイルレベルゲージを抜いて、付着しているオイルを拭いてからいっぱい差し込みます。

②静かに抜いて、ゲージ先端についたオイルが上限と下限の間にあるかを点検します。上限と下限の間は約1ℓ。

③ゲージ先端についたオイルを、手でさわるか布に付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

注意

- ・車を水平な場所に置き、エンジン始動前かエンジン停止後5分以上たってから点検してください。
- ・補給するとき、入れ過ぎにご注意ください。

■ 冷却水の量

①エンジンが冷えているとき、リザーブタンク内の冷却水量が上限(FULLまたはF)と下限(LOWまたはL)の間にあるかを点検します。

②液面が下限に近いときは、リザーブタンクの上限まで「スバルクーラント」を補給します。

③液面が下限より低いときは、さらに注水口のキャップをはずし、口元まで補給します。

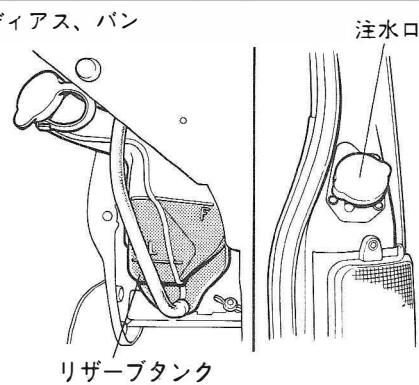
注水口位置 ディアス、バン：リヤゲートを開けた右側ランプの上
トラック、パネルバン：助手席シート下の点検口の中

注意

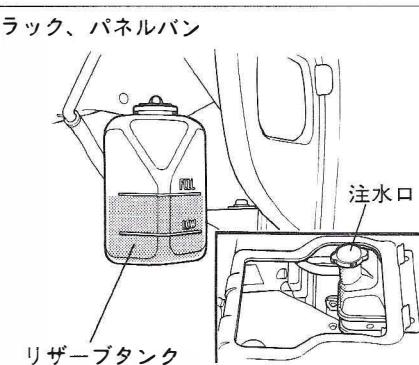
- ・約2か月に一度、エンジンが冷えているときに注水口のキャップを外し、液面を確認して減っていたら口元まで補給します。補給後はキャップを確実に取り付けてください。

- ・冷却水の減りかたが著しいときは、もれが考えられます。早めに点検を受けてください。

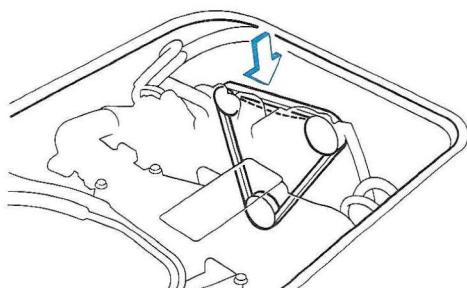
- ・エンジン停止直後の水温が高いとき注水口キャップを開けると熱湯や蒸気が吹き出しやけどをする危険があります。水温が下がってから布きれなどで包み、静かに開けてください。



2918



2919



2921

■オルタネータベルトのゆるみ、損傷

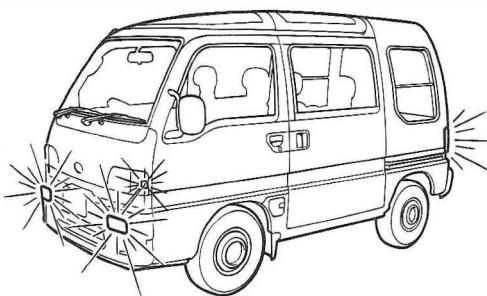
①ブーリー間のベルト中央部を、指で強く押して(約10kgの力)たわみ量を定規などで点検します。

☆ベルトのたわみ量……[132](#)ページ

②ベルトに、きずやひび割れがないかも点検します。



ベルトを交換するときは、必ずスバル純正ベルトを使用してください。



3743

■灯火装置、方向指示器の作用

①ヘッドライトを点灯させ、下記を目視点検します。

- ・明るさが不足していないか
- ・上向き、下向きの切り替えは正常か
- ・照射方向が著しく狂っていないか

②ヘッドライトのレンズに破損、ひび割れがないか、目視点検します。

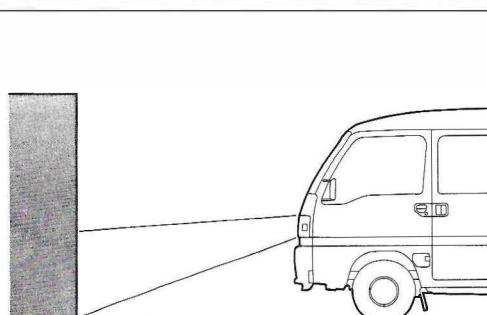
③ヘッドライトが確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

④車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯、番号灯などを作動させ、点灯または点滅するかを目視点検します。

⑤各ランプのレンズに変色、破損、ひび割れがないか、目視点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

⑥エンジンスイッチを「ON」にして方向指示器を作動させ、毎分80回前後の一定周期で点滅するか、点検します。

⑦方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないか、目視点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



2936

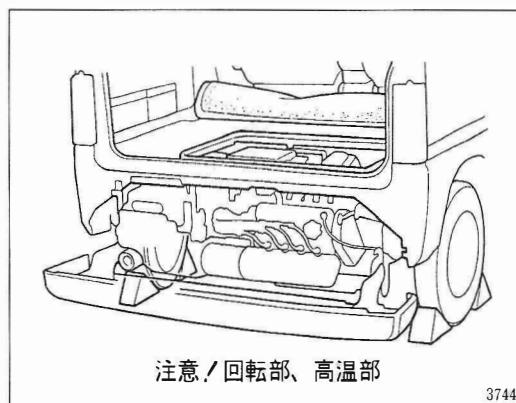


簡単な整備

点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要となつた場合、通常おこなわれることが多いものの代表例の実施方法を説明します。

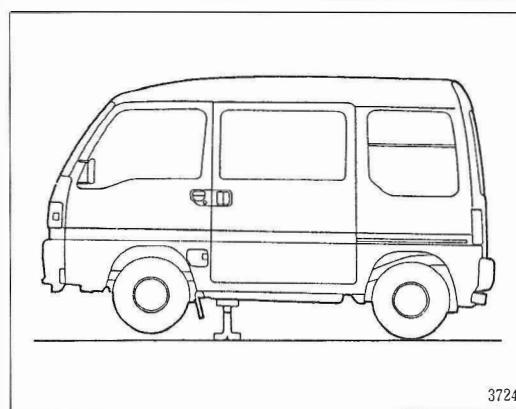
■簡単な整備の項目

- ・ブレーキ液の補給
- ・バッテリー液の補給
- ・バッテリーターミナルの清掃
- ・エンジンオイルの補給
- ・冷却水の補給
- ・ウインドウォッシャー液の補給(フロント・リヤ)
- ・電球(バルブ)の交換
- ・ワイパー刃の交換
- ・タイヤローテーション(タイヤの位置交換)
- ・エアコン冷媒(ガス)量の点検
- ・熱交換器の清掃



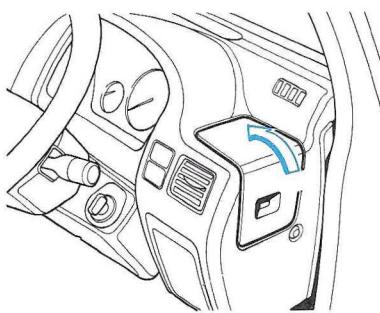
■整備作業上の注意

- (1)安全な場所で、輪止めをしてから作業を行ってください。
- (2)換気の悪い車庫、屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒をおこす危険があります。
- (3)エンジンルーム内の点検整備では、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、エンジンルームファンに触れないように十分ご注意ください。やけどなど思ひぬけがをすることがあります。
- (4)必要なとき以外は、エンジンを止めて点検整備してください。
- (5)ジャッキアップする場合、適切なジャッキを使用し、標準装備のジャッキは使用しないでください。
(標準装備のジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン脱着に使用するものです)





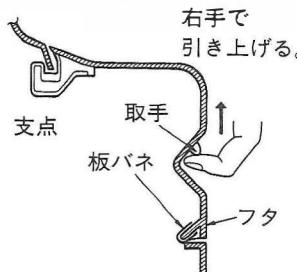
簡単な整備



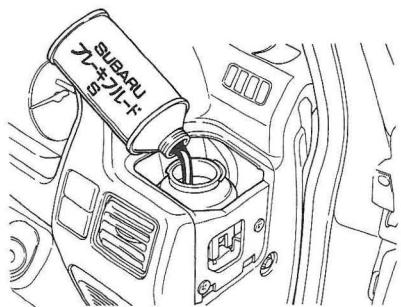
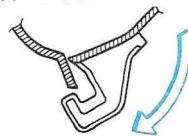
2938

■ブレーキ液の補給

- ①ブレーキ液が不足している場合は、計器盤右端のブレーキ液点検用フタをはずします。



取付時の注意
先に上の支点を引掛け
(下図)、次にフタ下端を
押します。



4315

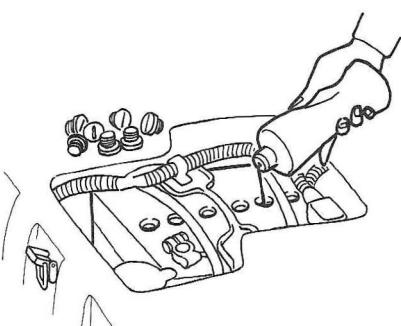
- ②リザーバタンクのキャップをはずし、上限(MAX)まで「スバルブレーキフルードS」を補給します。

- ③補給後はキャップを確実に取り付けます。

- ・ブレーキ液は上限以上補給しないでください。走行中に液が漏れて各部を傷めるおそれがあります。
- ・タンク内にゴミなどが入らないよう十分ご注意ください。小さなゴミでも混ざるとブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- ・エンジンが冷えてからこぼさないよう補給してください。車体にこぼしたときは拭き取ってください。
- ・異銘柄ブレーキ液を使ったり、粗悪品を使うと性能が低下し危険です。さけてください。
- ・ブレーキ液の性能特性を常に維持するため、定期的に交換してください。

交換時期	自家用：2年毎 事業用等：1年毎
------	------------------

※山岳地帯走行など過酷な条件での使用が多いときは、通常交換時期より早めに交換してください。



2940

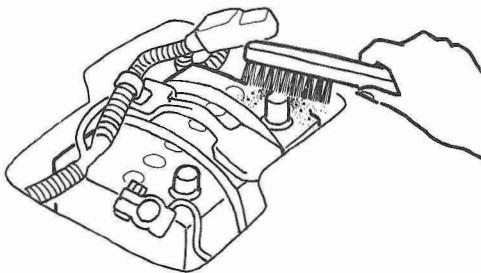
■バッテリー液の補給

- ①バッテリー液が不足しているときは、キャップをはずして各槽の液量上限線のところまで、バッテリー補充液(蒸留水)を補給します。

- ②補給後は、キャップを確実に締めつけます。

注意

- ・入れ過ぎないよう注意してください。
- ・バッテリー液は希硫酸です。目、皮ふ、衣服、塗装面などが侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水ではなくとも5分以上洗眼し、専門医の診断を受けてください。

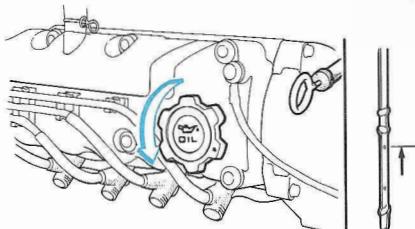


2941

■バッテリーターミナルの清掃

- ①ターミナルに汚れ、腐食があるときは清掃します。
 1. 腐食して白い粉が付着しているときは、ぬるま湯を注いで拭くと、よく落ちます。
 2. 腐食の著しいものは、ターミナルをはずし、サンドペーパー、ワイヤーブラシでみがきます。
- ②ターミナルの締めつけ具合をみて、ゆるんでいれば締めつけます。
- ③締付後は、ターミナルにグリースをうすく塗っておきます。

- ・必ずエンジンを止めて作業してください。
- ・ \oplus - \ominus ターミナルが工具などでショートすると危険です。注意して作業してください。
- ・ターミナルをはずすときは \ominus 側から、取りつけるときは \oplus 側から行ってください。
- ・バッテリーに火気を近づけたり、ショート、スパークは絶対させないでください。バッテリーからは可燃性ガスが発生しており、引火爆発の危険があります。
- ・充電するときは、すべてのキャップをはずし、通気のよい場所で行ってください。



上限 (F) まで!

2452

■エンジンオイルの補給

- ①オイル注入口キャップをまわしてはずし、レベルゲージで確かめながら上限(F)まで補給します。
- ②補給後、キャップを確実に取り付けます。

全容量	約3.0ℓ ECVT車：約3.1ℓ	〔 オイルフィルタ含む 〕
F～L間	約1.0ℓ	

【使用オイル】

スバル モーターオイル	オイル名	SAE番号
※ターボ		10W-30
※4WD		10W-30
※H・G		7.5W-30
※スーパー		10W-40
ゴールド		10W-30
レッド		30

※……推奨オイル

●エンジンオイル交換時期

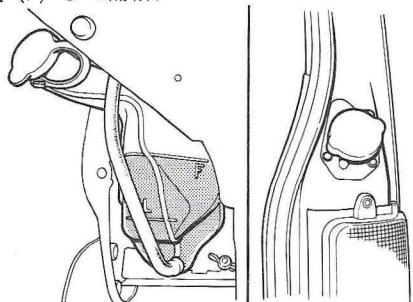
エンジンオイルの交換は、オイル品質、車の使用条件に大きく影響します。必要な時期に正しく「スバルモーターオイル」と交換してください。

エンジンオイル 定期交換時期	一般車	10,000kmごと、または6か月ごと (どちらか早いほうで実施)
	スーパー・チャージャー車	5,000kmごと、または6か月ごと (どちらか早いほうで実施)



- エンジンオイルは、日常こまめに点検してください。
- エンジンオイル、オイルフィルターは、忘れずに定期交換してください。汚れたオイルをそのまま使っていると、故障につながります。
- 次の使用条件では、オイルの劣化が早まります。5,000km毎、または、6か月毎(どちらか早い方で実施)に交換してください。
 - 寒冷時での短距離走行が多い場合
 - 低回転高負荷の走行頻度が多い場合
 - 平らな場所で作業してください。
 - オイル注入口からゴミなどが入らないよう補給してください。
 - オイルをこぼしたときは、完全に拭き取ってください。

上限(F)まで補給!



ロ元まで補給!
ディアス、バン

■冷却水の補給

エンジンが冷えているとき、リザーブタンクに規定濃度の「スバルクーラント」を補給します。

- リザーブタンクのキャップをはずし、上限(FULLまたはF)まで補給します。
- 液面が下限(LOWまたはL)より低いときは、さらに注水口のキャップをはずし、ロ元まで補給します。
- 補給後は、各キャップを確実に取り付けます。

●注水口位置

ディアス、バン：バックドアを開いた右側ランプの上トラック、パネルバン：助手席シート下の点検窓の中

●冷却水濃度と安全使用温度

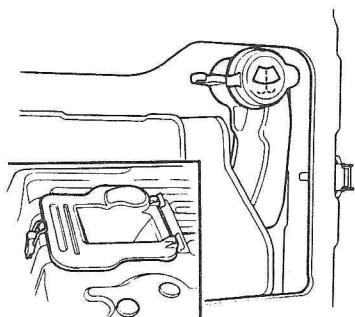
	新車時の 冷却水濃度	安全使用温度 (凍結温度)
一般向車	30%	-10°C (-16°C)
4WD車 寒冷地向車	50%	-30°C (-36°C)

寒冷地とは、弊社で定めた地区(北海道、東北全県、新潟県、長野県)を示します。

「スバルクーラント」には、50%濃度のものと、濃縮タイプの2種類あります。また、不凍液、防錆剤が混入されており、一年中交換不要です。

注意

- エンジン停止直後の水温が高いとき、注水口のキャップをはずすと熱湯や蒸気が吹き出しあげをする危険があります。水温が下がってから布きれなどで包み、静かに開けてください。
- 必ず「スバルクーラント」を補給してください。水などを補給しますと凍結しやすくなったり、錆発生の原因になります。



2815

■ウインドウォッシャー液の補給

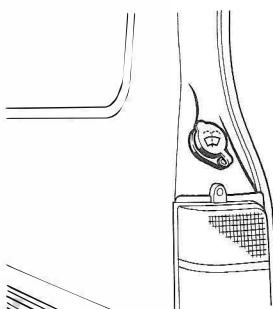
●フロント

ウォッシャータンクは、助手席シートの床下にあります。補給するときは、助手席シートのクッションを跳ね上げて、点検窓のフタをはずします。

ウォッシャータンクのキャップをはずし、ウォッシャー液を上限まで補給します。

容 量	1.5l
-----	------

☆助手席シートの跳ね上げ……**28**ページ



2816

●リヤ(バン、ディアス)

ウォッシャー液の注入口は、リヤゲートを開いた左側のランプの上にあります。

キャップをはずして口元まで「スバルウォッシャー液」を補給します。

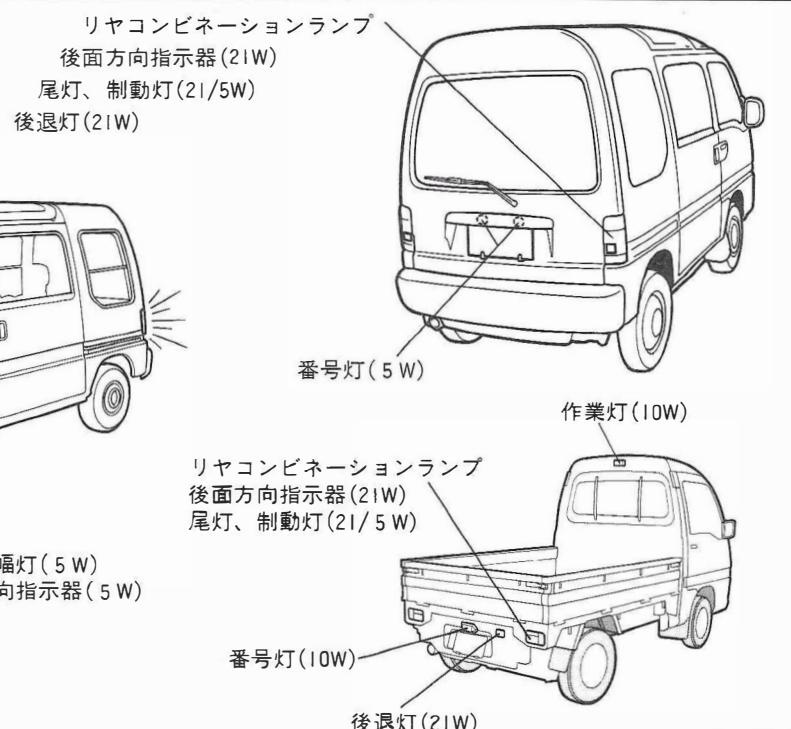
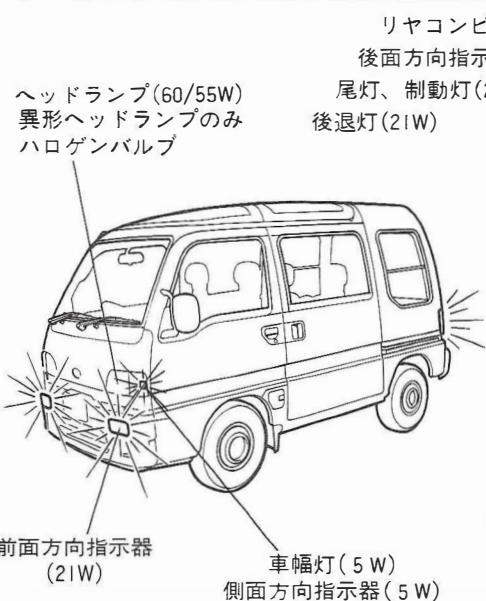
容 量	1.0l
-----	------

■ウォッシャー液を入れるときは

- ・ウォッシャー液の代用品として、せっけん水などを使用すると、ウォッシャーノズルのつまり、塗装のしみなどの原因となりますので、さけてください。
- ・寒冷時、「ウォッシャー液」以外の水などを補給すると、凍結して破損するおそれがあります。必ずスバルウォッシャー液を補給してください。
- ・「ウォッシャー液」を水でうすめる程度により凍結温度が変わります。



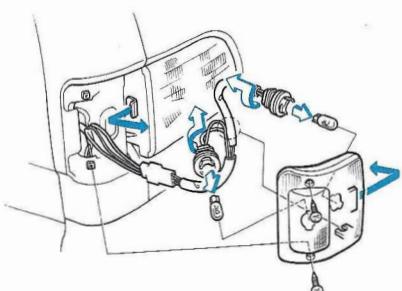
電球(バルブ)の交換



3742, 3743, 2950

■車幅灯、側面方向指示器(ディアス、バン、トラック)

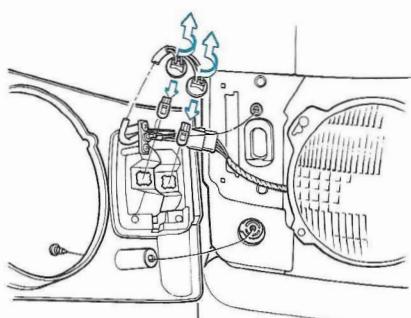
- ①前面のネジ2本を外し、ランプ本体を取りはずします。
- ②ソケットを左に回し、ランプ本体からはずします。
- ③電球をつまんで引き抜き、ソケットからはずします。



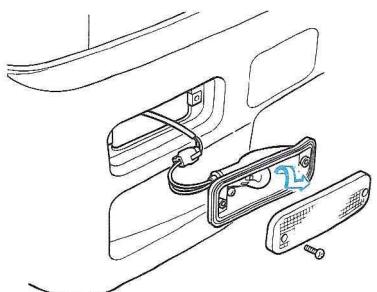
2951

■車幅灯、側面方向指示器 [バン、トラック、]
[パネルバン]

- ①フロントグリルをはずします。
- ②ソケットを左に回し、ランプ本体からはずします。
- ③電球をつまんで引き抜き、ソケットからはずします。



2952



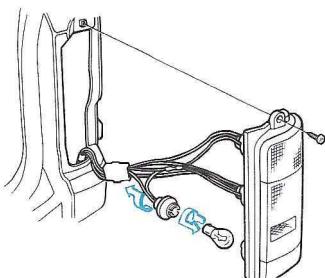
2953

■前面方向指示器

- ①前面のネジ2本をはずしレンズを取ります。
- ②電球をいっぱいに押し込みながら左に回してソケットから取り外します。



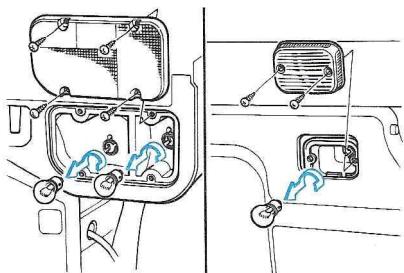
レンズをつけるときはパッキンがランプボディーの溝に確実に入っていることを確認してください。



2954

■リヤコンビネーションランプ(ディアス、バン)

- ①ネジ1本をはずしてランプ本体を斜め上に取り外します。
- ②ソケットを左に回し、ランプ本体からはずします。
- ③電球をいっぱいに押し込みながら左に回し、ソケットから外します。



2955

■リヤコンビネーションランプ(トラック、パネルバン)

- ①前面のネジ4本をはずし、レンズを取ります。
- ②電球をいっぱいに押し込みながら左に回し、はずします。
- ③後退灯も同様にはずします。

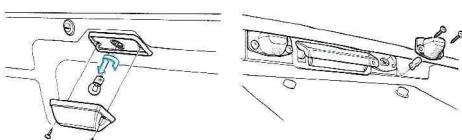


レンズをつけるとき、ランプの上下を逆に取りつけないよう注意してください。

パッキンに水抜き穴のついている方が下側です。

トラック
パネルバン

ディアス、バン



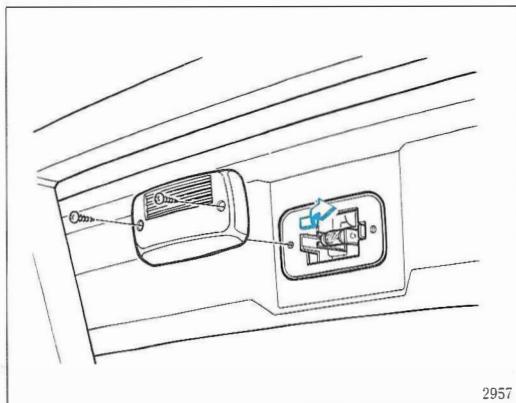
2956

■番号灯(トラック、パネルバン)

- ①前面のネジ2本をはずし、レンズカバーを取ります。
- ②電球をいっぱいに押し込みながら左に回してはずします。

■番号灯(ディアス、バン)

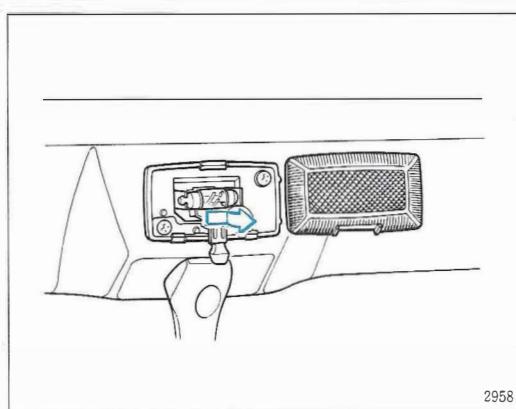
- ①前面のネジ2本をはずし、レンズを取ります。
- ②電球をつまんで引き抜き、ソケットからはずします。



2957

■作業灯(トラック)

- ①前面のネジ2本をはずし、レンズを取ります。
- ②電球をつまんで引き抜きます。



2958

■室内灯

- ①レンズの縁を強くこじってはずします。
- ②電球をスイッチと反対方向に押しつけ、手前に引いてはずします。

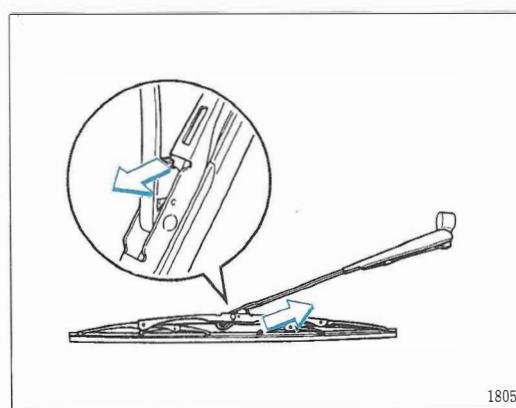
■電球を交換するときは

- ・電球を交換するときは、必ず決められたワット数のものと交換してください。
- ・ヘッドライトランプを交換すると、法令で決められた調整が必要です。交換は、スバルサービス工場に依頼してください。
- ・レンズをネジで締めつけるとき、締めすぎてレンズを割らないようご注意ください。
- ・各パッキン、アースプレート、カバー、リングなどは、なくさないように確実に取りつけてください。パッキンを忘れると水侵入の原因となります。
- ・電球を交換したら、必ず点灯を確認してください。

ワイパープレードの交換

ワイパープレードについている爪を押し下げながら、プレードを矢印の方向に引いて、はずしてください。取り付けるときは、矢印と反対に押し込みます。

一言 プレードをはずしたときは、ガラスに傷をつけないよう、ワイパー アームをゆっくり倒してください。



1805



タイヤローテーション(タイヤの位置交換)

5,000km走行ごとにタイヤの位置交換を行うことをお奨めします。

同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく、走行、制動に悪影響を与えます。

■ 5本(スペアタイヤも使って)で行うとき

バイアスタイヤ(ディアス、トラック)	バイアスタイヤ(パン、パネルパン)	ラジアルタイヤ
 3753	5.00-12-4PR ULT 5.00-12-6PR ULT スペアタイヤ	 2959

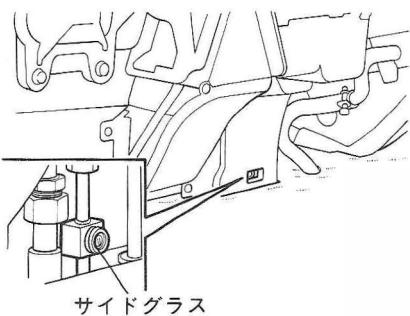
■ 4本(スペアタイヤを使わない)で行うとき

バイアスタイヤ(ディアス、トラック)	バイアスタイヤ(パン、パネルパン)	ラジアルタイヤ
 3754	5.00-12-4PR ULT 5.00-12-6PR ULT スペアタイヤ	 2961



前・後輪でタイヤ仕様の異なる車のタイヤローテーション(バイアスタイヤ)

- ・スペアタイヤは後輪と同一仕様です。
- ・前輪がパンクしたとき、パンク修理が終ったタイヤは、必ず元の前輪に戻してください。



2963

エアコン冷媒(ガス)量の点検

冷媒(ガス)が不足すると冷房性能が低下します。冷媒(ガス)量の点検は、サイトグラスの気泡の流れをみて判断します。

- ①エアコンを5分間位低速で作動させます。
- ②次にエンジン回転を少し上げます。
(1000~1500rpm)
- ③サイトグラスから気泡の流れを点検します。
- ④不足している場合はスバル販売店で点検、補充を受けてください。

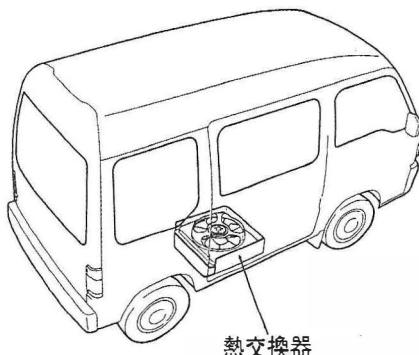
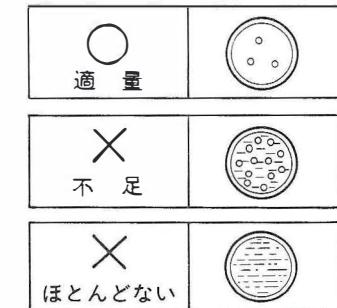
● 気泡の流れ

適量……ほとんど透明です。エンジン回転を上げ下げすると気泡が流れることができます。

不足……気泡の流れがみえます。

ほとんどない……霧のようなものが流れているのがわずかにみえます。

一言 エアコンはガス量点検の他に各部を潤滑するため月に2~3回程度作動させてください。



3747

■ 热交換器の清掃

洗車の際、熱交換器に付着している泥やゴミなどを水を強くかけて洗い落とし、通気性を良くしてください。



車の手入れ(洗車)

車をいつまでもきれいに保つためには、日頃の手入れが必要です。

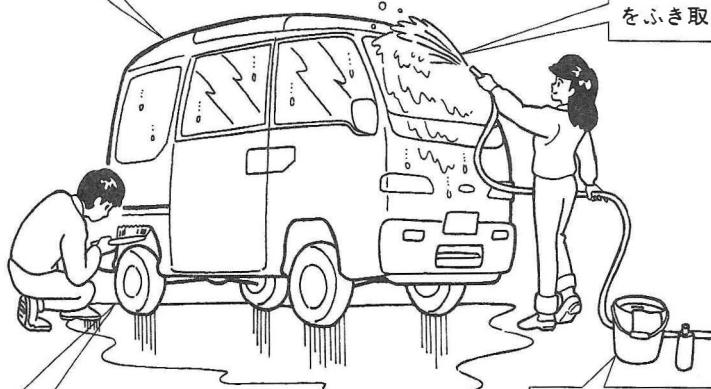
定期的に正しい手入れをして、いつまでもきれいに保ちましょう。

サンサンルーフやドアは確
実に閉めてください。

十分に水をかけながら、や
わらかいスポンジやセーム
皮で洗います。洗車後は水
をふき取ってください。

足まわり、フェンダ内側な
ど下まわりについている泥
なども落としてください。

汚れがひどいときは、カー
ローションを使用します。



2965

長期間洗車をしない場合、塗装面に付着している汚れや鉄粉などが塗膜に侵入して変色やさびなどが発生し、塗装面をいためます。最低月1回程度の手洗い洗車をお奨めします。

また、次のような場合は必ず洗車してください。

- (1)海岸付近を走ったとき
- (2)凍結防止剤を散布した道路を走ったとき
- (3)コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいがついたとき
- (4)ほこり、泥などで著しく汚れたとき

洗車をするときは、次の点にご注意ください。

- ・エンジルーム内の電気部品に、水がかからないよう注意してください。
- ・下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にけがをするおそれがあります。
- ・自動洗車機を使用すると、場合によってはブラシの硬さにより、ブラシのすり傷がつくことがあります。
- ・自動洗車機を使用するときは、アンテナをいっぱいに縮め、ドアミラーは内側にたたんでください。

高压洗車機を使って洗車するとき、次の部分には直接吹き付けないでください。

①ドアのキー穴部

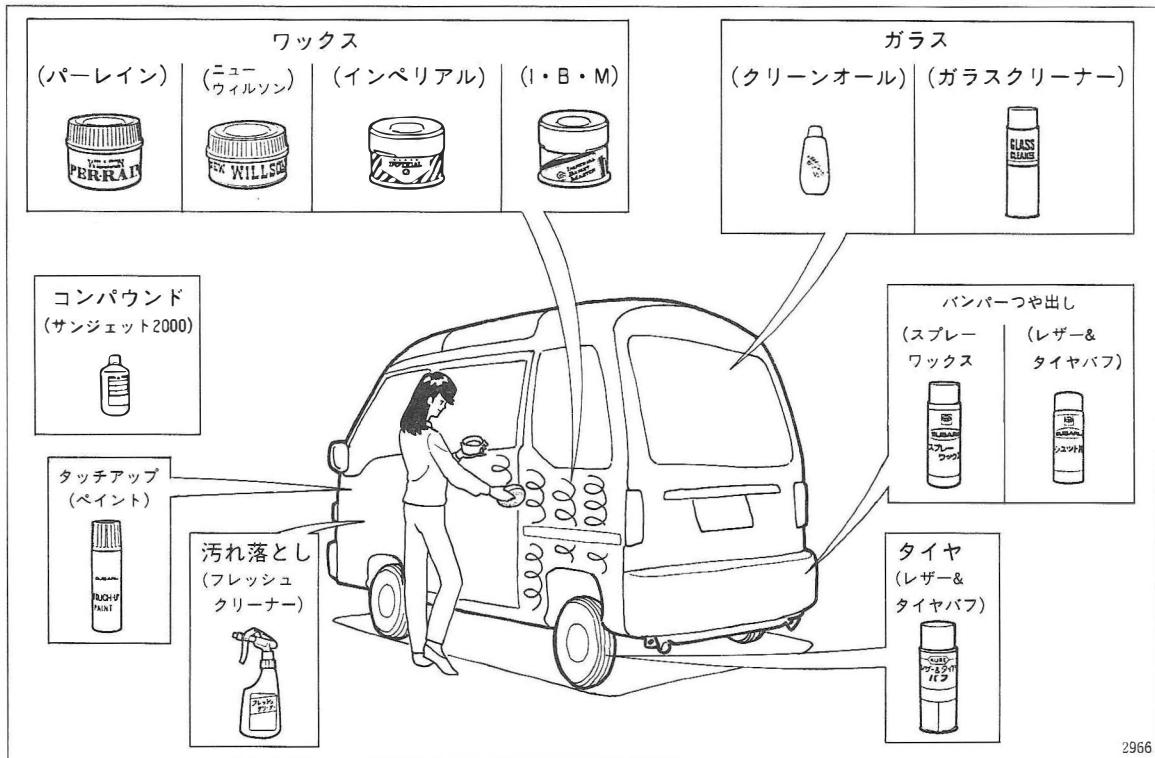
②各ドア廻りのゴムの部分

③ランプ類

- ・洗車直後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。走り出す前に、ブレーキの効き具合を確認してください。



車の手入れ(ワックス掛け)



2966

車の塗装面は、常に大気中のばい煙、風雨、砂じん、鉄粉、塩分、紫外線や虫害などにさらされています。これらから塗装面を守り、いつまでも光沢のある美しい外観を保つために月1回、または、洗車したときにワックス掛けをしてください。ワックス掛けは、

(1)日陰を選び、車体表面が体温以下のときに行います。

(2)目的にあったワックスを選びます。

つや出し用 : 固型と半ねりタイプがあります。

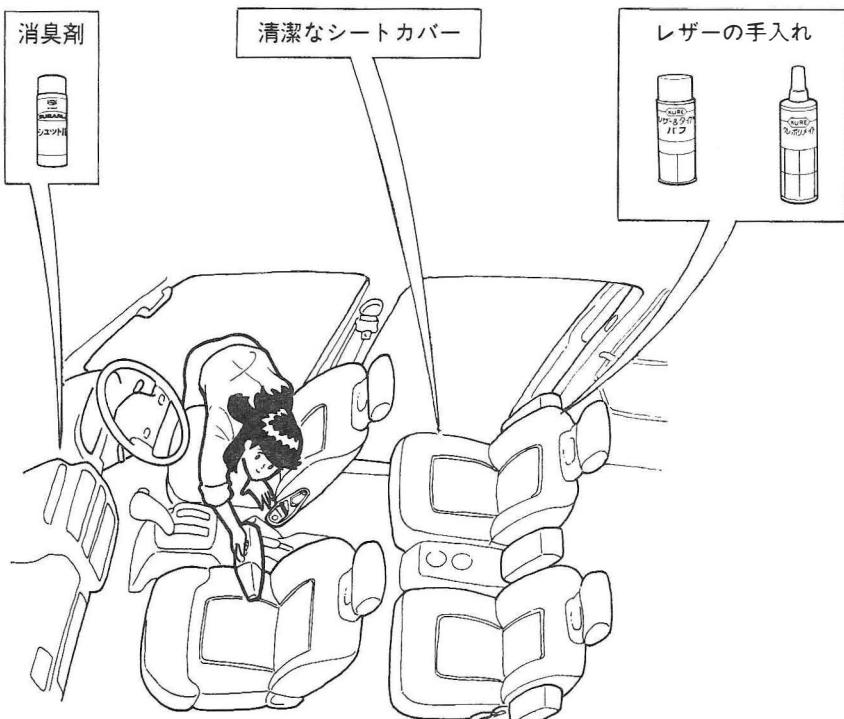
コンパウンド入り : 汚れ、シミなどを落とすときに使います。

(3)ワックス掛けを行うときは、次の点にご注意ください。

- ・ワックス掛けは、清掃か洗車をして砂ぼこりなどを落してから始めてください。砂ぼこりなどの上からワックス掛けすると、塗装面に傷をつけることがあります。
- ・ワックスを塗ったまま長時間放置しないでください。砂ぼこりや鉄粉が付着し、拭きとるととき、塗装面に傷がつきます。
- ・コンパウンド(研磨剤)入りワックスやコンパウンドは限られたとき(色調、光沢が回復できない)のみお使いください。
- ・ウインドウガラスにワックスをかけないでください。ワックス皮膜がつき、雨の日の視界が損われます。ウインドウガラスの汚れには、ガラス洗浄剤をお使いください。
- ・ワックスは、スバル純正品の中から適したものをお選びください。



車の手入れ(内装の手入れ)



3755

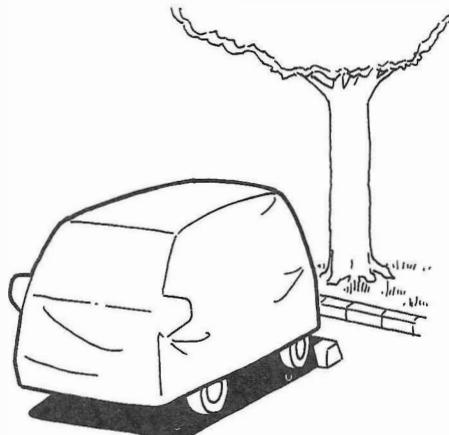
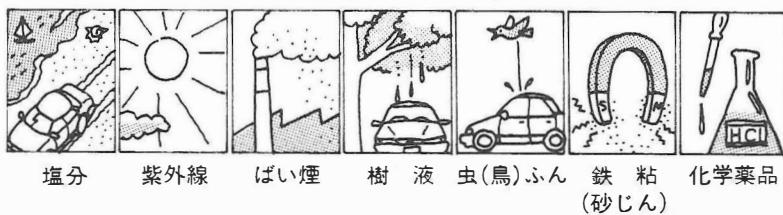
清掃された“気持のよい室内”は、安全運転の第一歩です。室内は、いつも清潔に保ってください。

- (1)室内の砂ぼこり、ゴミなどは、掃除機で吸い取ります。
- (2)シート地、カーペット類の汚れ、シミは、家庭用品、衣類に準じた方法で除いてください。
- (3)ゴム製床マットは、中性洗剤を使用しブラシで洗ってください。
- (4)汚れたシートカバーは、はずして洗濯してください。
- (5)内張り、計器盤の上などの汚れ、ホコリは、雑布で拭きとってください。
- (6)室内の臭いは、消臭剤を使って消します。



車の保管

(車のきらいなもの)



268

車の外観を傷めるものはたくさんあります。これらから車を守り、いつまでも美しく保つために保管方法も重要です。洗車、ワックス掛けをした後は、しっかり保管しておきましょう。また、次の点にもご注意ください。

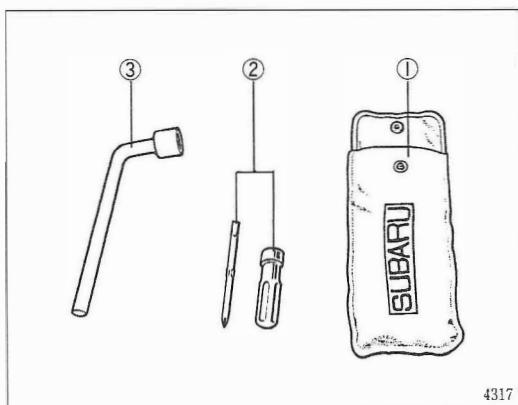
- ・夏場の屋外駐車は、車内温度が80°Cにもなります。可燃物(マッチなど)は、室内に置かないでください。また、計器盤の上、シートの上にゴム類などを置かないでください。変色することがあります。
- ・長時間保管する場合は、ハンドブレーキを引かずに1速かR(ECVT車はDレンジ)にギヤを入れ、輪止めをして、車が動かないようにしてください。
- ・積雪地帯では、雪の落ちる軒下などに駐車することはさけ、積雪もできるだけ早く取り除いてください。
- ・ボデーカバーは、車体形状にあったスバル純正品の中からお選びください。
- ・ボデーカバーは、時々水洗いして、砂ぼこりなどを取り去ってください。
- ・ボデーカバーは、風で飛ばないようしっかりとかけてください。
- ・降雨後、ボデーカバーを外して風通しをよくしてください。



万一のとき

113

- 工 具.....⑪⑬
- ジャッキ・ジャッキハンドル.....⑪⑭
- スペアタイヤ.....⑪⑮
- タイヤ交換(パンク).....⑪⑯
- けん引.....⑪⑰
- ヒューズ交換.....⑪⑱
- オーバーヒートしたとき.....⑪⑲
- 踏切でエンストしたとき.....⑪⑳
- 発炎筒の使いかた.....⑪㉑
- バッテリーあがりのとき.....⑪㉒



工 具

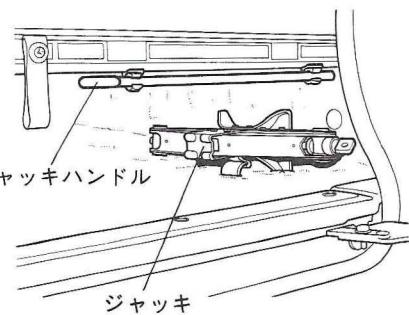
工具は、グローブボックスなど決まった場所に置いておくと便利です。この他の工具も、必要な都度そろえておくと点検や手入れのときに役立ちます。

●搭載工具

工具名称
① ツールバック
② ドライバー(プラス・マイナス兼用)
③ ホイールナットレンチ



ジャッキ・ジャッキハンドル



2969

ジャッキ・ジャッキハンドル

■ディアス、バン

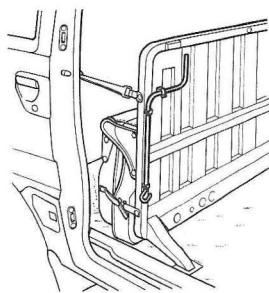
ジャッキは、リヤシートの下の左側フロアに取りつけられています。

▶取り出すとき

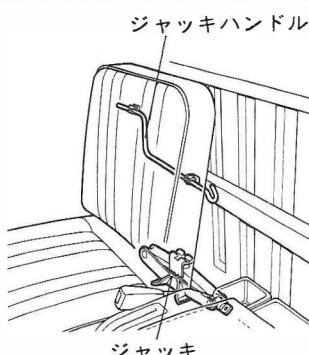
左側のスライドドアをあけ、ジャッキを縮めて取り出します。

一言 ジャッキを取りつけるとき、ドライバーなどで無理に抜けないでください。

ジャッキハンドルは、リヤシートのデッキの裏側に取りつけられています。



2970



2971

■トラック、パネルバン

ジャッキ、ジャッキハンドルとともに運転席シートの後に取り付けられています。

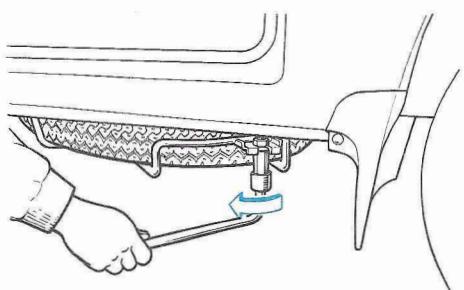
▶ジャッキを取り出すとき

助手席シートの背当てを前に倒し、ジャッキを縮めて取り出します。

▶ジャッキハンドルを格納するとき

ジャッキハンドルを取りつけ穴に差し込んでからホールダーに固定します。

注意 時々ジャッキを点検してネジ部にグリースなどをうすく塗布しておいてください。



2972

スペアタイヤ

■ディアス、パン

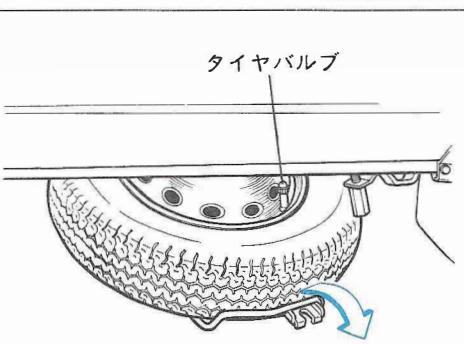
スペアタイヤは、右側の床下にあります。

▶取りはずし

- ①袋ナットをホイールナットレンチでゆるめてから、ホルダーを持ち上げ、フックを溝からはずします。

- ②ホルダーを下に降します。

- ③スペアタイヤを取り出します。



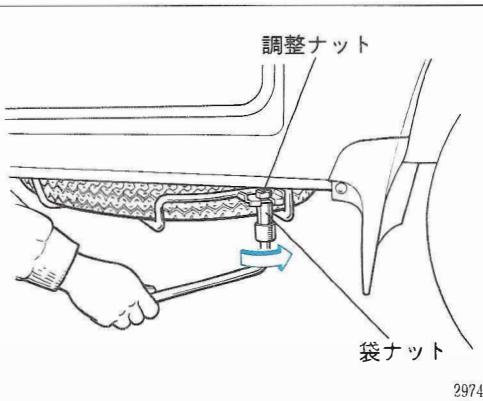
2973

▶取りつけ

- ①タイヤバルブ側を上に向けて、ホルダーに入れます。
- ②ホルダーを持ち上げて、フックを溝の奥まで入れ、袋ナットをホイールナットレンチで締め付けます。



ゆるみ、がたがある場合は、取り付け部の変形などを確認し、異常がなければ、調整ナットを回して上にあげ、さらに袋ナットを締め付けます。最後に調整ナットを締め付けます。

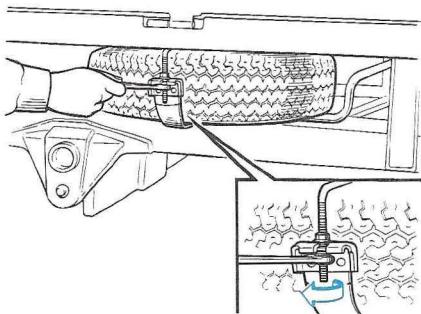


2974

■スペアタイヤを脱着したとき

スペアタイヤが、万一ゆるみなどで取りつけが不完全な状態になっていると、走行中脱落して思わぬ事故となり、危険です。

取りつけ後は、取りつけ状態を十分に確認してください。



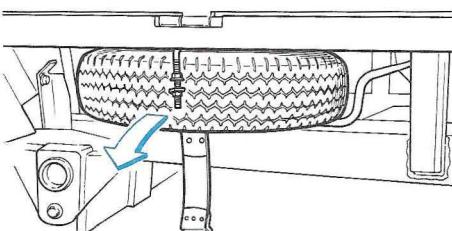
2975

■ ト ラ ッ ク・パネルバン

スペアタイヤは、右側のフレームと荷台床下の間にあります。

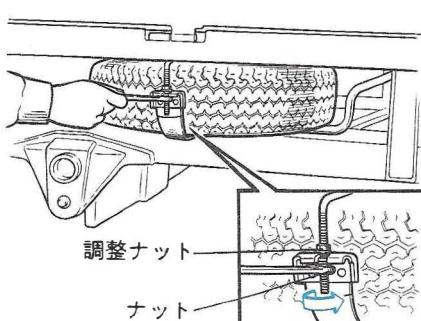
▶ 取りはずし

- ナットを、スパナでゆるめてからスペアタイヤを手で支え、フックをバンドの溝からはずします。



2976

- バンドをはずし、スペアタイヤを取り出します。



2977

▶ 取りつけ

- タイヤバルブ側を上に向けて、ホルダーに確実に入れます。
- タイヤを手で支えながら、フックをバンドの溝の奥まで入れ、スパナでナットを締めつけます。



注意 ゆるみ、がたがある場合は、取り付け部の変形などを確認し、異常がなければ、調整ナットを回して上にあげ、さらにナットを締めつけます。

最後に調整ナットを締めつけます。

■ スペアタイヤを脱着したとき

スペアタイヤが、万一ゆるみなどで取りつけが不完全な状態になっていると、走行中脱落して思わぬ事故となり、危険です。

取りつけ後は、取りつけ状態を十分に確認してください。

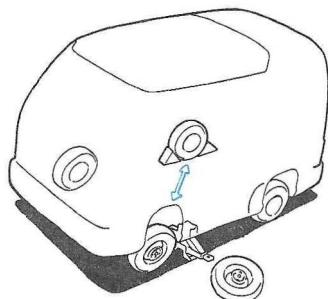


タイヤ交換(パンク)

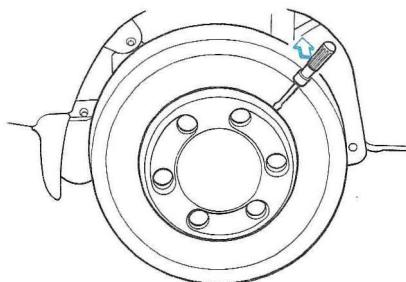
■準備

- ①交通のじやまにならず、安全に作業ができる場所に止めます。
- ②非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降し、停止表示板を置きます。
- ③ハンドブレーキを引き、車が動かないよう交換するタイヤと対角線にあるタイヤの前後に、輪止めをします。
- ④工具、ジャッキ、ジャッキハンドルとスペアタイヤを取り出します。

スペアタイヤは、交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。



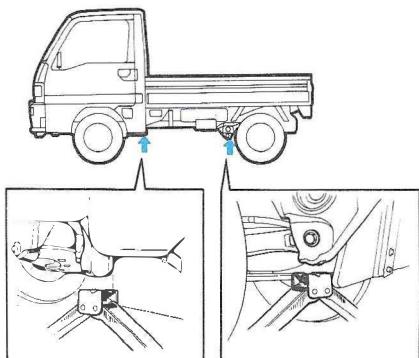
2978



2979

■ジャッキをセットする前に

- ①ホイールキャップをはずします。
ホイールキャップ外周にドライバーなどを差し込み、
タイヤ側にこじってはずします。
- ②ホイールナットレンチを使って、ホイールナットを少し(約1回転)ゆるめます。
(ゆるめるだけではしません)



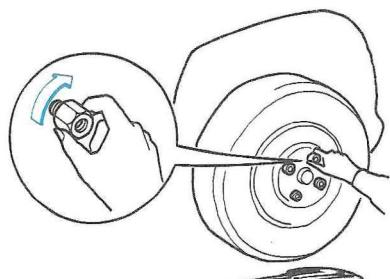
2980

■ジャッキのセット

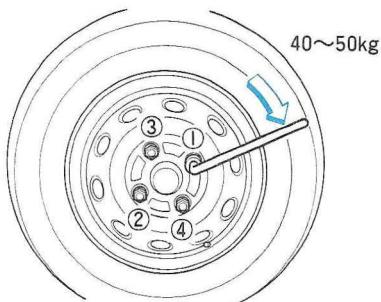
交換するタイヤに近いジャッキ受けに合わせて、セットします。



- ・ジャッキを使用するときは、積載物や同乗者を降ろしてください。
- ・ジャッキは、地面が平らで硬いところなど安定した場所を選んで使用してください。
- ・必ず指定箇所に、ジャッキをセットしてください。
- ・ジャッキ使用時は、車が移動しないよう、必ず輪止めをしてください。
- ・ジャッキは、タイヤ交換、タイヤチェーン脱着以外の作業には、使用しないでください。
- ・ジャッキ使用中は、車の下に入ったり、振動を与えないでください。
- ・必要以上あげないでください。



2981



2982

■ ジャッキアップして

- ① ジャッキハンドルを使い、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げます。
- ② ホイールナットをはずして、タイヤを取り替えます。
- ③ ホイールナットが、ホイール穴のシート部に軽く当たりホイールがガタつかない程度まで、ホイールナットを仮締めします。

■ ジャッキを下げて

- ① ジャッキを下げ、図の順番に2~3回にわけてホイールナットを締め付けます。

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク(参考)
40~50kg	8~10kg·m

注意

- ・ ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- ・ ホイールナットを締め付けるとき、ナット、ホイールのナット座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないよう注意してください。油がついていると、締め過ぎの原因になります。

■ 後かたづけ

- ① センターキャップは、パンクしたタイヤの裏側から叩いてはずすか、ドライバーでこじって外し、手で叩いてはめます。
- ② ホイールキャップは、キャップのバルブ穴とタイヤのバルブを合わせ、ホイールキャップ外周を叩いて、取りつけます。
- ③ タイヤ空気圧を基準値に調整し、工具、ジャッキ・ジャッキハンドルを所定の場所にかたづけます。

☆ タイヤ空気圧..... 133ページ

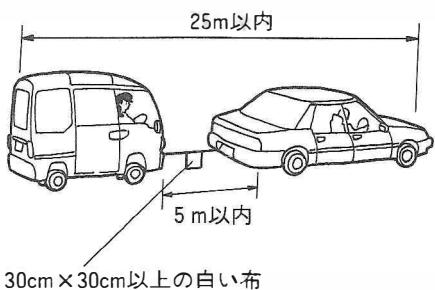
2983

■ タイヤ交換したとき

- ・ タイヤ交換、パンク修理などでタイヤを脱着したときは、約1000km走行したら、再度規定の力で増締めしてください。
- ・ パンクしたタイヤは、早く修理して常に正常なスペアタイヤを積んでおきましょう。
- ・ パンク修理、タイヤの自然摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動ができるときは、点検を受けてください。



けん引



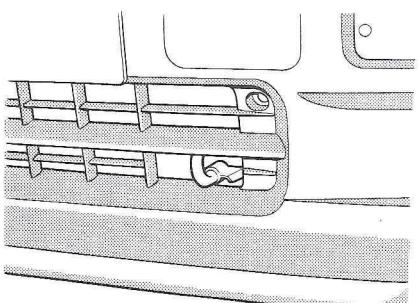
2984

車の故障などでけん引を必要とする場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。

出先では、整備手帳巻末の「サービス網一覧」を参考に、スバル特約店、スバル販売店、JAFなどに依頼してください。



- ・自車より重い車のけん引、溝に落ちた車の引き上げなどはしないでください。
- ・けん引するときの法定速度は30km/hです。



2985

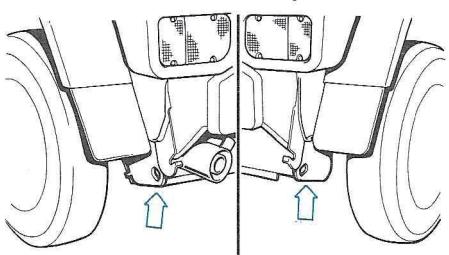
■けん引フック

▶ フロント

けん引されるときのフックです。



フロントけん引フックで、他車をけん引することは、しないでください。



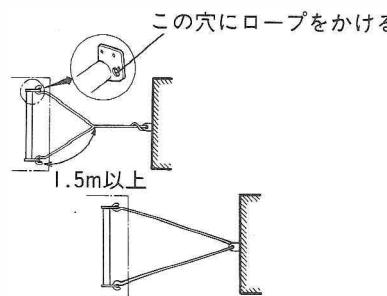
2986

▶ リヤ

他車をけん引するためのフックです。

エンジンクロスマンバ両端にあるブラケットの穴を利用して、けん引します。

図のように、必ず左右両側の穴を利用してください。



2987



■車種別けん引方法

車種と故障内容により、適した方法でけん引してください。

車種 方法	2WD車		4WD車		
	M/T	ECVT	セレクティブ	フルタイム	ECVT
ロープ けん引	○	△*1	○	○	△*1
前輪 もち上げ	○	△*1	△*2	△*2	△*1
車載	○	○	○	○	○

○……可能

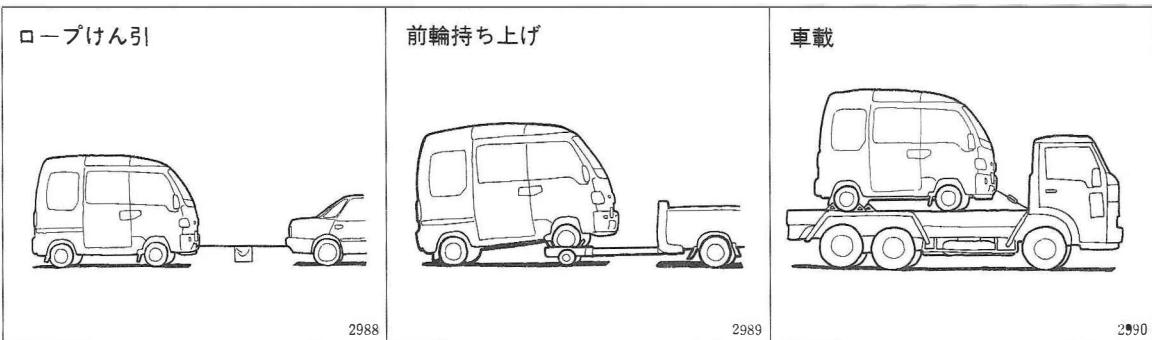
(4WD車は2WDに切り替えてください)

△*1…車載を原則とします。

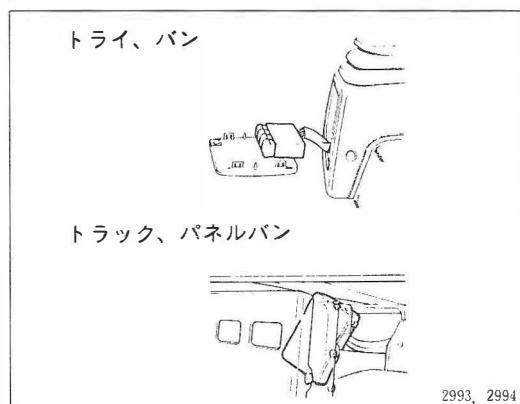
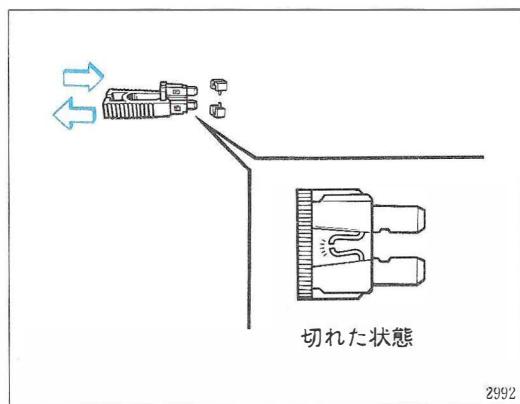
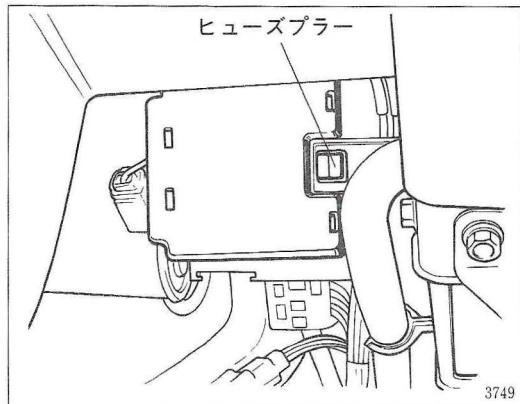
やむをえず、ロープけん引または前輪もち上げけん引する場合は、30km以内、速度は30km/h以下で行ってください。なお、4WD車は必ず4輪駆動を解除してください。

△*2…4輪駆動を解除して可能です。解除せずにこの方法でけん引すると車が飛び出し、非常に危険です。

☆4輪駆動の解除……92ページ



- ・チェンジレバー、セレクトレバーを“ニュートラル”にし、エンジンスイッチを“ACC”位置にしてください。
- ・けん引車の制動灯に注意し、ロープをたるませないよう気をつけてください。
- ・エンジン停止状態でけん引されると、ブレーキ倍力装置が作動せず、ブレーキの効きが悪くなりますので十分ご注意ください。
- ・長い下り坂を下るときはブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。
- ・けん引フックに横向きの大きな力を加えないでください。
- ・けん引走行する前にオイル(トランスミッション)を点検してください。



ヒューズ交換

- ①ヒューズボックスは、計器盤下のペダル取付部左に取りつけてあります。
- ②カバーの表面に、代表的な接続回路が表示されています。故障の状況から、点検すべきヒューズを確認し、ヒューズを点検します。

- ③ヒューズが切れている場合は、スペアヒューズと交換します。
- ④脱着するときは、ヒューズブラーを使用します。

一言 スペアヒューズを使用したら、早めに購入しておきましょう。

■メインヒューズ

①ディアス、バン系

コンソールボックスの内部に、取りつけてあります。
コンソールボックスのカバーをはずし、点検します。

②トラック、パネルバン系

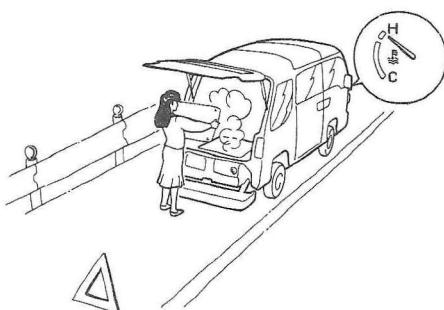
バッテリーボックスの近くに、取りつけてあります。

- ③メインヒューズが切れている場合は、すみやかに点検整備を受けてください。

- ・指定ヒューズ以外を使うと、各部品の故障につながります。必ず指定容量のものと交換してください。
- ・針金や銀紙などを使用すると、配線コードの過熱、焼損の原因になります。
- ・スペアヒューズを取りつける前に、切れた原因を調べてください。交換してもすぐ切れてしまうときは、点検整備を受けてください。
- ・ガソリンやブレーキ液のついた手で、ヒューズに触れないでください。



オーバーヒートしたとき



2995

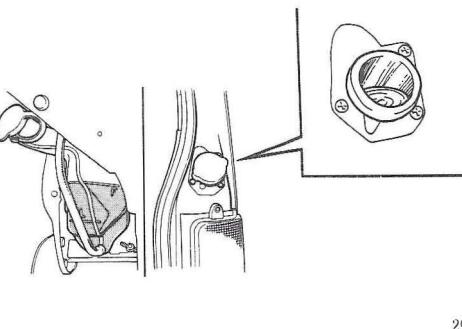
オーバーヒートしたとき

車を安全な場所に止め、次の処置をします。

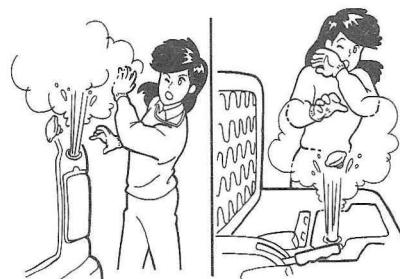
- ①エンジンをかけたまま、エンジンフード、トラップドアをあけ、風通しをよくします。このとき、冷却ファンが回っていることを確認します。万一、ファンが回っていないときは、エンジンを止めます。
 - ②水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。
 - ③エンジンが冷えてから、冷却水量、水もれなどを確認します。
- ☆熱いとき注水口キャップを開けると蒸気や熱湯が吹き出し、やけどをする危険があります。
- ④冷却水量が不足しているときは、リザーブタンク上限まで、注水口口元まで補給します。

☆冷却水の補給…… [102ページ](#)

- ⑤ホースの破れなどで、水もれ、蒸気の吹き出しがあるときは、エンジンをすぐ止めます。



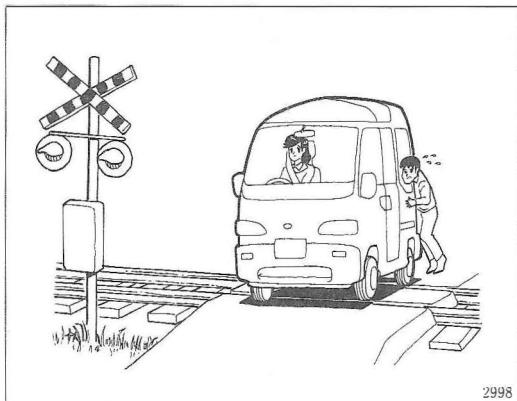
2996



3746

■冷却水を補給するとき

- ・あわてて注水口のキャップをはずすと、蒸気や熱湯が吹き出しやけどをする危険があります。水温が下がってから、布きれなどでキャップを包み、静かにあけてください。
- ・やむを得ず、スバルクーラント以外の冷却水や一般の水などを補給したときは、エンジン腐食の原因になります。すみやかに、スバルクーラントと入れ替えてください。



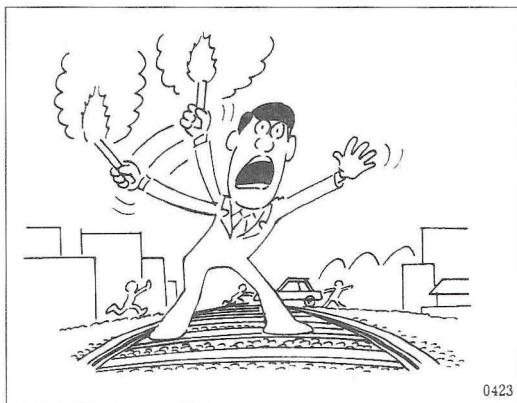
踏切でエンストしたとき

- (1)付近に人がいるときは、押してもらってください。
- (2)脱輪などで踏切内で動けなくなつたときは、踏切の非常ボタンを押してください。
- (3)急を要するときは、まず、発炎筒で合図してください。
- (4)急を要するときは、次の手順でも抜け出せます。

(除く、ECVT車)

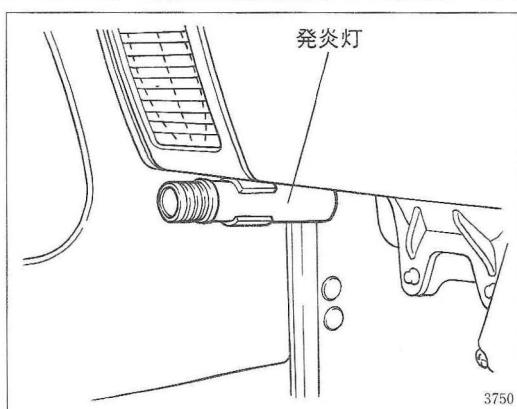
- ①3速か2速に入れ、クラッチから足をはなします。
- ②エンジンスイッチを回して、スターターモータを作動させます。

一言 スターターモーターを連続して作動させると、焼損することがあります。断続して作動させてください。



発炎筒について

助手席スピーカーグリル下側に取付けてあります。
高速道路、踏切など危険な場所で故障したとき使います。
発炎筒外筒に書いてある使用方法をあらかじめよく読んでおいてください。
発炎筒外筒に有効期限が明示されていますので、期限切れのものは新品と交換してください。

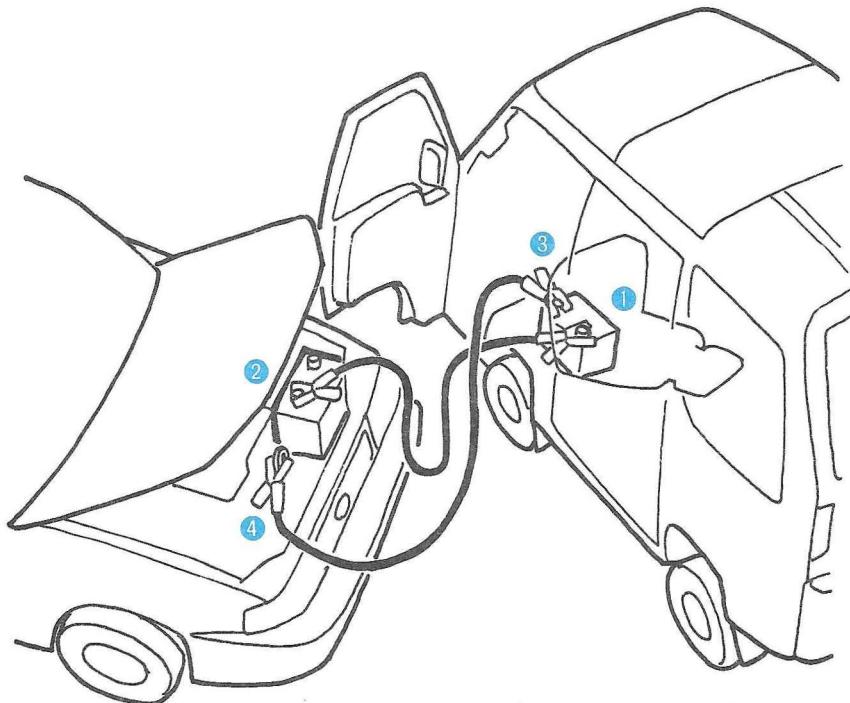


■発炎筒を使うとき

- ・お子さまに、さわらせないでください。
- ・ガソリンや油など燃えやすいもののそばで、使用しないでください。引火する危険があります。
- ・筒先を体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどの危険があります。
- ・トンネル内で使うと、視界を悪くするので危険です。トンネル内では、非常点滅灯を使用してください。



バッテリーあがりのとき



3000

ブースターケーブルがあれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

①ブースターケーブルを図の番号順に接続します。

①はバッテリーあがり車の \oplus 端子、③は他車の \oplus 端子、③はバッテリーあがり車の \ominus 端子、
④を他車のバッテリーから離れたエンジン本体に接続(バッテリーから発生する可燃ガスに
引火する危険をさけるためです)

②電源側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保っておきます。

③バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

④ブースターケーブルを接続した逆の順序ではすします。

バッテリーあがりを起こしたときは、次の注意事項をお守りください。

- ・押しがけ、引きがけによるエンジン始動は、触媒が過熱して焼損させるおそれがありますので絶対にしないでください。
- ・ブースターケーブルを接続するときは、
 - (1)必ず12Vバッテリー車と接続してください。
 - (2)ブースターケーブルがオルタネータベルトと接触しないよう十分ご注意ください。
 - (3) \oplus 端子、 \ominus 端子を接触させたり、逆に接続しないでください。電子機器やエンジン部品をいためる原因になります。
 - (4)エンジン回転中にバッテリー端子をはずさないでください。電子機器をいためます。
- ・あがってしまったバッテリーは、すみやかに完全充電してください。
- ・ブースターケーブルを脱着するときは、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。

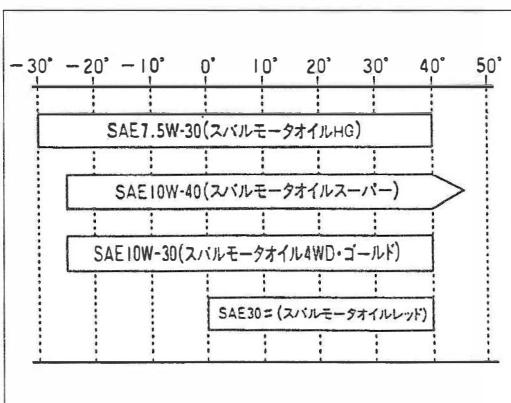


寒冷地の使いかた

125

北海道全域、東北、北陸の積雪地帯、その他山岳地帯やスキー場など局地的な厳寒地区の積雪、寒さに対する固有の使いかたをまとめてあります。その他の地区でも冬の使いかたの参考にしてください。

- 冬に入る前の点検と準備(125)
- 走行前の点検(126)
- 走行中の注意(127)
- 駐車時の注意(128)
- 洗 車(128)
- タイヤチェーン(128)



冬に入る前の点検と準備

■エンジンオイルの交換

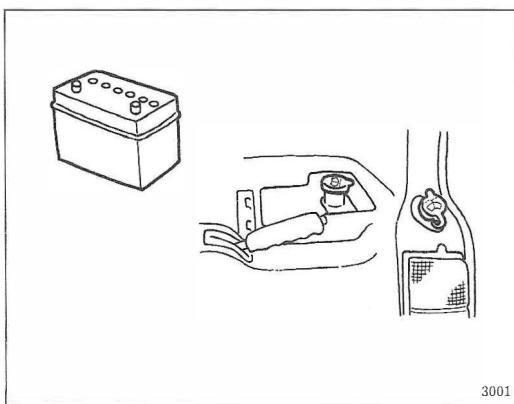
外気温に応じたグレードのオイルに交換してください。

■冷却水の濃度点検

冷却水の濃度を50%にしてください。

■バッテリーの充電状態チェック

バッテリーの性能が低下しますので、放電気味のときは、補充電を行ってください。



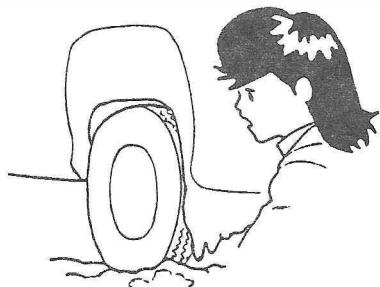
■燃料タンクの水分除去

冬が来る前に、燃料タンク内の水分を水分除去剤で除去されることをお奨めします。

■ウォッシャー液の濃度点検

ウォッシャー液の濃度を50%にしてください。

■凍結防止用ワイパープレードの装着



3751

走行前の点検

運行前点検に、次の項目を追加して点検してください。

- 車の下をのぞいて足廻り(ブレーキ廻り、ブレーキホース)に雪や氷のかたまりがついていないか点検してください。



3003

- ドアが凍結している場合、無理にあけるとドア周りのゴムがはがれたり、き裂が発生するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷を解かしてからあけてください。後で水分を十分拭き取ってください。

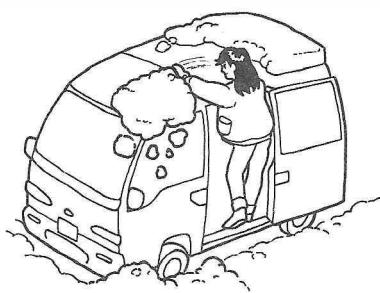
一言 ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結するおそれがあります。



3004

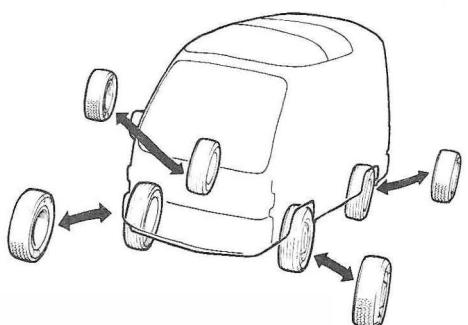
- 乗るとき、靴についた雪や氷をよく落してください。ペダルを操作するとき滑ったり、室内の湿気が多くなって曇りやすくなります。

- 暖機運転中に、アクセルペダル、ブレーキペダルなどの作動が円滑かを確認してください。



3005

- 屋根に積った雪は、走行する前に取り除いてください。走行中、ガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。



4輪共冬用タイヤ!

4313

走行中の注意

● 夏用タイヤ(サマータイヤ)は一般に雪道、凍結路でのグリップが低下します。安全な走行をするためには4輪とも冬用タイヤ(スタッドレスタイヤ、スノータイヤ)を装着してください。

● タイヤチェーンは非常の場合のみ使用してください。(後輪に取り付けてください)

● タイヤチェーンを取り付けると前輪が比較的すべり易くなりますので安全な速度で慎重に運転してください。

[30km/h以下、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。]

一言 発進時は2速ギヤ(ECVT車はDレンジ)の使用をお奨めします。

● 雪道走行後に駐車したとき、吹雪の中に駐車したときは、ブレーキに付着した雪や氷が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

走行開始するとき、車や道路状況に注意してブレーキのきき具合を確認してください。

ブレーキのききが悪い場合、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。

● エンジンブレーキを使って、スピードをコントロールしてください。

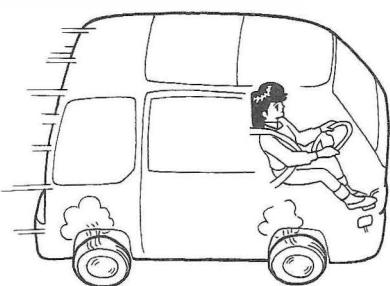
ブレーキを踏むときは、小さめにチョン、チョンと踏み、最後にゆっくり踏み込んでください。

● 雪道走行時、フェンダー裏側、足廻り、ブレーキ廻りについた雪が少しづつたまってハンドルの切れが悪くなる場合があります。

ときどき、異常のないことを確認してください。

● ハンドルの切れが悪くなったときは、フェンダー裏側、ブレーキ廻り、ブレーキホースについている雪、氷塊を部品に傷をつけないよう取り除いてください。

その際、鋭利なものでたたいたりして、車を傷つけないよう注意してください。



3006

チョン、チョンと
小さめに



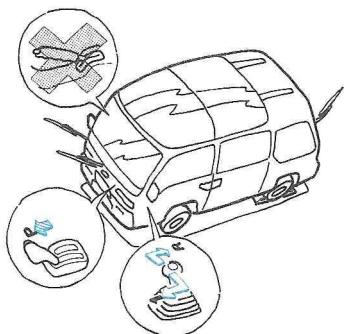
3007



3009



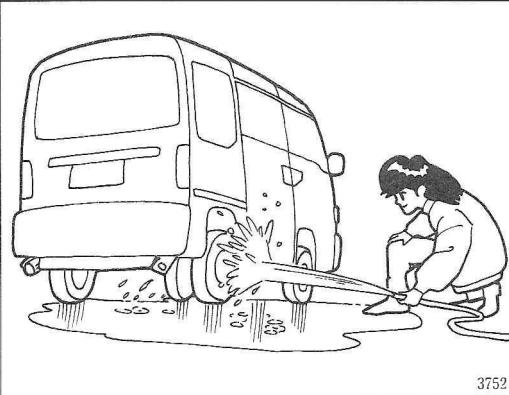
駐車時の注意、洗車、タイヤチェーン



3010

駐車時の注意

- 寒冷時、ハンドブレーキレバーを引いておくと、ブレーキ系統が凍結するおそれがあります。
そのときは
 - ① チェンジレバーを1速かR(後退)に、ECVT車はP(パーキング)に入れます。
 - ② 車が動かないよう輪止めをします。
- 駐車するときは車の後方を風下に向けて駐車してください。



3752

洗車

- 凍結防止剤を散布した道路を走った場合は、早めに下廻りの洗車をしてください。
放っておくと、塩分で腐食しやすくなります。
- 洗車後、水分は、よく拭き取ってください。とくに、ドア廻りは凍結しやすい所です。
- 洗車直後、ブレーキの効きが悪くなったり、また、洗車したままハンドブレーキを引いた状態で放置すると、ブレーキが凍結することがあります。洗車後は、ブレーキを踏んで効き具合を確認しながら、前後の車に十分注意して低速走行でブレーキを数回踏んで、ブレーキのしめりを乾かしてください。

タイヤチェーン

タイヤチェーンは非常の場合のみ使用してください。また、タイヤチェーンは後輪に取りつけます。(前輪には取りつけないでください)

雪道走行が事前に予想される場合は、4輪とも冬用タイヤを装着してください。

タイヤサイズに合った下表の指定チェーンを使用してください。

指定外のチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体各部を破損があるので使用しないでください。購入時に一度装着し、長過ぎる場合は、タイヤサイズに合うよう切断してください。

注意

- ・タイヤチェーンは、標準装備されていません。
- ・フルホイールキャップ付車、アルミホイール付車では、結合フック部分で傷がつきやすくなりますので、保護してください。

タイヤサイズ	スチールチェーン 純正品番	サイルチェーン 純正品番	JIS型番
5.00-12	B3155TA010	B3176GA005	45160
155SR12		B3176GA004	
145R12 145SR12	B3155TA011	B3176GA003	

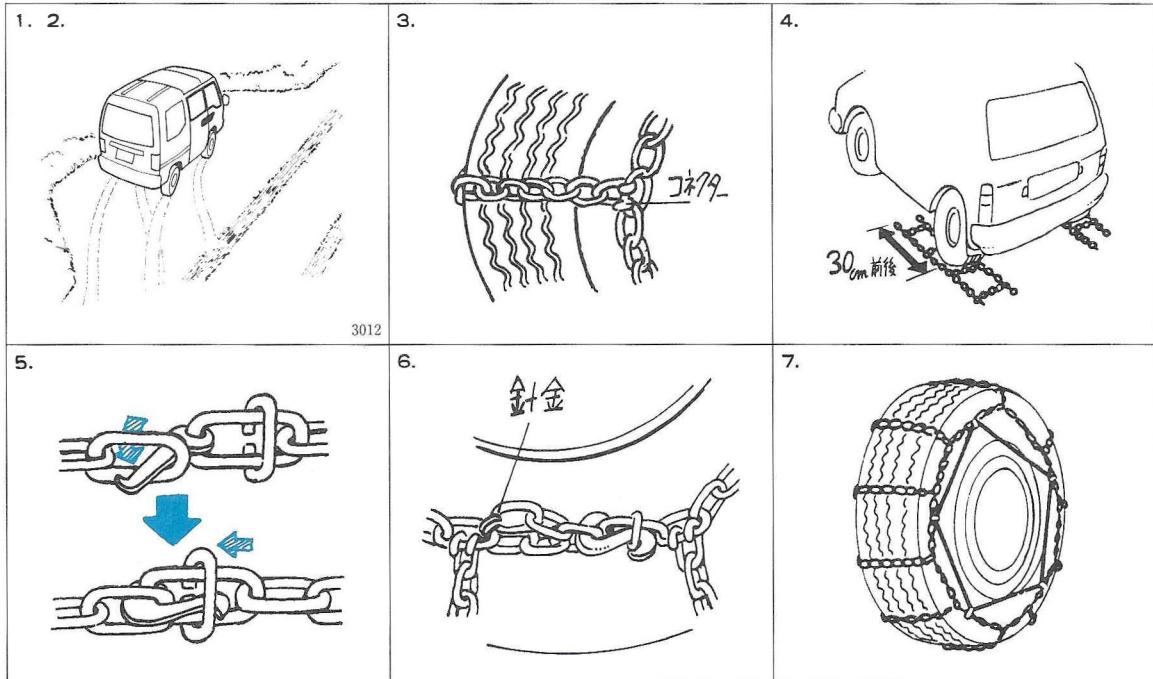


標準的なタイヤチェーンの取りつけかた

タイヤチェーンは後輪に取り付けます。(前輪には取り付けられません)



タイヤチェーンを取り付けるときは手袋などを着用することをお奨めします。



1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. ハンドブレーキをかけます。
3. クロスチェーンのつなぎ部が外側になるようチェーンをタイヤの前か後に敷きます。
●逆にするとタイヤを傷めます。
4. 先端のフックから30cm位になるまで車を移動させます。
5. チェーンをタイヤに巻きつけていっぱい引き、内側フック、外側フックの順に連結します。
6. 余ったチェーンを針金で固定し、車体に当たるのを防止します。
●内側と外側の余りが同数になるよう連結します。
7. チェーンバンドのクリップを外向きにし、円周をほぼ等分するようチェーンを張ります。
8. 少し走り、取り付け状態(ゆるみ、当たり)を確認します。



■ その他の取り付けかた

1. ジャッキアップして取り付ける方法
 2. スペアタイヤにチェーンを取り付け、タイヤを交換する方法
- 慣れないかたにお奨めします。作業がやりやすく、確実に取り付けられます。

■ タイヤチェーンを装着したときは

- ①30km/h以下で走行してください。
- ②急加速、急ブレーキ、急ハンドルはさけ、慎重に運転してください。
- ③乾いた道路を走行すると、タイヤチェーンの寿命を短かくします。できるだけさけてください。
- ④タイヤチェーンは前後方向には効果を発揮しますが、横方向には弱いので横すべりには気をつけましょう。

■ チェーンのはずしかた

チェーンバンドをはずし、針金をとって内側フックからはずすと、チェーンは外側にはずれます。車を少し動かしてチェーンを取り出します。

■ 使用後の手入れ

使用後は、水洗いして乾燥させ、防錆油を塗布して保管してください。
クロスチェーンが線径の半分近くまで摩耗すると寿命です。早めに、新品のタイヤチェーンを準備してください。

サービスデータ

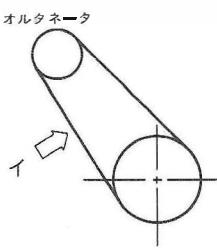
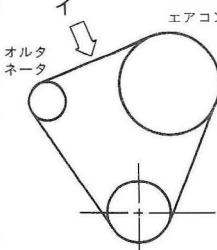
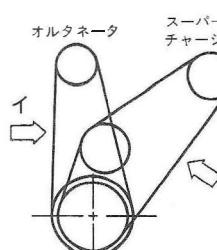
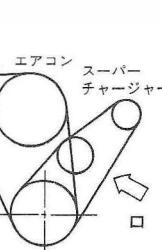
131

点火プラグ	交換時期	10,000kmごと
	指定プラグ	NGK: BKR6E-11、日本電装: K20PR-U11 BKR5E-11、K16PR-U11
	電極すき間(mm)	1.0~1.1
ブレーキペダル	遊び(mm)	1~3
	床板とのすき間(mm)	110以上
クラッチペダル	遊び(mm)	10~25
	床板とのすき間(mm)	110以上
ハンドブレーキレバーの引きしろ		7~9山(約20kgで引いたとき)
燃料タンク容量		約40ℓ(無鉛ガソリン使用)
バッテリー型式		26B17L-MF(12V-21AH) <寒冷地・4WD車> 38B20L-MF(12V-28AH)
	交換時期	10,000kmごと、または6か月ごと 5,000kmごと、または6か月ごと (スーパーチャージャー車)
エンジンオイル	使用オイル	スバルモーターオイル・レッド (SD級) ゴールド(SE級) HG (SE級)※ スーパー(SE級)※ 4WD (SF級)※
※印: 推奨オイル	規定量	約3.0ℓ ECVT車: 約3.1ℓ (オイルフィルタ含む)
マニュアルトランスミッションオイル	交換時期	40000kmごと
	使用オイル	スバルギヤオイル エクストラ-75/80
	規定量 (交換時)	2WD・5速車 約1.8ℓ セレクティブ4WD 約2.0ℓ 〃 (デフロックつき) 約2.1ℓ フルタイム4WD 約2.2ℓ
ECVTフルード	交換時期	40000kmごと、または2年ごと
	使用オイル	ECVTフルード
	規定量	2WD: 2.9~3.2ℓ 4WD: 3.8~4.1ℓ
エンジンのタイミングベルト	使用ベルト	専用タイミングベルト
	交換時期	100,000kmごと
エアクリーナエレメント	使用部品	純正エアクリーナエレメント
	交換時期	20,000kmごと、または1年ごと (どちらか早い方で実施)

サービスデータ

エンジンのオイル フィルター	使 用 部 品	純正オイルフィルター
	交 換 時 期	10,000kmごと
フ ュ ー エ ル フ ィ ル タ ー	使 用 部 品	純正フューエルフィルター
	交 換 時 期	20,000kmごと、または1年ごと (どちらか早い方で実施)
フロントデファレン シャルオイル	交 換 時 期	40,000kmごと
	使 用 オ イ ル	スバルギヤオイル・4WD 75W-80(GL-5) MP-S75W-90(GL-5) MP80 (GL-4)
	規 定 量	一般4WD車 : 0.8ℓ フリーアクスル付 : 0.9ℓ
スーパーチャージャー オイル	使 用 オ イ ル	MSCギヤオイル(昭和シェル石油製)
	規 定 量	35~40cc
冷 却 水	交 換 時 期	40,000kmごと、または2年ごと
	使 用 冷 却 水	スバルクーラント
	規 定 量	スーパーチャージャー車以外: 約5.0ℓ スーパーチャージャー車のみ: 約6.0ℓ

10kgで押したときのオルタネータベルトのたわみ量

一 般 車	一 般 車 エアコン付	ス უ პ ა რ ა ჟ ა რ ა ー 車	ス უ პ ა რ ა ჟ ა რ ა ー 車 エアコン付
			
3013	3014	3015	3016
イ 11~13mm	5 ~ 7 mm	7 ~ 9 mm	5 ~ 7 mm
ロ		6 ~ 8 mm	6 ~ 8 mm

注意

●新品ベルトを使用するときは、上記の下限の値に調整してください。

●表示している交換部品のほかに継続検査(車検)時に定期交換する部品もあります。

サービスデータ

133

〈タイヤ空気圧〉

(単位: kgf/cm²)

車種	タイヤサイズ	軽積載		定積載	
		前輪	後輪	前輪	後輪
トラック 350g積輪	KS3	5.00-12-4PR ULT	1.8	2.2	1.8
	KS4	145R12-6PR LT	1.8	2.2	2.2
バン パネルバン 350g積輪	KV3	5.00-12-4PR ULT(フロント) —6PR ULT(リヤ)	1.8	2.2	2.2
	KV4	145R12-6PR LT	1.8	2.2	3.0
ディアス 200kg積輪	KV3	145SR12	2.0	2.0	2.2
	KV4	155SR12	1.8	2.0	2.2

〈注意〉 軽積載とは2名+100kg以下のときを示す。

○印: 標準装備
△印: 装着可能

〈使用タイヤ〉

車種	タイヤサイズ	ホイール		
		12×4.00B スチール	← 8スポーク	← アルミ
トラック	赤帽、全農、 スーパーカスタム、 PS付、SC車、SDX	145R12-6PR LT	○	△
	上記以外	5.00-12-4PR LT	○	△
バン パネルバン	赤帽、NTT SC車 ハイカスタム	145R12-6PR LT	○	△
	上記以外	5.00-12-4PR ULT(フロント) —6PR ULT(リヤ)	○	△
ディアス	DIAS (DIAS4WDサン ルーフ車除く)	145SR12	○	△
	上記以外	155SR12	○	△

ア	アンテナ 69	・車両の後方に気をつけて 7
イ	ECVTセレクトインジケータ 41	・暖機運転 7
	ECVT車を運転するとき 8	エンスト 123
	ECVTの運転 52	オ
	・エンジン始動 53	追い越し合図 44
	・セレクトレバー 52	オイルプレッシャーランプ 40
	・走行 54	オドメーター 38
	・発進 53	オーバーヒートしたとき 122
	・駐・停車 54	オーバーヘッドシェルフ 78
	・電磁クラッチ温度警告灯 が点滅したとき 55	オルタネータベルトの点検 88, 98
	ECVT車はP位置で始動 7	カ
	一般走行するとき 10	回転シート 29
	・下り坂ではエンジンブレーキと併用 10	カセット一体型ラジオ 72
	・走行中はエンジンを止めないで 10	寒冷地の使いかた 125
	・水たまり走行や雨中走行するとき 10	・洗車 128
	・燃えやすい物の上は走らないで 10	・走行中の注意 127
ウ	ウインドウォッシャー液の補給 103	・走行前の点検 126
	ウォッシャータンク 46	・タイヤチェーン 128
	運転する前に 6	・駐車時の注意 128
	・運行前点検を 6	・冬に入る前の点検と準備 125
	・運転席の足元はすっきりと 6	ガードバーA 30
	・危険物の持ち込みはやめて 6	キ
	・シートベルトはしっかりと 6	キー 18
	・荷物を積むとき 6	キーインターロック 9
エ	エアコンスイッチ 64	ク
	エアコンの使い方 67	区間距離計 38
	エアコン冷媒(ガス)量の点検 108	車の手入れ 85
	エンジンオイルの補給 101	・運行前点検 85
	エンジンオイルの量 88, 97	・簡単な整備 99
	エンジン回転計 38	・定期点検 91
	エンジンスイッチ 49	・点検と整備 85
	エンジン始動・停止 50	車の手入れ 109
	・エンジン始動 51	・車の保管 112
	・エンジン停止 51	・洗車 109
	・始動前の安全確認 50	・内装の手入れ 111
	エンジンフード 25	・ワックス掛け 110
	エンジンを始動するとき 7	車のトラブルを避けるため 15
	・ECVT車はPレンジで始動 7	・オプション部品を取り付けるとき 15
	・換気に気をつけて 7	

・自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わない	14
・純正部品を使いましょう	15
・無線装置を取り付けるとき	15
・4WD車について	14
車への心づかい	14
・経済的な運転	14
・クラッチペダルの足のせ運転はやめて	14
・新車点検	14
・適切な速度範囲	14
・慣らし運転	14
・無鉛ガソリンを	14
クラッチの床板とすき間	96
クラッチペダルの遊び	95
グローブボックス	78
・車検証入れ	78

ケ けん引	119
けん引フック	119

コ 工具	113
後写鏡の点検	90
高速走行するとき	11
・運行前点検を	11
・故障したとき	11
・車間距離は十分に	11
・横風に注意	11
子供を乗せるとき	12
・おとなと一緒にリヤシートに	12
・車から離れるときは一緒に	12
・ドアの開閉に注意して	12
・窓から顔や手を出さないで	12
こんなときには	16

サ サイドポケット	78
作業灯スイッチ	47
サンサンルーフ	82
・サンルーフを開閉するとき	83
・フロントサンシェード	82
・フロントサンルーフ	82
・リヤサンシェード	83
・リヤサンルーフ	83
サンバイザー	79

シ シガーライター	77
シートベルト	33
シフトロックシステムについて	7,9
・キーインターロック	9
・シフトロック	9
・シフトロック解除ボタン	9
・リバース位置警報	9
車検証入れ	78
集中ドアロック	19
ジャッキ＆ジャッキハンドル	114
充電警告灯	40
純正部品を使いましょう	15

ス 水温計	39
スライド調整	27
スライドドア	19,20
スライドドアのウインドウ	20
スリップサイン	88
スピードメーター	38
スペアタイヤ	115

セ 背当ての前倒し	28
整備手帳	4
積算距離計	38
セレクティブ4WD	56
セレクトレバーの操作	52

ソ 速度計	38
ソフトフラット	31

タ タイトコーナーブレーキング現象	59
タイヤ交換(パンク)	117
タイヤチェーン	128
タイヤのき裂、損傷、金属片、石、 その他の異物	95
タイヤの点検	87
タイヤの溝の深さ	95
タイヤローテーション(タイヤの位置交換)	107
タコメーター	38

チ	チェックエンジンランプ 41 チエンジレバーの操作 50 チャージランプ 40 駐・停車するとき 13 ・いきなり開けないで 13 ・エンジンルームファンが作動しています 13 ・仮眠するときは必ずエンジンを止めて 13 ・車から離れるときは 13 ・坂道に駐車するときは 13
テ	定期点検整備記録簿 92 電球(バルブ)の交換 104 電磁クラッチ温度警告灯 42 デフロック作動表示灯 42
ト	灯火装置、方向指示器の作用 98 灯火装置、方向指示器の点検 87 トラックのゲートの開閉 24 トリップカウンター 38 ドアの開閉 18 ・集中ドアロック 19 ・スライドドア(ディアス、バン) 19 ・スライドドア(パネルバン) 20 ・フロントドア 18
ナ	内装の手入れ 111 慣らし走行 14
ニ	荷物を積むとき 6
ネ	燃料計 38 燃料の量の点検 89 燃料補給口 22
ハ	排気温度警告灯 40 灰皿 77 発炎筒について 123 跳ね上げシート 28 ハンドブレーキの点検 90 ハンドブレーキレバー 50 ハンドブレーキレバーの引きしろ 94 反射器、ナンバープレートの点検 87 ハザードランプスイッチ 47
ヒ	バッテリー上がり 124 バッテリー液の補給 100 バッテリー液量 96 バッテリーターミナルの消掃 101 パッシング 44 パンク 117
フ	非常点滅灯スイッチ 47 ヒーター・エアコン 63 ・エアコンスイッチ 64 ・エアコンの使いかた 67 ・ヒーターの使いかた 65 ・フロントヒーター 63 ・リヤヒーター 65 ヒューズ交換 121 ・メインヒューズ 121
	踏切でエンストしたとき 123 フリーホイールアクスル 58 フルタイム4WD 60 フロントウォッシャー 45 フロントサンシェード 82 フロントサンルーフ 82 フロントシート 27 ・回転シート 29 ・スライド調整 27 ・背当ての前倒し 28 ・跳ね上げシート 28 ・フラットシート 28 ・ヘッドレストの脱着 27 ・リクライニング調整 27 フロントシートベルト 33 フロントドア 18 フロントヒーター 63 フロントワイパー 45 フューエルメーター 38 ブレーキ液の補給 100 ブレーキ液量の点検 90, 94 ブレーキ警告灯 40 ブレーキのきき具合 93 ブレーキの点検 90 ブレーキペダルの 床板とのすき間 93

ブレーキペダルの遊び 93
 ブレーキホース、パイプのもれ、損傷、
 取り付け状態 94

ヘ ヘッドライト上向き表示灯 39
 ヘッドライトの切り替え 44
 ヘッドレストの脱着 27

ホ 方向指示器表示灯 39
 方向指示レバー 44
 防眩式ルームミラー 35

ミ ミストスイッチ 45
 オウターミラー 35
 ルームミラー 35

ム 無線機を取り付けるとき 15

メ メインヒューズ 121
 メーターの見かた 36

ユ 油圧警告灯 40

ヨ 横風に注意 11
 4WDセレクトインジケーター 41
 4WD車について 14
 4WD車の運転 56
 • セレクティブ4WD 56
 • タイトコーナーブレーキング現象 59
 • フリーホイールアクスル 58
 • フルタイム4WD 60
 • 4WD-ELレンジの切り替え 56
 • 4WD車を使用するときは 61
 • リヤデファレンシャルロック 57

ラ ライティン gsイッチ 44
 • 追い越し合図 44
 • ヘッドライトの切り替え 44
 ラジオ 69
 • アンテナ 69
 • AM電子チューニングラジオ 70
 • カセット一体型ラジオ 72

リ リクライニング調整 27
 リヤウインドウテフォッガー作動表示灯 39
 リヤデファレンシャルロック 57
 リヤサンシェード 83
 リヤサンルーフ 83
 リヤシート 30
 • セパレートシート 30
 • ソフトフラット 31
 • ベンチシート 32
 リヤトレー 79
 リヤヒーター 65
 リヤワイパー・ウォッシャー 45
 リヤゲートの開閉 22
 リヤデフォッガスイッチ 47
 リバース位置警報 9

ル ルームランプスイッチ 80

レ 冷却水の補給 102
 冷却装置の点検 89
 • 水もれ 89
 • 冷却水の量 89, 97

ワ ワイパー・ウォッシャースイッチ 45
 • フロントワイパー 45
 • ミストスイッチ 45
 • フロントウォッシャー 45
 • リヤワイパー・ウォッシャー 45
 • ウォッシャータンク 46
 ワイパー、ウォッシャーを使うとき 46
 ワイパープレードの交換 106

禁複製・転載

—— 非 壳 品 ——

編 集・発 行 **富士重工業株式会社**
国内営業本部国内サービス部

お問い合わせ、ご相談はお近くのスバル販売店
または、富士重工のお客様相談室へお願ひい
たします。

富士重工業株 国内営業本部 お客様相談室
〒160 新宿区西新宿1-7-2(スバルビル)
☎ 03-3347-2626

お問い合わせ、ご相談はお近くのスバル販売店
または、富士重工のお客様相談室へお願いい
たします。

富士重工業(株) 国内営業本部 お客様相談室
〒160 新宿区西新宿1-7-2(スバルビル)

☎ 03-3347-2626



富士重工業株式会社

Publication
No. A7291A

発行 1993年2月
Printed in Japan D-14